

**「オフィスワーカーから見た、オフィス環境ニーズのトレンド」
を採るための調査の実施と、分析結果を踏まえた提言・提案**

ワーカーアンケート集計・分析結果報告

2017年3月

一般社団法人 日本オフィス家具協会
顧客政策委員会

目 次

I 調査の概要

1.調査の目的	06
2.調査・分析のフレームワーク	06
3.調査実施概要	07
3-1 調査の方法	
3-2 調査実施概要	
3-3 回答者の主な属性	

II 調査結果

1.調査により得られた事実と課題の概要	08
2.オフィス環境に対する満足度と期待	12
・ オフィス環境に対する満足度	
・ オフィスに対する期待	
3.現状オフィスにおける課題	14
3-1オフィスのスペースやレイアウトに関する課題	14
・ オフィスのスペースやレイアウトに関する重要度・達成度 肯定的回答者比率の比較	
・ 属性別にみた重要度評価の特徴	
3-2オフィスの家具やツールに関する課題	15
・ オフィスの家具やツールに関する重要度・達成度 肯定的回答者比率の比較	
・ 属性別にみた重要度評価の特徴	
3-3オフィスの利便性や効率性に関する課題	16
・ オフィスの利便性や効率性に関する重要度・達成度 肯定的回答者比率の比較	
・ 属性別にみた重要度評価の特徴	
3-4オフィスの安全性や快適性に関する課題	17
・ オフィスの安全性や快適性に関する重要度・達成度 肯定的回答者比率の比較	
・ 属性別にみた重要度評価の特徴	
4.共感するオフィス像	18
4-1共感するオフィス像と現状オフィスの実態	18
・ 共感するオフィス像と現状オフィスの実態	
・ 属性別にみた特徴	
4-2オフィスへの期待感と共感するオフィス像	19

5.成果・意欲・価値観	21
5-1成果・意欲の発揮状況	21
・目標達成への貢献、創造性や意欲の発揮状況	
・属性別にみた特徴	
5-2仕事に対する価値観とその実現度	22
・仕事に対する価値観とその実現度	
・属性別にみた特徴	
6.成果・意欲を発揮しているオフィス	23
6-1成果・意欲を発揮しているオフィス像	23
6-2成果・意欲を発揮しているオフィスの特徴	25
・オフィスのスペースやレイアウト	
・オフィスの家具やツール	
・オフィスの利便性や効率性	
・オフィスの安全性や快適性	
6-3価値観を実現しているオフィス像	30
6-4価値観を実現しているオフィスの特徴	32
・オフィスのスペースやレイアウト	
・オフィスの家具やツール	
・オフィスの利便性や効率性	
・オフィスの安全性や快適性	
7.成果・意欲を発揮するためのオフィス	37
7-1成果・意欲を発揮しているワーカーのオフィスに対する期待感	37
7-2成果・意欲を発揮するためのオフィス像	38
7-3成果・意欲を発揮するためのオフィス性能	40
・オフィスのスペースやレイアウト	
・オフィスの家具やツール	
・オフィスの利便性や効率性	
・オフィスの安全性や快適性	
7-4価値観を実現するためのオフィス像	42
7-5価値観を実現するためのオフィス性能	43
・オフィスのスペースやレイアウト	
・オフィスの家具やツール	
・オフィスの利便性や効率性	
・オフィスの安全性や快適性	
8.ワークスタイル	45
8-1共感するこれからの働き方	45
8-2成果・意欲を発揮しているワーカーの共感する働き方	46

9.オフィス運用の状況	・・・・・・・・・・	47
・ オフィスにおける健康行動の実態 ・ 自席の運用状況と利用実態 ・ テレワーク運用状況と利用実態 ・ フレックスタイム運用状況と利用実態 ・ 時短制度運用状況と利用実態 ・ オフィスでの勤務時間		
Ⅲ オフィスに対するワーカーニーズと経営への貢献につながる解決課題	・・・・・・・・	50
1.留意すべきキーワード	・・・・・・・・	50
2.オフィスに対するワーカーニーズと経営への貢献につながる解決課題	・・・・・・・・	52
・ 共感するオフィス像 ・ オフィスのスペースやレイアウトに関する課題 ・ 家具やツールに対する期待 ・ 目標達成、創造性発揮、意欲的な取組みをサポートする家具やツール ・ 価値観を実現する家具やツール ・ 家具やツールからみた経営への貢献に繋がる課題解決 ・ 家具に対する満足度 ・ オフィスの利便性、快適性向上のための留意点 ・ オフィス環境に対する期待 ・ 目標達成、創造性発揮、意欲的な取組みを実現するオフィス環境 ・ 価値観を実現するオフィス環境 ・ オフィス環境を見直す視点 ・ 創造性の発揮を喚起する継続的な活動の必要性		

おわりに

I 調査の概要

1.調査の目的

一般社団法人 日本オフィス家具協会では、2012年に企業の経営層に対し、オフィスに関する考え方や満足度を分析するためのアンケート調査を行い、「経営層が重視する投資項目は、人材育成投資」であること、「オフィスに関する支出は投資」であることを明らかにした。これらの調査結果を踏まえ、2014年には、日経ニューオフィス賞受賞企業に対し、インタビュー調査を行い、その結果から、「経営層が共感できるオフィス投資の効果」を明示した。

本調査では、2012年、2014年の調査結果を踏まえ、

- ①「ワーカーは、どのような「働き方、オフィス」で働きたいと思っているのか」
- ②「今、改善・改革（のために投資）すべきオフィス環境の課題は何か」
- ③「改善・改革（投資）を行うことで、どのような効果を得ることができるのか」

をワーカーの目線から明らかにし、効果的なオフィスへの投資を行うための、今後のオフィス環境改善の重要要件を明らかにすると共に、オフィスに対するワーカーニーズと、ワークスタイル・ワークプレイス変革に向けた提言を行い、ワーカーが個々の能力を発揮でき、意欲的に、積極的に成果を生み出し、企業業績向上に貢献するワークプレイスづくりや、やりがいや達成感を得ることのできる、心身ともに健康的に働くことができるワークプレイスづくりに寄与することを目的としている。

2.調査・分析のフレームワーク

図 I.2.1の調査・分析のフレームワークに基き、質問項目を策定、調査結果の分析を行った。

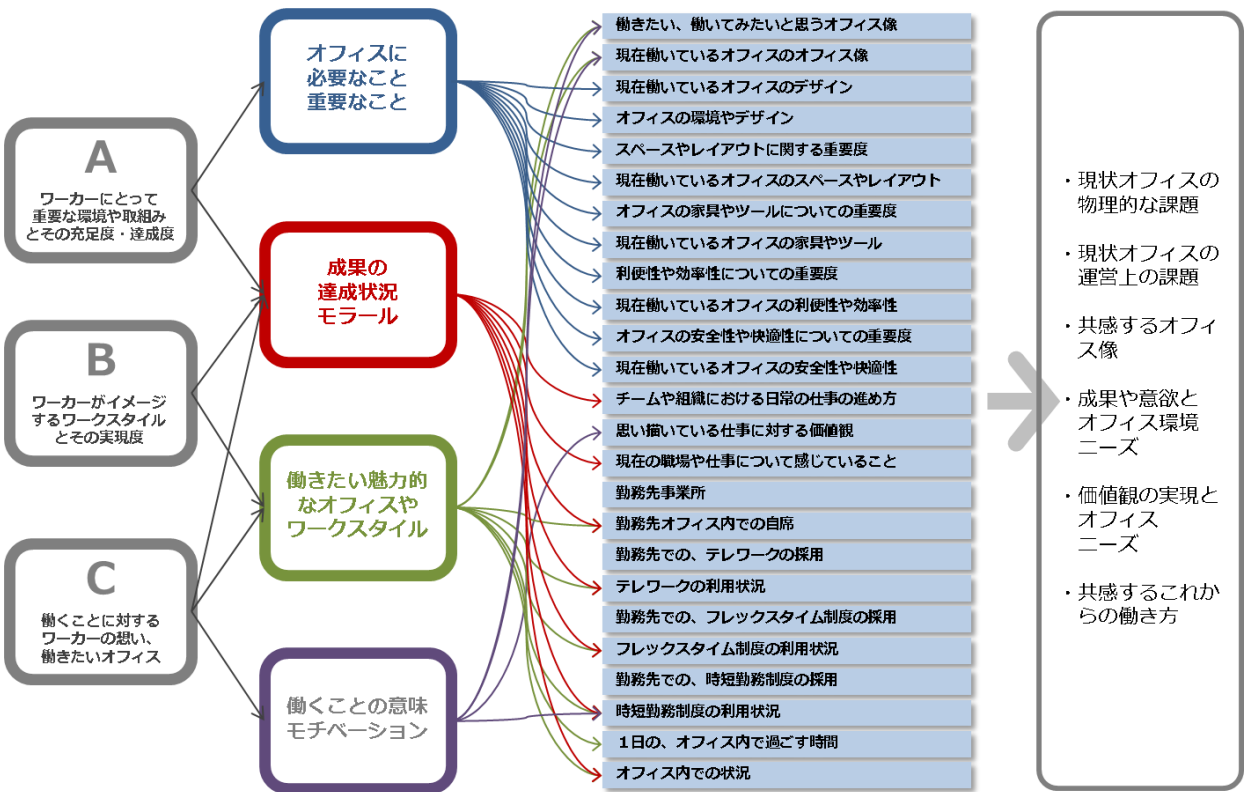


図 I.2.1 調査・分析のフレームワーク

3.調査実施概要

3.1調査の方法

一般社団法人 日本オフィス家具協会が、インターネット調査にて実施した。
調査対象は、首都圏に存する事業所に勤務するワーカーとし、25設問139項目に対する回答を依頼した。
設問については、巻末に記載する「アンケート設問」を参照のこと。

3.2調査実施概要

調査は2016年7月に実施し、3316の有効回答を得た。調査概要は図 I.3.1に示すとおりである。

調査実施概要	
調査期間	2016/07/12 ～ 2016/07/14
調査依頼数	4,913
有効回答数	3,316
有効回答率	67.5%
回答時間	平均59:19、中央値11:07

図 I.3.1 調査の実施概要

3.3回答者の主な属性

有効回答3316の、主な回答者属性は図 I.3.2に示すとおりである。

性別	度数	%	職種	度数	%	勤務先事業所	度数	%
TOTAL	3316	100.0	TOTAL	3316	100.0	TOTAL	3316	100.0
男性	2464	74.3	営業系	818	24.7	本社および本社関連の事務所	1896	57.2
女性	852	25.7	事務系	1151	34.7	支社支店、営業所等の出先事務所	826	24.9
年齢階層	度数	%	企画系	149	4.5	工場などの事務所に勤務	194	5.9
TOTAL	3316	100.0	専門職系	1198	36.1	店舗などの事務所に勤務	128	3.9
20-29歳	514	15.5	オフィス内勤務時間	度数	%	上記以外	272	8.2
30-39歳	677	20.4	TOTAL	3316	100.0	事業所人員規模	度数	%
40-49歳	715	21.6	勤務時間の25%未満	295	8.9	TOTAL	3316	100.0
50-59歳	723	21.8	勤務時間の25%以上～50%未満	501	15.1	50名以下	909	27.4
60-69歳	655	19.8	勤務時間の50%以上～75%未満	421	12.7	51名～100名	301	9.1
70歳以上	32	1.0	勤務時間の75%以上	2099	63.3	101名～500名	625	18.8
役職	度数	%	オフィス内で勤務する時間なし	0	0.0	501名～1000名	309	9.3
TOTAL	3316	100.0	勤務先業種	度数	%	1001名～5000名	529	16.0
経営者	172	5.2	TOTAL	3316	100.0	5001名以上	643	19.4
役員	104	3.1	建設業	318	9.6	わからない	0	0.0
部長クラス	317	9.6	製造業	816	24.6	企業創業年数	度数	%
課長クラス	448	13.5	電気・ガス	46	1.4	TOTAL	3316	100.0
係長クラス	404	12.2	運輸業	183	5.5	5年以下	265	8.0
一般社員	1463	44.1	情報通信業	588	17.7	6～10年	307	9.3
契約社員	292	8.8	商業	126	3.8	11～30年	918	27.7
派遣社員	116	3.5	金融・保険業	421	12.7	31～50年	640	19.3
上記以外	0	0.0	不動産業	214	6.5	51～100年	833	25.1
			サービス業	604	18.2	101年以上	353	10.6
			上記以外	0	0.0	事業所所持地	度数	%
						TOTAL	3316	100.0
						埼玉	358	10.8
						千葉	292	8.8
						東京	2046	61.7
						神奈川	620	18.7

図 I.3.2 回答者の属性

Ⅱ 調査結果

1.調査により得られた事実と課題の概要

1.1調査結果により明らかになった認識すべき事項

クリエイティブ・オフィス運動が始まって10年が経過しようとする現在、そうしたオフィスづくりに対する提案手法は当業界内で定着した感がある。昨今ではクリエイティビティをさらに高めることを目的として「オープン・イノベーション」や「働き方改革」といったキーワードが盛んに使われるようになっている。

しかしながら、今回の調査の結果を見ると、新たな価値を生み出すための方策ではなく、既存の価値を使う仕事を効率的に行いたい、今より楽になりたい、もっと快適な状態で働きたい、といったきわめてプリミティブな事項を要求する回答者が多くを占めていたとみることもできる。

「クリエイティブ・オフィス」にせよ「オープン・イノベーション」にせよ、現時点でこれらは、先端を行く企業、あるいはごく限られた職種の働き手に対してのみ有効なソリューションではないか、と捉えることができることを調査結果は指し示している。

世の多くのオフィスの実情を認識し、課題を踏まえ、課題解決のための提案・提言を、継続的に行っていくことと合わせ、時代の要請である働き方の変革のあり方を、ワーカー目線から検証していく必要があることを再認識させられた。

以下は、本調査によって抽出された事実と課題の概要である。

①オフィスに対する満足度・期待

「オフィス環境（家具や内装）に対する満足度は極めて低い」（家具に対する満足側の評価：14.5%）→P12

現状のオフィス家具やオフィスの内装に対する満足度評価は、極めて低い。オフィス環境が、自社のオリジナリティを表出していない現状もうかがえる。

「オフィス環境は、仕事の成果や仕事に対するモチベーション向上に影響を与える」（71.4%が回答）→P13

多くのワーカーが、オフィス環境が仕事の成果や仕事に対するモチベーション向上に影響すると認識しており、オフィス環境改善の適正な施策により、オフィス環境に対する満足度を向上することで、仕事に対するモチベーションを高め、仕事の成果向上に結びつけることに寄与できるものと考えられる。

②現状オフィスにおける課題

「個人業務の効率性を上げるスペースやレイアウトをワーカーは重要視している」→P14

集中度・広さ・使いやすさの評価が高く、イノベーションを起因するといわれるメンバーとの関係性項目においては、会議室等の具体的な機能空間は高いが、インフォーマルなもの、グループワークを促進するといった項目の評価は低い。

「効果の得やすいモノや身体に触れるモノについてワーカーは注視している」→P15

机/イスといった普段から触れている家具については重要度は高いものの満足度が低いことから、適切な製品の提供により満足度を高めることが出来ると推測される。

「私物の端末を活用したBYOD(Bring Your Own Device)の認識は極めて低い」→P16

現実的には業務用途で個人のスマートフォンを使用したり、何かの調べものをしたりという行動はすでに「個人用途・業務用途」が混在しているのが実態であるが、BYODに関する認識の低さが特徴的である。

「安全性や快適性は重要だと認識されているが、これらへの対策は十分に施されていない」→P17

安全性及び快適性に関する項目には総じて高い重要性を認識しているが、その対策の実現度は低い。また、オフィスにおける、ダイバーシティへの対策の必要性が一般にはまだ浸透していないことがうかがえる。

③共感するオフィス像

「心身ともに健康的に働く（60%）・仕事楽しく感じられる・一体感・仕事のしやすさ」→P18～20

オフィスにおける一体感の醸成といった旧来からの環境改善テーマに加え、健康や楽しさといった観点からの環境づくりが、ワーカー目線からも必要となっている。

「社員が健康的に働けるオフィス」「仕事をするのが、楽しく感じられるオフィス」「働きやすいオフィス」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス」「メンバー相互の、信頼関係や協力関係のあるオフィス」「仕事に集中できるオフィス」であることは、「仕事の成果をあげること、仕事に対するモチベーションを向上させること」に寄与するものと類推できる。

④成果・意欲・価値観

「創造性を発揮していると感じているワーカーはまだまだ少ない」（発揮しているワーカー30%）→P21

目標達成への貢献、創造性の発揮、意欲的な取り組みを実現できているワーカーは半数に満たない。どのようなオフィス環境・運用上の工夫が、ワーカーの行動変革に寄与するのかを明らかにすることが重要である。

「仕事を通じたやりがいや充実感を求めているが、現実にはギャップがある」（実現できている：4割弱）→P22

共感する価値観の上位は、「仕事を通じて、やりがいや充実感を感じている」「仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある」「仕事による成功や達成感を、仲間と共有している」である。

仕事を通じてやりがいや充実感を感じることを求めているワーカーは多いが、それを十分に実現できていないという現状が見える。

⑤目標達成・創造性発揮・意欲的取り組みを実現しているオフィス

「キーワードは、信頼関係・一体感・仕事楽しく感じられる・安心安全」→P23,24

意欲的に業務に取り組み、創造性を発揮させ、チームや組織の成果の達成に貢献していく上で、オフィス環境の果たす役割は小さくはない。

現状オフィスの評価結果からみると、成果の達成、創造性の発揮、意欲的な取り組みを支援する環境要件は、安心して働ける安全性という基本的な性能を有し、メンバー相互が信頼や協力関係のもと、一体感を感じながら働くことのできるオフィスということである。

「オフィス環境はワーカーやチームの成果や意欲、創造性の発揮に影響を与える」→P25～29

成果や意欲、創造性を発揮しているワーカーやチームのオフィスは、スペースやレイアウト、家具やツール、利便性・効率性、安全性・快適性において、彼らの活動をサポートする施策や配慮が行われている。

オフィスにおける家具やツールの装備状況、利便性や効率性への配慮を基本的な性能とし、気軽なコミュニケーションと集中して仕事をするための工夫が行われていることが重要であり、更にこれからは、積極的なグループワークのための場の用意や、ダイバシティ、心身の健康面への配慮が求められている。

⑥価値観を実現しているオフィス像

「信頼関係・一体感・働きやすさ」→P30～36

オフィス環境そのものにより、達成感の共有や信頼関係の醸成、やりがいや充実感の獲得を提供することはできないが、それらを実現しやすい環境やツールのセッティング、運用面のケアのためのしくみといった観点から、さまざまなサポートはできる。

オフィス環境は、共感する仕事に対する価値観として高い支持を得た上位3項目「仕事による成功や達成感を、仲間と共有する。」「仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある。」「仕事を通じて、やりがいや充実感を感じる」の実現に少なからず影響を与えている。安心して働ける安全性という基本的な性能を有し、メンバー相互が信頼や協力関係のもと、一体感を感じながら働くことのできるオフィスづくりがその一例である。そこでの活動では、価値観が共有され、同一の目標に向かうことで、より高い成果を生み出すことが可能となる。

価値観を実現するオフィスでは、家具やツールの適正な装備、利便性や効率性への配慮などの基本的な性能を有し、気軽なコミュニケーションと集中して仕事をするための工夫が行われている。更にこれからは、積極的なグループワークのための場の用意や、ダイバシティ、心身の健康面への配慮が求められているといえ、成果・意欲を発揮しているオフィスの特徴と同様である。

⑦ 成果・意欲を発揮するためのオフィスづくりの視点、価値観を実現するためのオフィスづくりの視点

「価値観が満たされることが、創造性や成果の発揮につながっていく」→P37,42～44

「心身ともに健康的に働く・一体感・楽しさ」→P38～41

「社員が健康的に働ける」「社員同士が一体感を感じながら働ける」「仕事をするのが楽しく感じられる」といったオフィスへの環境改善が、仕事に対する意欲的な取り組みや、その結果としての目標達成への貢献に、強く影響するものと考えられる。その前提は「仕事に集中できる」「働きやすい」オフィスという、基本的な要件が実現されていることである。

⑧ 共感するこれからの働き方

「働き方変革への期待 ～ ABW 」→P45

4割（選択肢の中で最大の支持率）を超えるワーカーが「仕事の成果を重視し、働く場所や時間に縛られずに働くことができる」ことに共感し、魅力を感じている。仕事の成果を達成するために、働き方を変えたいという、潜在的なニーズがあるものと思われる。また、「勤務時間の制約が無く、生活とのバランスをとりながら働くことができる」についても、4割弱のワーカーが選択。ワークライフバランスを同時に考慮した働き方の変革を考えていく必要がある。

「オフィスにおける健康問題はワーカーにも経営層にも重要なテーマ」→P45～46

「意欲的なチーム・組織は、健康やワークライフバランスに対する意識も高い」

ワーカーにとって生活時間の大半を過ごすオフィスでの健康問題は非常に関心の高いテーマであり、健康経営などの課題と相俟って経営層にとっても今後ますます重要視されることと思われる。

目標達成に意欲的に取り組み、チームや組織に貢献的な取り組みをしている人は健康やワークライフバランスなどに対する意識も高いことがうかがえる。

⑨ オフィスにおける健康行動

「健康に対する意識が高くても行動が伴っておらず、積極的な仕掛けが必要」→P47

ワーカーの健康に対する意識は高い。しかしながら、日常の活動において、健康を意識して行動しているとはいえず、また、調査結果は、長時間座り続けている実態を示している。

目標達成に意欲的に取り組み、チームや組織に貢献的な取り組みをしているワーカーでは、オフィスにおいて健康行動をとっているワーカーの比率が高く、成果や意欲にとって、積極的に体を動かすことが良い影響を及ぼしていることが推測される。

1.2 オフィスに対するワーカーニーズと経営への貢献につながる解決課題 →P52～55

- ワーカーにとって共感するオフィス像とは、組織としての目的を共有することで一体感や信頼関係があり、人と人との交流が活発に行われ快適で、自然と歩き回りたくなるような仕掛けにあふれた働きやすい空間。なによりそこで働くことが楽しく感じられ、自分自身が成長していると実感できるオフィスであるといえる。
- 安心・安全で健康的かつ楽しく働きやすい環境を整備することが、仕事に対するモチベーションアップに繋がり、結果仕事の成果をあげることになる。健康を強く意識したオフィスの環境整備及び家具什器への積極的な投資は、最終的に企業の業績向上に繋がるものであると同時に、企業イメージの向上、ブランディング効果も期待される。
- 価値創造を達成しているワーカーは、オフィスでの情報共有のスピード、深さを重要視する傾向がみられ、達成していないワーカーとのギャップも大きく、コミュニケーションマネジメントの有効性がある意味、証明されたといえる。価値創造の入り口であるインフォーマルコミュニケーションを実現する場ができていないともいえ、オフィスの設計に課題があると考察できる。また、健康が成果に相関するとワーカーも認識しており、業務に直接結びつく環境整備と合わせ、業務以外でのワーカーの満足度充足をどうするか、重要性が高く評価される組織でのインフォーマルコミュニケーションのための環境整備を、どのように構築するかが論点といえる。
- 基本性能としての家具やツールのレベルを担保しつつ、継続的に改善・改良を行うことが重要であり、自社に見合った基本性能を満たした家具やツールを導入することが、経営に貢献すると理解すべきである。また、BYODの導入を積極的に検討する事を働きかける事が企業全体のセキュリティ問題がないかを見直すきっかけになり、ひいては経営への貢献の一端になる。
- オフィス環境以外にも多くの要因はあるものの、オフィス環境の状態が、仕事に対する意欲や成果に何らかの影響を与えているものと考えられ、オフィスへの期待と共感するオフィス像から、「社員が健康的に働けるオフィス」「仕事をすることが、楽しく感じられるオフィス」「働きやすいオフィス」がオフィス環境整備上の重要なテーマである。
- 安全で安心して働け、仕事がやりやすいという基本的な性能を有し、メンバー相互が信頼や協力関係のもと、一体感を感じながら働くことのできるオフィスといったものが、目標達成、創造性発揮、意欲的な取り組みを実現し、共通する価値観を実現するオフィス環境のひとつの姿である。
- それぞれの企業、オフィスにより具体的な改善施策に違いはあるが、「安全・安心で働きやすいのか」「信頼関係・一体感は醸成されるのか」「健康的に働けるのか」「仕事を楽しく感じながら働けるのか」が、今後のオフィス環境（への投資）の重要な視点であり、現状のオフィス環境を見直す視点である。

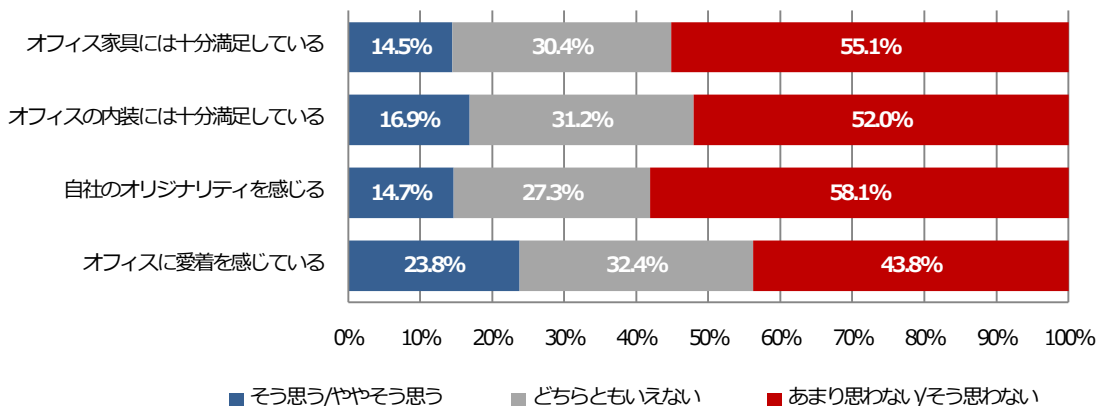
2.オフィス環境に対する満足度、期待（Q3、Q4）

オフィス環境に対する満足度

「オフィス環境（家具や内装）に対する満足度は極めて低い」

図Ⅱ.2.1に示すとおり、現状のオフィス家具やオフィスの内装に対する満足度評価は、極めて低い。オフィス環境が、自社のオリジナリティを表出していない現状もうかがえる。現状のオフィスに対する愛着は、他の評価項目に比べ肯定的評価者の割合がやや高いものの、3/4以上が愛着を感じていないのが実態である。また、経営層とワーカーとの評価の差異、年齢階層による評価の差異がある。

オフィスの満足度に対する評価を低くしている要因を探ることで、オフィス環境の改善課題を明らかにすることができるものと思われる。



図Ⅱ.2.1 現状のオフィスに対する満足度

属性別にみた特徴

家具に対する満足度

- ・フリーアドレス運用のワーカーの評価が比較的高い（21パーセントが満足寄りの評価）
- ・経営者、役員とワーカーとでは評価に差異がある（経営者・役員の満足寄りの評価者25%・22%程度、契約・派遣を除くワーカー11~15%）
- ・若年齢層、高年齢層の評価は比較的高い（29歳以下21%程度、70歳以上34%強）

内装に対する満足度評価

- ・フリーアドレス、グループアドレス運用のワーカーの評価は比較的高い（20~25%が満足寄りの評価）
- ・企画系部門のワーカーの評価は比較的高い（20%程度が満足寄りの評価）
- ・経営者、役員とワーカーとでは評価に差異がある（経営者・役員の満足寄りの評価者25%程度、契約・派遣を除くワーカー14~17%）
- ・若年齢層、高年齢層の評価は比較的高い（29歳以下26%程度、70歳以上40%強）

オリジナリティ

- ・経営者、役員とワーカーとでは評価に差異がある（経営者・役員の満足寄りの評価者36%・24%程度、契約・派遣を除くワーカー10~16%程度）
- ・70歳以上の肯定的評価者は半数近く

オフィスへの愛着

- ・50名以下の小規模オフィスでの評価が高い（32%が満足寄りの評価）
- ・経営者、役員とワーカーとでは評価に差異がある（経営者・役員の満足寄りの評価者50%近く・40%程度、契約・派遣を除くワーカー19~28%程度）
- ・70歳以上の肯定的評価者は60パーセント弱

* 70歳以上のサンプル数：n=32

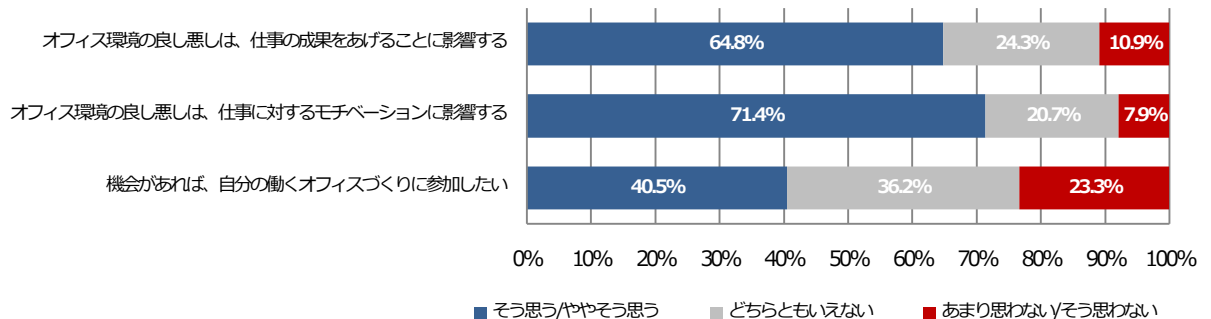
オフィス環境に対する期待

「オフィス環境は、仕事の成果や仕事に対するモチベーション向上に影響を与える」

図Ⅱ.2.2に示すとおり、多くのワーカーが、オフィス環境が仕事の成果や仕事に対するモチベーション向上に影響すると認識している。

前頁に示した、現状のオフィスに対する満足度の低さと合わせて考えると、適正な施策によりオフィス環境に対する満足度を向上することで、仕事に対するモチベーションを高め、仕事の成果向上に結びつけることに寄与できるものと考えられる。

属性別の評価結果に、大きな差異はないが、女性ワーカーや若年層の能力発揮を考慮したオフィス環境改善は、より効果的であるものと考えられる。また、経営者の肯定的評価者比率が低いことが懸念される。



図Ⅱ.2.2 オフィス環境に対する期待

属性別にみた特徴

仕事の成果向上

- ・ 企画系の職種では、他の職種に比べ肯定的評価者の割合が若干高い（企画系職種の肯定的評価者70%程）
- ・ 29歳以下の若年層では、他の年齢層に比べ肯定的評価者の割合が若干高い（20-29歳の肯定的評価者70%程）

仕事に対するモチベーション

- ・ 男性に比べ、女性の肯定的評価者の割合が高い（女性：80%弱、男性70%弱）
- ・ 経営者の肯定的評価者の割合は他に比べて低く62%程度

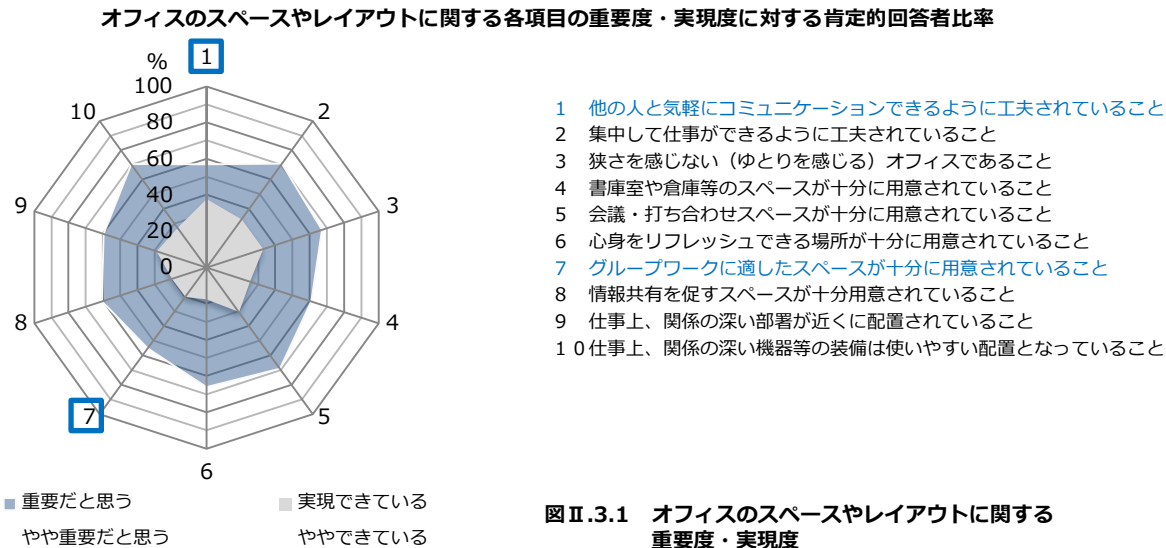
3.現状オフィスにおける課題

3.1オフィスのスペースやレイアウトに関する課題（Q5×Q6）

「個人業務の効率性を上げるスペースやレイアウトをワーカーは重要視している」

設問は大きく組織・個人的属性に大別され、重要度は個人的項目のスコアが高い。特に集中度・広さ・使いやすさの項目が高い。一方イノベーションを起因するといわれるメンバーとの関係性項目においては、会議室等の具体的な機能空間は高いが、インフォーマルなもの、グループワークを促進するといった設問（1.7）が低く、これらからワーカーは個人業務の効率性の向上を望んでいると仮定出来る。

実現度についてもより具体的なスペース（会議室等）はスコアが高いがインフォーマルなもの、グループワークを促進するといった項目は低い。またリフレッシュなど、業務への結びつけが難しいスペースのギャップが大きくなっている。



属性別にみた特徴

コミュニケーションの観点

- ・現場に近い（係長・一般）層ほど重要と考察しており中間管理職が続く。経営者のスコアは低い。
- ・レイアウト、スペースでのコミュニケーション促進は、現場においては、毎日の業務を通じ理解されているが、経営者が具体的な判断を下すエビデンス（コミュニケーションと価値創造の相関エビデンス）が足りていないかもしれない。
- ・業種では企画系が多く、職種では製造が多い。業務でイノベーションが強く望まれる業種はこの傾向が強い。
- ・人数規模は500名を超えると顕著に重要度が増えてくる。

業務効率の観点

- ・現場に近い（一般・係長）層の重要度は高い。経営者・役員もスコアは高くオフィスレイアウト・スペースの経営指標との相関について興味が高い。業務を行う上では3（スペース）に対するギャップも大きい。
- ・この設問についてはフリーアドレスも固定席もせまいとの回答であり、オフィス面積課題への解決策でのフリーアドレスの有り方が問われている。また500名以上のオフィスはからスペースに対する重要度が上がっていることからモジュール設計の有り方が問われていると仮定できる。

包括的観点

- ・重要度、実現度の両方が高かったのは電気、ガス業界で、製造業を上回った事はイノベーションの必要性を表しているかもしれない。

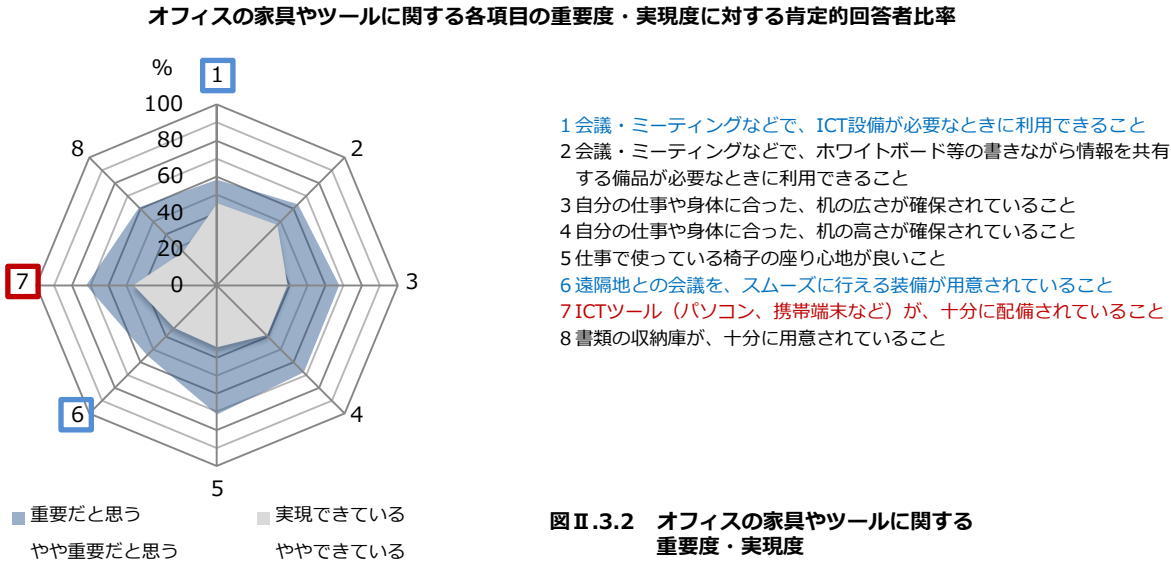
3.2 オフィスの家具やツールに関する課題（Q7×Q8）

「効果の得やすいモノや身体に触れるモノについてワーカーは注視している」

ICTの装備は身近なパソコン等（7）効果の分かりやすいモノについては重要と思われ、それなりに配備されているものの、会議での装備（1）や遠隔地との交流のためのツール（6）については効果を評価しにくいのか、重要度が低く、配備も十分ではない。

机/イスといった普段から触れている家具については重要度は高いものの満足度が低いことから、適切な製品の提供により満足度を高めることが出来ると推測される。

書類の収納量については重要度はさほど高くないが満足度が低いため、容易にワーカーの満足度を向上させる手段となり得る。



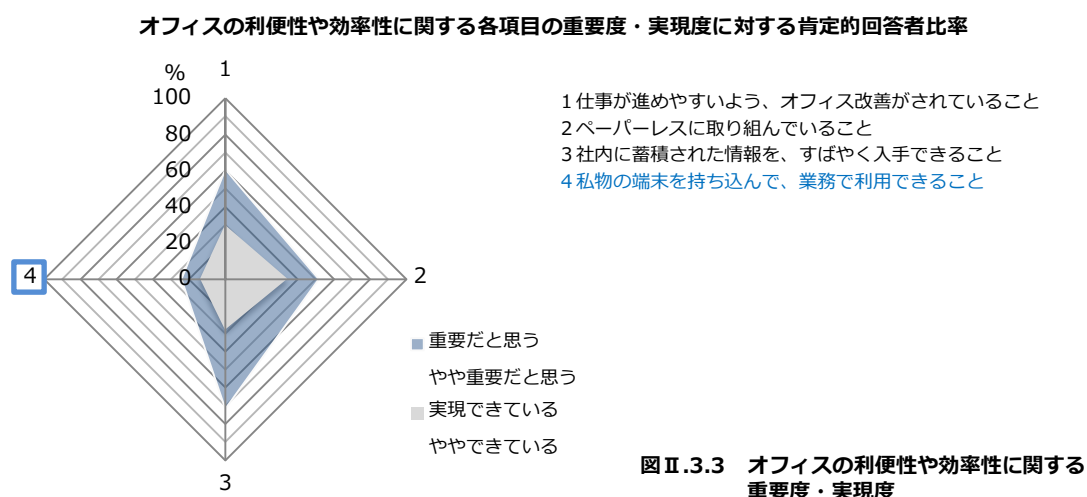
属性別にみた特徴

- ・書類の収納庫不足を訴えるのは稼ぎ頭？
 現状への不満 50代42.3%、30代40.2%、専門職系39.8%、事務系39.4%、部長クラス41%
 重要度 事務系66.8%、一般職62.7%、課長職62.5%。一方で経営層の重要度は49.4%と低く役員に至っては17.3%が重要でないと回答。
- ・女性は家具選びにシビア。
 重要とする意見、机の広さ74.4%、机の高さ74.1%、椅子の座り心地78.4%、書類の収納量72.8%（男性56.8%）いずれも男性評価よりも9ポイント以上高い。机に関しては現状でも満足度は高い（広さ44.1%高さ42%。椅子は34.0%と低い）
- ・机のサイズや椅子は未だヒエラルキー
 机の広さ満足度 経営者45.9%、役員47.1%、一般職29%
 机の高さ満足度 経営者45.9%、役員49%、一般職36.8%
 椅子の満足度 経営者45.3%、役員47.1%、一般職31.9%(34.4%は悪いと回答)
 と役職に応じた什器を与えられていることがうかがえる。
- ・健康と家具の関係は注目されている
 階段を意識して使う人は椅子の座り心地を重視（80.9%：75.9%）食事や飲み物に気を遣う人も同様（81.9%：74.6%）健康に気を遣う人ほど椅子についての重要度が高い。
 現状についても、階段を使う人は満足度が高く（41.2%）階段を使わない人の41%は椅子の座り心地が悪いと回答。
 食事に関心する人も同様で、45.4%の人が現状の椅子に満足し、気を遣わない人の44.8%が座り心地が悪いと回答。

3.3 オフィスの利便性や効率性に関する課題 (Q9×Q10)

私物の端末を活用したBYOD(Bring Your Own Device)の認識は極めて低い

図Ⅱ.3.3に示すとおり、オフィスの利便性や効率性に関わるテーマのうち、BYODに関する認識の低さが特徴的である。これは他の項目である「仕事の進めやすさの為のオフィス改善」や「ペーパーレス」「社内の情報入手」と違い、個人の利用用途と仕事の用途の分け方による情報流出のリスクを踏まえているが、現実的には業務用途で個人のスマートフォンを使用したり、何かの調べものをしたりという行動はすでに「個人用途・業務用途」が混在しているのが実態である。



属性別にみた特徴

仕事が進めやすいよう、オフィス改善がされている

- ・フリーアドレスで運用しているワーカーでの実現度が高い（43.2%がそう思う寄りの評価、固定席29.9%）
- ・経営者・部長クラスにて改善の実感が高い（経営者39.5%、部長40.1%、課長・係長・一般の平均27.6%）
- ・この項目が重要と考える意識が高い20代～40代（平均63.2%）において実現度の評価（平均28.1%）との差が35.1ポイントと非常に大きい。逆に高齢層では60代36.2%、70歳以上53.1%が改善を実感されている評価である。

ペーパーレスへの取り組み

- ・情報通信業での取り組みは意識（57.1%）、実現度（44.6%）と高い。
- ・従業員数が多い事業所のペーパーレス化が顕著である（50名以下24.2%＜～100名28.2%＜～500名33.1%＜～1000名38.8%＜～5000名40.8%＜5000名以上44.9%）
- ・企画系での実現度が高い（41.6%がそう思う寄りの評価）
- ・創業年数が長いほどペーパーレス化が進んでいる（5年以下29.4%＜～10年32.2%＜～30年32.5%＜～50年33.3%＜～100年36.9%＜101年以上40.2%）

社内に蓄積された情報のすばやい入手

- ・役職別には上位層ほどそう思う寄りの傾向の評価である。（課長以上32.6～35.6% 係長以下平均26.6%）但し、重要と思う意識は経営者、役員より部長以下の方が高い傾向にある。
- ・5001名以上の従業員数の会社での評価が高い傾向にある（そう思う寄りの評価34.5%）

BYODの取り組み

- ・まずは意識が低い（重要寄りの評価は24.2%のみ）
- ・フリーアドレスを運用しているワーカーの方が比較的实现度が高い（フリーアドレス/そう思う寄りの評価28.4%、他13.2%）
- ・創業年数が浅い会社の運用が高い（～5年21.5%、～10年15.3%、～30年14.7%、～50年12.7%、～100年12.2%）
- ・部長以上の役職者の方が活用している（経営者24.4%・役員19.2%・部長19.9%・以下8.6～15.0%）

3.4 オフィスの安全性や快適性に関する課題 (Q11×Q12)

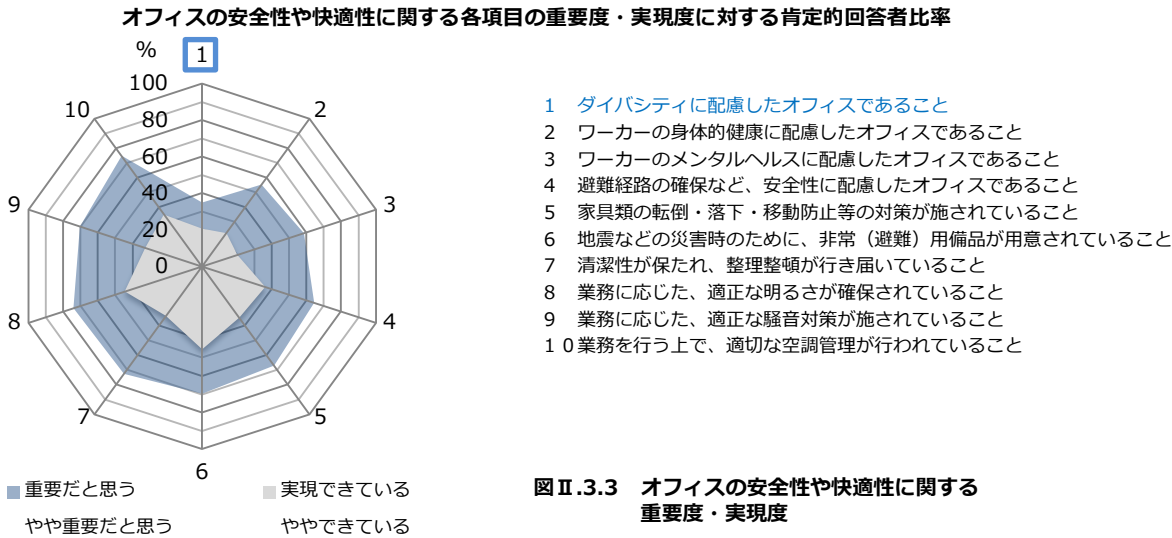
「安全性や快適性は重要だと認識されているが、これらへの対策は十分に施されていない」

安全性及び快適性に関する項目には総じて高い重要性を認識している。

その中で唯一「ダイバシティへの配慮」に対しては重要だとした回答者は35%ほどに留まっており、他の項目に比べると著しく低くなっている。この分野への対策の必要性が一般にはまだ浸透していないことがうかがえる。

「身体的健康」や「メンタルヘルス」が重要だとした回答者は6割程度を占めており、この分野への関心は高いと言える。しかし一方で、これらへの対策がオフィスで実施されているとしたのは2割程度に留まっており、ニーズは満たされていないことが予想される。

ワーカーにとって日々影響を受ける「整理整頓」「明るさ」「騒音」「空調」といった快適性に対する重要性認識は極めて高く、いずれもが7割を超えている。また、地震などへの安全性対策に対しても6～8割の回答者が重要だと回答している。オフィスでの実現性との間にはかなりのギャップがあることからすると、従来より行ってきた快適性に対する提案は今後も有効だと思われる。



図Ⅱ.3.3 オフィスの安全性や快適性に関する重要度・実現度

属性別にみた特徴

経営者の意識

- ・安全性や快適性に関する10項目すべてにおいて、重要だと考えている経営者割合は全体平均よりも少ない。
- ・また、10項目中8項目については、現在既に対策が実施されていると認識している。
(全体平均を下回ったのは、「4 避難経路」と「6 非常用備品」の2項目のみ)

女性の認識

- ・ダイバシティを除く9項目に対して、女性は男性よりも重要性を高く認識している。

大規模オフィス入居者の意識

- ・5001名以上の事業所では、対策が実施されていると考えている人の割合が10項目すべてにおいて全体平均よりも高い。

4.共感するオフィス像

4.1共感するオフィス像と現状オフィスの実態（Q1×Q2、Q1×属性）

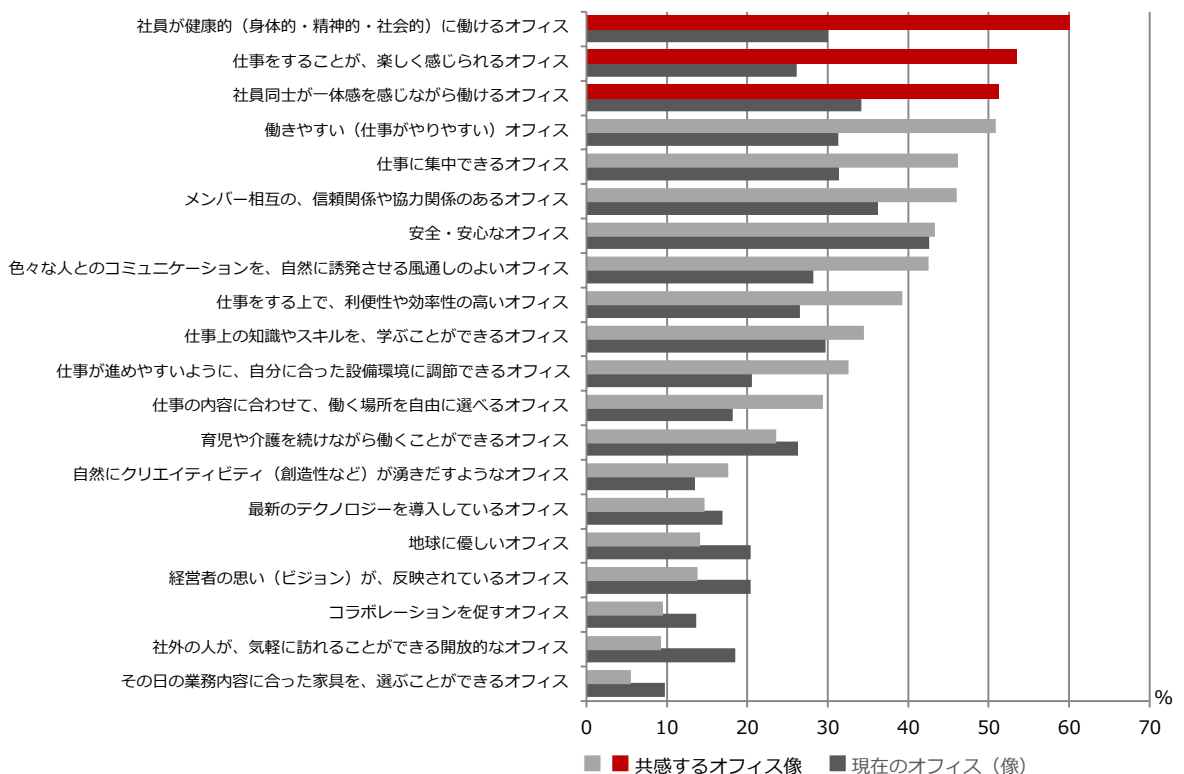
共感するオフィス像

「心身ともに健康的に働く・仕事楽しく感じられる・一体感」

図Ⅱ.4.1に示すとおり、共感するオフィス像の最上位は、「社員が健康的に働けるオフィス」であり、全体の60%のワーカーが選択している。次いで「仕事をするのが楽しく感じられるオフィス」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス」（共に過半数を超える支持）であった。

現状のオフィスに対する評価（全回答者数に対する[そう思う、ややそう思う]を選択した回答者数の比率）では、最上位は「安全・安心なオフィス（40%強）」次いで「メンバー相互の、信頼関係や協力関係のあるオフィス」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス」（共に30%強）であり、十分ではないものの、安全性やコミュニケーションといった観点からの取組みがうかがえる。

共感するオフィス像の上位であった「社員が健康的に働けるオフィス」「仕事をするのが楽しく感じられるオフィス」に関し、現状のオフィスを肯定的に評価しているワーカーはそれぞれ、30%、26%と、他のオフィス像に比べ比較的多くのワーカーが選択しているものの、「共感するオフィス像」として選択した回答者比率との差は大きい。（健康的に働けるオフィスが最大）これらの結果から、オフィスにおける一体感の醸成といった旧来からの環境改善テーマに加え、健康や楽しさといった観点からの環境づくりが、ワーカー目線からも必要となっていることが分かる。



図Ⅱ.4.1 共感するオフィス像と現状オフィスの実情

属性別にみた特徴

年齢階層別にみると、共感するオフィス像の選択数は、年齢階層が低いほど多く、20～29歳で一人当たり7.6件の選択が、50～59歳では5.8件となる。共感するオフィス像として上位の評価であった「仕事をするのが楽しく感じられるオフィス」「働きやすいオフィス」などは、年齢階層が低いほど選択者数が多い。

「育児や介護を続けながら働くことができるオフィス」では、20～39歳の選択者数が多く、オフィスの運用やサポート機能などは、今後の課題である。

役職別では、年齢階層別の特徴と同様に、「仕事をするのが楽しく感じられるオフィス」では、役職が高くなるほど、支持率が低くなっている。従業員規模や創業年数、事業所種別などによる大きな差異はなく、自席の運用や時短勤務、フレックスタイムなどのオフィス運用の違いに伴う大きな差異もない。

4.2 オフィスへの期待と共感するオフィス像 (Q1×Q4)

共感するオフィス像

「健康的に働ける・仕事楽しく感じられる・仕事のしやすさ」

図Ⅱ.4.2は、「オフィス環境の良し悪しは、仕事の成果をあげることに影響する」「オフィス環境の良し悪しは、仕事に対するモチベーションに影響する」それぞれに対し、肯定的回答者（そう思う、ややそう思う）と他の回答者別に、「働いてみたいオフィス像」の選択状況を集計したものである。

図中の■部は、肯定的回答者の過半が選択したオフィス像の集計値である。図中の■部は、肯定的回答者比率と比較し、20%以上差異のあるオフィス像の集計値を示している。

共感するオフィス像として、「オフィス環境の良し悪しは、仕事の成果をあげることに影響する」と回答したワーカーの過半が選択したオフィス像は、「社員が健康的に働けるオフィス」「仕事をするのが、楽しく感じられるオフィス」「働きやすいオフィス」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス」「メンバー相互の、信頼関係や協力関係のあるオフィス」「仕事に集中できるオフィス」であった。これは「オフィス環境の良し悪しは、仕事に対するモチベーションに影響する」と回答したワーカーの過半が選択したオフィス像と一致する。

また、これらのオフィス像の選択において、「仕事の成果をあげることに影響する」「仕事に対するモチベーションに影響する」と回答しているワーカーと、そうでない回答者との回答傾向に差異があることが分かる。「社員が健康的に働けるオフィス」「仕事をするのが、楽しく感じられるオフィス」「働きやすいオフィス」に大きな差異が確認できる。

これらの結果から、「社員が健康的に働けるオフィス」「仕事をするのが、楽しく感じられるオフィス」「働きやすいオフィス」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス」「メンバー相互の、信頼関係や協力関係のあるオフィス」「仕事に集中できるオフィス」であることは「仕事の成果をあげることに、仕事に対するモチベーションを向上させること」に寄与するものと類推できる。特に「社員が健康的に働けるオフィス」「仕事をするのが、楽しく感じられるオフィス」「働きやすいオフィス」、はその影響力が高いものと考えることができる。昨今の健康経営への社会的背景とも合致する、オフィス環境整備上の重要なテーマであるといえる。

共感するオフィス像について、その優先度（重要度）をみると、最上位は「社員が健康的に働けるオフィス」であり、「オフィス環境の良し悪しは、仕事の成果をあげることに影響する」「オフィス環境の良し悪しは、仕事に対するモチベーションに影響する」と回答しているワーカーでは40%以上が、全体では40%弱が優先する（重要である）としている。

		オフィス環境の良し悪しは、 仕事の成果をあげることに影響する				オフィス環境の良し悪しは、 仕事に対するモチベーションに影響する			
		TOTAL	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	
1段目 度数		3316	2149	805	362	2367	688	261	
2段目 横%		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
社員同士が一体感を感じながら 働けるオフィス		1699	1171	361	167	1290	302	107	
		51.2	54.5	44.8	46.1	54.5	43.9	41.0	
仕事の内容に合わせて、 働く場所を自由に選べるオフィス		976	698	186	92	764	154	58	
		29.4	32.5	23.1	25.4	32.3	22.4	22.2	
色々な人とのコミュニケーションを、 自然に誘発させる風通しのよいオフィス		1410	1048	246	116	1136	203	71	
		42.5	48.8	30.6	32.0	48.0	29.5	27.2	
コラボレーションを促すオフィス		315	245	47	23	260	41	14	
		9.5	11.4	5.8	6.4	11.0	6.0	5.4	
社員が健康的（身体的・精神的・社会的） に働けるオフィス		1992	1458	362	172	1600	279	113	
		60.1	67.8	45.0	47.5	67.6	40.6	43.3	
メンバー相互の、信頼関係や協力関係の あるオフィス		1527	1135	265	127	1227	215	85	
		46.0	52.8	32.9	35.1	51.8	31.3	32.6	
仕事をするのが、 楽しく感じられるオフィス		1775	1298	325	152	1433	251	91	
		53.5	60.4	40.4	42.0	60.5	36.5	34.9	
自然にクリエイティビティ（創造性など） が湧きだすようなオフィス		585	472	74	39	504	57	24	
		17.6	22.0	9.2	10.8	21.3	8.3	9.2	
育児や介護を続けながら 働くことができるオフィス		784	614	113	57	660	85	39	
		23.6	28.6	14.0	15.7	27.9	12.4	14.9	
最新のテクノロジーを 導入しているオフィス		487	375	70	42	408	54	25	
		14.7	17.4	8.7	11.6	17.2	7.8	9.6	
安全・安心なオフィス		1437	1074	242	121	1175	186	76	
		43.3	50.0	30.1	33.4	49.6	27.0	29.1	
地球に優しいオフィス		468	360	65	43	392	51	25	
		14.1	16.8	8.1	11.9	16.6	7.4	9.6	
仕事に集中できるオフィス		1531	1126	276	129	1233	225	73	
		46.2	52.4	34.3	35.6	52.1	32.7	28.0	
仕事上の知識やスキルを、学ぶことが できるオフィス		1143	854	193	96	931	153	59	
		34.5	39.7	24.0	26.5	39.3	22.2	22.6	
経営者の思い（ビジョン）が、 反映されているオフィス		458	345	69	44	374	57	27	
		13.8	16.1	8.6	12.2	15.8	8.3	10.3	
社外の人々が、気軽に訪れることができる 開放的なオフィス		310	234	46	30	251	40	19	
		9.3	10.9	5.7	8.3	10.6	5.8	7.3	
働きやすい（仕事がやりやすい） オフィス		1687	1257	293	137	1371	226	90	
		50.9	58.5	36.4	37.8	57.9	32.8	34.5	
仕事をする上で、 利便性や効率性の高いオフィス		1302	1000	200	102	1085	164	53	
		39.3	46.5	24.8	28.2	45.8	23.8	20.3	
仕事が進めやすいように、自分に合った 設備環境に調節できるオフィス		1080	857	141	82	920	107	53	
		32.6	39.9	17.5	22.7	38.9	15.6	20.3	
その日の業務内容に合った家具を、 選ぶことができるオフィス		182	147	21	14	161	12	9	
		5.5	6.8	2.6	3.9	6.8	1.7	3.4	
その他		7	4	0	3	5	0	2	
		0.2	0.2	0.0	0.8	0.2	0.0	0.8	
特になし		172	31	102	39	40	94	38	
		5.2	1.4	12.7	10.8	1.7	13.7	14.6	

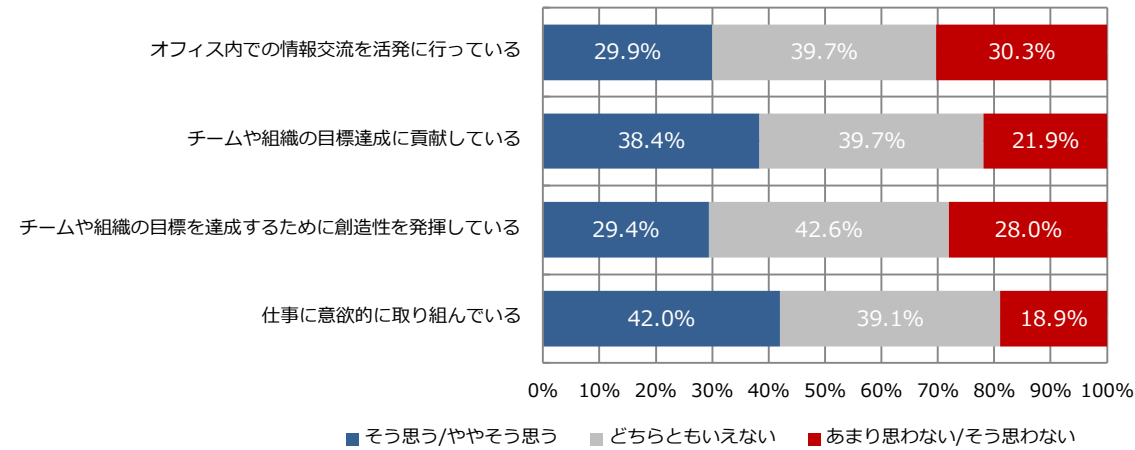
図Ⅱ.4.2 オフィスへの期待と共感するオフィス像

5.成果・意欲・価値観

5.1成果・意欲の発揮状況（Q13、Q13×属性）

「創造性を発揮していると感じているワーカーはまだまだ少ない」

図Ⅱ.5.1に示すとおり、組織目標に対するワーカーやチームの取組み状況では「仕事に意欲的に取り組んでいる」「チームや組織の目標達成に貢献している」と感じているのは、それぞれ全体の40%が選択している。
「チームや組織の目標を達成するために創造性を発揮している」と感じているのは30%で「オフィス内での情報交流を活発に行っている」も同じように30%である。全体の2/3が創造性を発揮していると感じていないということでもあるので、この要因をさぐることで組織での創造性向上の課題を明らかにすることにつながると思われる。



図Ⅱ.5.1 仕事への取組み、組織目標達成への貢献状況

属性による相違

オフィス内での情報交流

- ・フリーアドレスの人の方が社内での情報交流を活発に行っている（フリーアドレス/そう思う7%、ややそう思う35%、固定席/そう思う4%、ややそう思う26%）
- ・部長クラスは経営者や役員、課長クラス、一般社員よりも交流していると感じている割合が高い（部長クラス/そう思う4%、ややそう思う33%、役員/そう思う6%、ややそう思う29%、課長クラス/そう思う5%、ややそう思う28%）
- ・企画系（マーケティング、宣伝、広報）は交流していると感じている割合が高い（企画系/そう思う7%、ややそう思う35%、営業系/そう思う4%、ややそう思う26%）

チームや組織の目標達成に貢献している

- ・役員・部長クラスの目標達成に対する思いは強い（役員/そう思う8%、ややそう思う40%、部長クラス/そう思う6%、ややそう思う39%、経営者/そう思う6%、ややそう思う16%、課長クラス/そう思う8%、ややそう思う34%）
- ・フリーアドレスの人は目標に貢献していると思っている人が多い（フリーアドレス/そう思う10%、ややそう思う38%、固定席/そう思う6%、ややそう思う32%）

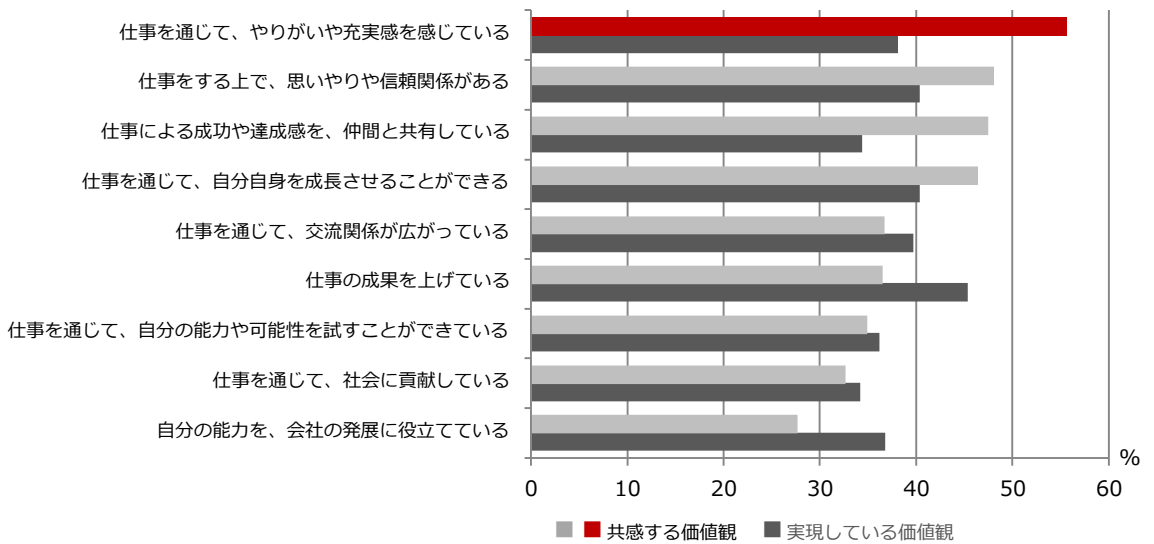
5.2仕事に対する価値観と、その実現度（Q14×Q15、Q14×属性）

「仕事を通じたやりがいや充実感を求めているがギャップがある」

図Ⅱ.5.2に示すとおり、ワーカーの価値観とその実現度の状況で、共感する価値観の最上位は、「仕事を通じて、やりがいや充実感を感じている」であり全体の55%のワーカーが選択している。

次いで「仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある」「仕事による成功や達成感を、仲間と共有している」「仕事を通じて、自分自身を成長させることができる」「仕事を通じて、交流関係が広がっている」が続いている。価値観を実現しているについての評価では、最上位が「仕事の成果を上げている」次いで「仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある」「仕事を通じて、自分自身を成長させることができる」「仕事を通じて、交流関係が広がっている」その次に「仕事を通じて、やりがいや充実感を感じている」となっている。

これらの結果から、仕事を通じてやりがいや充実感を感じることを求めているワーカーは多いが、それを十分に実現できていないという現状が見える。



図Ⅱ.5.2 仕事に対する価値観と、その実現度

属性による相違

役職

- ・部長、役員クラスは収入を得ることよりも、仕事を通じてやりがいや充実感を得ることをトップに挙げている。（55%）

年代

- ・年代によって若干の相違がある。
- ・自分自身の成長では20代30代は他の年代より高い
（20代54%、30代52%、40代48%、50代41%、60代40%）
- ・仕事をする上での思いやりや信頼関係では30代が他の年代より強く求めている
（30代55%、40代50%、20代49%、60代45%、50代42%）

時短勤務

- ・育児のための時短勤務制度利用者は、仕事を通じて、やりがいや充実感を得ることを第一位に挙げている。（57%）
- ・介護のための時短勤務制度利用者は、仕事による成功や達成感を、仲間と共有することを第一位に挙げている。（60%）

6.目標達成・創造性発揮・意欲的取組みを実現しているオフィス

6.1目標達成・創造性発揮・意欲的取組みとオフィス像（Q2×Q13）

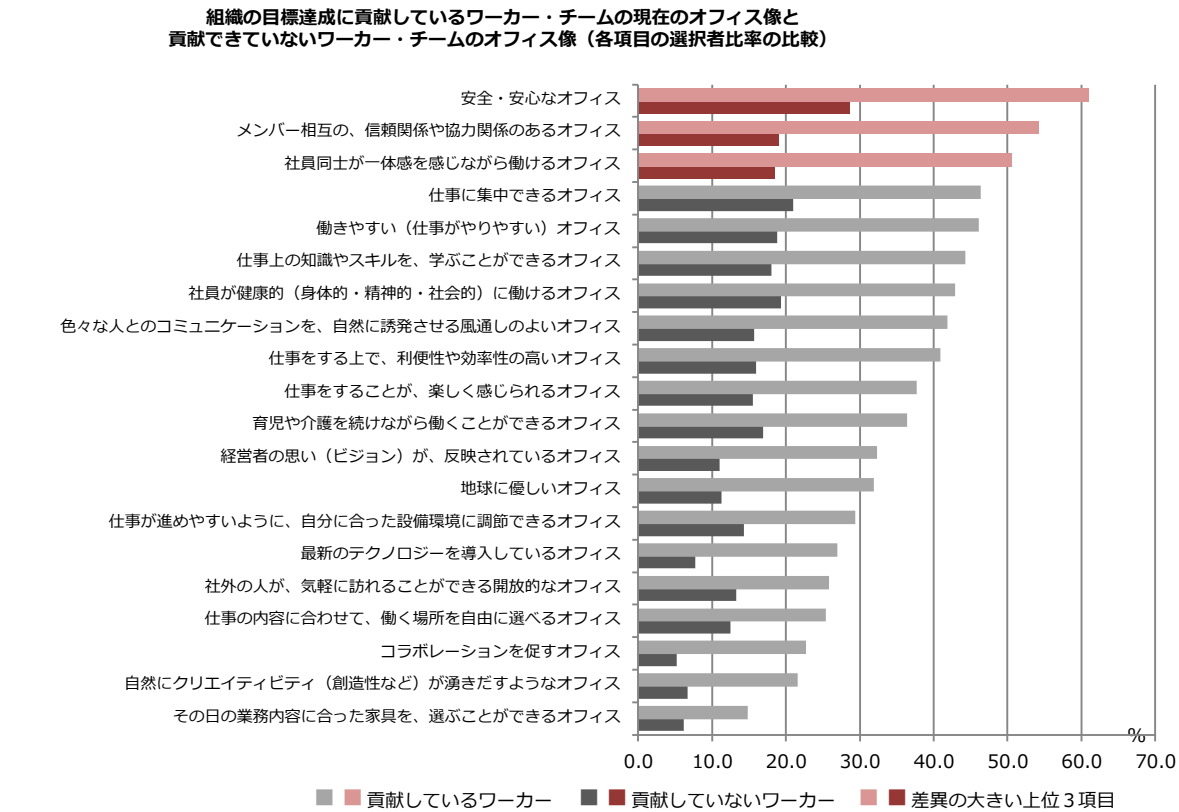
オフィスのキーワード
「信頼関係・一体感・仕事楽しく感じられる・安心安全」

チームや組織の目標達成に貢献していると評価するワーカーが、現在働いているオフィスに合致するオフィス像として選択した上位3項目は、「安全・安心なオフィス61.0%」「メンバー相互の信頼関係や協力関係のあるオフィス54.2%」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス50.6%」であった。

これら3項目は、目標達成に貢献しているとするワーカーの過半が選択しており、貢献していないとするワーカーの回答者比率との差異が大きい上位3項目でもあった。（図Ⅱ.6.1）

チームや組織の目標達成のために創造性を発揮していると評価しているワーカーにおいても、チームや組織の目標達成に貢献していると評価するワーカーの回答と同様に、上位3項目は、「安全・安心なオフィス62.0%」「メンバー相互の信頼関係や協力関係のあるオフィス56.0%」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス53.1%」であった。また、創造性を発揮していないと評価しているワーカーとの回答者比率の差異では、「メンバー相互の信頼関係や協力関係のあるオフィス」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス」そして「仕事をすることが楽しく感じられるオフィス」であった。（図Ⅱ.6.2）

仕事に意欲的に取り組んでいると評価しているワーカーにおいても、チームや組織の目標達成に貢献していると評価するワーカーおよび、創造性を発揮していると評価しているワーカーの回答と同様に、上位3項目は「安全・安心なオフィス59.6%」「メンバー相互の信頼関係や協力関係のあるオフィス53.6%」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス50.8%」であった。また、意欲的に取り組めていないと評価しているワーカーとの回答者比率の差異では、「メンバー相互の信頼関係や協力関係のあるオフィス」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス」「働きやすいオフィス」であった。（図Ⅱ.6.3）



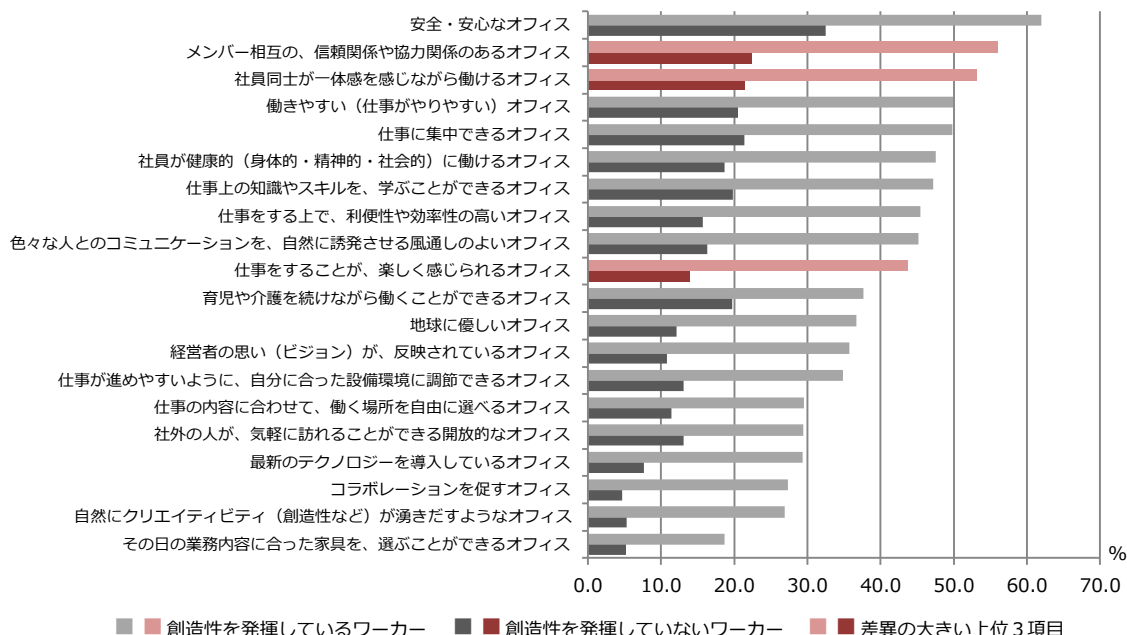
図Ⅱ.6.1 成果・意欲を発揮しているオフィス像①

成果の達成や創造性、意欲の発揮に対して否定的な評価を行っているワーカーが働いているオフィスは、そうでないワーカーが働くオフィスに比べ、環境面の性能やオフィス運用、オフィスの雰囲気づくりといった多くの側面において低い評価となっている。

明確には因果関係を示すことはできないものの、意欲的に業務に取り組み、創造性を発揮させ、チームや組織の成果の達成に貢献していく上で、オフィス環境の果たす役割は小さくはないことが指摘できる。

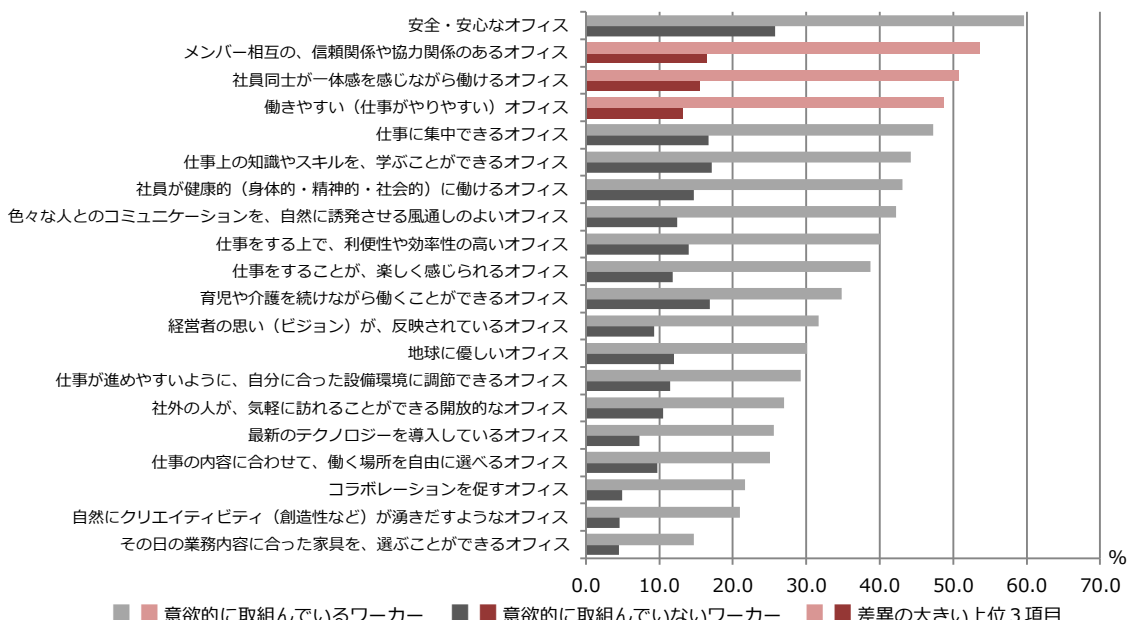
現状のオフィスでの、成果の達成、創造性の発揮、意欲的な取り組みを支援する環境要件としてこの分析結果から仮定するならば、安心して働ける安全性という基本的な性能を有し、メンバー相互が信頼や協力関係のもと、一体感を感じながら働くことのできるオフィスということになる。そこでの活動が、より高い成果を生み出すことが可能であるということある。

目標を達成するために創造性を発揮しているワーカー・チームの現在のオフィス像と
創造性が発揮できていないワーカー・チームのオフィス像（各項目の選択者比率の比較）



図Ⅱ.6.2 成果・意欲を発揮しているオフィス像②

仕事に意欲的に取り組んでいるワーカー・チームの現在のオフィス像と
仕事に意欲的に取り組んでいないワーカー・チームのオフィス像（各項目の選択者比率の比較）



図Ⅱ.6.3 成果・意欲を発揮しているオフィス像③

6.2成果・意欲を発揮しているオフィスの特徴（Q13×Q6,8,10,12）

オフィスのレイアウトやスペース

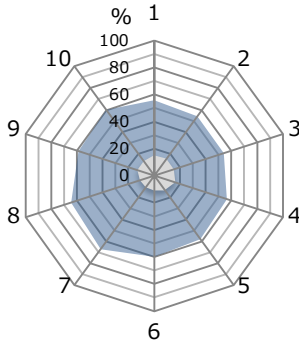
「特徴的な工夫があるレイアウト・スペースを実践している」

スコアの高い回答者は設問に対し一律に評価しておりレイアウトにおいて設問にある様な機能がある事を把握している。また価値創造スキームのコンセプトとなる項目への実践度合いが高い。リフレッシュのスコアが高い事も特徴的である。またフォーマルなコミュニケーションの実践度合いを特に重視している。成果の考え方で創造性がキーワードになる設問で回答量が少ない事は将来に向けての課題となるかもしれない。

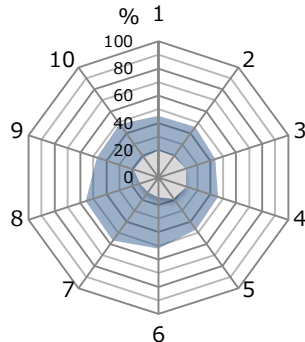
現在働いているオフィスで実現できている項目

- 1 他の人と気軽にコミュニケーションできるように工夫されている
- 2 集中して仕事ができるように工夫されている
- 3 狭さを感じない（ゆとりを感じる）オフィスである
- 4 書庫室や倉庫等のスペースが十分に用意されている
- 5 会議・打ち合わせスペースが十分に用意されている
- 6 心身をリフレッシュできる場所が十分に用意されている
- 7 グループワークに適したスペースが十分に用意されている
- 8 情報共有を促すスペースが十分に用意されている
- 9 仕事上、関係の深い部署が近くに配置されている
- 10 仕事上、関係の深い機器等の装備は使いやすい配置となっている

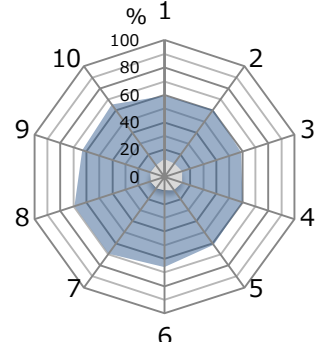
組織の目標達成に貢献しているワーカー・チームと貢献できていないワーカー・チームの各項目の選択者比率の比較



目標を達成するために創造性を発揮しているワーカー・チームと発揮できていないワーカー・チームの各項目の選択者比率の比較



仕事に意欲的に取り組んでいるワーカー・チームと取り組めていないワーカー・チームの各項目の選択者比率の比較



■ 成果・意欲を発揮しているワーカー・チーム ■ 成果・意欲を発揮していないワーカー・チーム

図Ⅱ.6.4 成果・意欲を発揮しているオフィスの特徴①

オフィスの家具やツール

「適切な家具や十分なツールが配備されている」

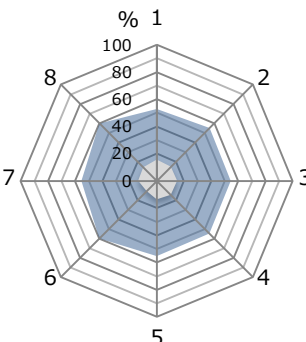
家具やツールへの満足度が高いとそれぞれの結果がポジティブである傾向があり、特に「意欲的に仕事に取り組んでいる」場合、家具やツールへの満足度が高まる傾向にある。あるいは、家具やツールの満足度を高めることにより、意欲的な取組みを促す可能性があるかと捉えることもできる。

しかしながら創造性の発揮において他の設問に比べ評価点か低いことからするとツールや家具の影響度が低いのかも知れない。

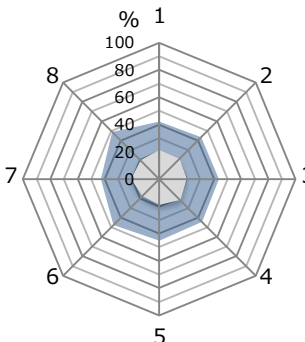
現在働いているオフィスで実現できている項目

- 1 会議・ミーティングなどで、ICT設備が必要ときに利用できる
- 2 会議・ミーティングなどで、書きながら情報を共有する備品が必要ときに利用できる
- 3 自分の仕事や身体に合った、机の広さが確保されている
- 4 自分の仕事や身体に合った、机の高さが確保されている
- 5 仕事で使っている椅子の座り心地が良い
- 6 遠隔地との会議を、スムーズに行える装備が用意されている
- 7 ICTツール（パソコン、携帯端末など）が、十分に配備されている
- 8 書類の収納庫が、十分に用意されている

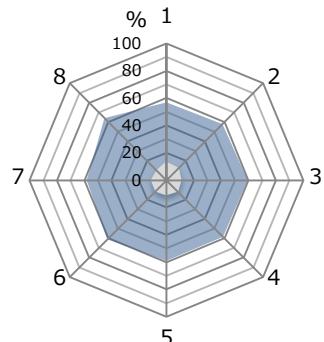
組織の目標達成に貢献しているワーカー・チームと貢献できていないワーカー・チームの各項目の選択者比率の比較



目標を達成するために創造性を発揮しているワーカー・チームと発揮できていないワーカー・チームの各項目の選択者比率の比較



仕事に意欲的に取り組んでいるワーカー・チームと取り組めていないワーカー・チームの各項目の選択者比率の比較



■ 成果・意欲を発揮しているワーカー・チーム ■ 成果・意欲を発揮していないワーカー・チーム

図Ⅱ.6.5 成果・意欲を発揮しているオフィスの特徴②

オフィスの利便性や効率性

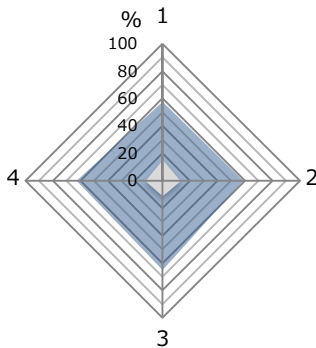
オフィスの利便性・効率性はまだまだ向上の余力あり

オフィスの改善・ペーパーレスの取組み・社内情報の入手の項目でチームや組織の目標達成に貢献・創造性を発揮している回答者数は約半数と多いが、どちらとも言えないと考えている回答者は否定する回答者同等数ある。また私物の端末を持ち込んで業務で活用している項目の評価はいずれもまだまだ低く、オフィスの利便性・効率性の向上にはまだ余力はある。

現在働いているオフィスで実現できている項目

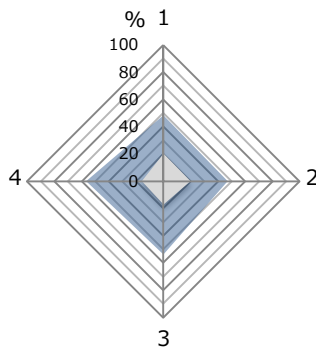
- 1 仕事が進めやすいよう、オフィス改善がされている
- 2 ペーパーレスに取り組んでいる
- 3 社内に蓄積された情報を、すばやく入手できる
- 4 私物の端末を持ち込んで、業務で利用できる

組織の目標達成に貢献しているワーカー・チームと貢献できていないワーカー・チームの各項目の選択者比率の比較



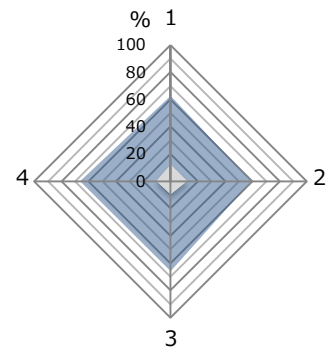
■ 成果・意欲を発揮しているワーカー・チーム

目標を達成するために創造性を発揮しているワーカー・チームと発揮できていないワーカー・チームの各項目の選択者比率の比較



■ 成果・意欲を発揮していないワーカー・チーム

仕事に意欲的に取り組んでいるワーカー・チームと取り組めていないワーカー・チームの各項目の選択者比率の比較



図Ⅱ.6.6 成果・意欲を発揮しているオフィスの特徴③

オフィスの安全性や快適性

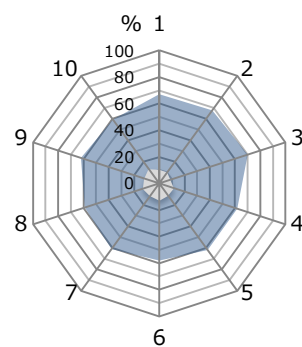
安全・快適なオフィスは成果・意欲の発揮に貢献している

成果・意欲を発揮しているとした回答者の多くは、現在のオフィスが安全性や快適性に配慮されていると認識している。一方、成果・意欲を発揮していないと答えた回答者では、対策が施されているとした割合が低く、両者の間には著しい差が存在する。

現在働いているオフィスで実現できている項目

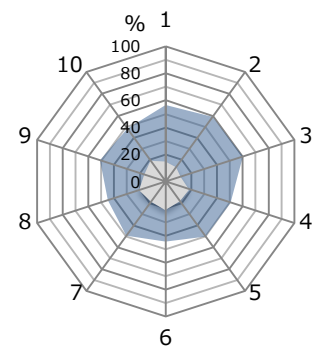
- 1 タイパシティに配慮したオフィスである
- 2 ワーカーの身体的健康に配慮したオフィスである
- 3 ワーカーのメンタルヘルスに配慮したオフィスである
- 4 避難経路の確保など、安全性に配慮したオフィスである
- 5 家具類の転倒・落下・移動防止等の対策が施されている
- 6 地震などの災害時のために、非常（避難）用備品が用意されている
- 7 清潔性が保たれ、整理整頓が行き届いている
- 8 業務に応じた、適正な明るさが確保されている
- 9 業務に応じた、適正な騒音対策が施されている
- 10 業務を行う上で、適切な空調管理が行われている

組織の目標達成に貢献しているワーカー・チームと貢献できていないワーカー・チームの各項目の選択者比率の比較



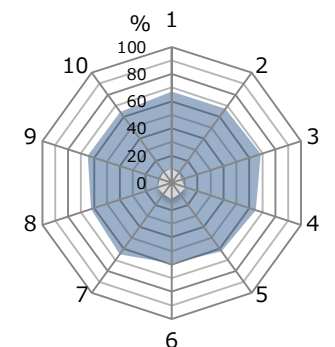
■ 成果・意欲を発揮しているワーカー・チーム

目標を達成するために創造性を発揮しているワーカー・チームと発揮できていないワーカー・チームの各項目の選択者比率の比較



■ 成果・意欲を発揮していないワーカー・チーム

仕事に意欲的に取り組んでいるワーカー・チームと取り組めていないワーカー・チームの各項目の選択者比率の比較



図Ⅱ.6.7 成果・意欲を発揮しているオフィスの特徴④

成果・意欲を発揮しているオフィスの特徴

目標達成に貢献している、創造性を発揮している、意欲的に取り組んでいるワーカーやチームの働いているオフィスは、そうでないワーカーやチームの働いているオフィスと比べ、レイアウトやスペース、家具やツール、利便性や効率性、安全性や快適性の面で、様々な工夫や対策が実現されており、その評価の差異が大きいことが示された。（図Ⅱ.6.4～6.7）しかしながら、目標達成に貢献している、創造性を発揮している、意欲的に取り組んでいるワーカーの満足度をみると、家具や内装では30%弱、オリジナリティにおいては25%弱と、全サンプルの満足度（それぞれ14.5%、16.9%）程ではないものの、決して高い評価とはいえない。

スペースやレイアウトにおいて低い評価となっている（実現度の低い）項目は、「心身をリフレッシュできる場所」「グループワークに適したスペース」「情報共有を促すスペース」などである。（図Ⅱ.6.9）

また、安全性や快適性において低い評価となっているのは「ダイバシティへの配慮」「心身の健康への配慮」である。家具やツール、利便性や効率性（BYODを除く）に関する項目については、総じて実現度は高く評価されている。

これらから、オフィス環境の性能は、ワーカーの成果や創造性の発揮、仕事に対する意欲に少なからず影響を与え、オフィスにおける家具やツールの装備状況、利便性や効率性への配慮を基本的な性能とし、気軽なコミュニケーションと集中して仕事をするための工夫が行われていることが重要であり、更にこれからは、積極的なグループワークのための場の用意や、ダイバシティ、心身の健康面への配慮が求められているといえる。

現在働いているオフィスの、スペースやレイアウトに対する評価

1段目 度数 2段目 横%	チームや組織の目標達成に貢献している と回答したワーカーの評価				チームや組織の目標を達成するために、創造性を 発揮していると回答したワーカーの評価			
	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
現在働いているオフィスの スペースやレイアウト								
他の人と気軽にコミュニケーションできるように工夫されている	1274 100.0	698 54.8	349 27.4	227 17.8	974 100.0	567 58.2	244 25.1	163 16.7
集中して仕事ができるように工夫されている	1274 100.0	594 46.6	370 29.0	310 24.3	974 100.0	503 51.6	263 27.0	208 21.4
狭さを感じない（ゆとりを感じる）オフィスである	1274 100.0	589 46.2	276 21.7	409 32.1	974 100.0	478 49.1	215 22.1	281 28.9
書庫室や倉庫等のスペースが十分に用意されている	1274 100.0	469 36.8	305 23.9	500 39.2	974 100.0	382 39.2	244 25.1	348 35.7
会議・打ち合わせスペースが十分に用意されている	1274 100.0	583 45.8	259 20.3	432 33.9	974 100.0	474 48.7	203 20.8	297 30.5
心身をリフレッシュできる場所が十分に用意されている	1274 100.0	353 27.7	299 23.5	622 48.8	974 100.0	307 31.5	237 24.3	430 44.1
グループワークに適したスペースが十分に用意されている	1274 100.0	449 35.2	314 24.6	511 40.1	974 100.0	381 39.1	237 24.3	356 36.6
情報共有を促すスペースが十分に用意されている	1274 100.0	434 34.1	379 29.7	461 36.2	974 100.0	377 38.7	279 28.6	318 32.6
仕事上、関係の深い部署が近くに配置されている	1274 100.0	564 44.3	304 23.9	406 31.9	974 100.0	455 46.7	239 24.5	280 28.7
仕事上、関係の深い機器等の装備は使いやすい配置となっている	1274 100.0	541 42.5	395 31.0	338 26.5	974 100.0	436 44.8	297 30.5	241 24.7

1段目 度数 2段目 横%	仕事に意欲的に取り組んでいる と回答したワーカーの評価			
	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
現在働いているオフィスの スペースやレイアウト				
他の人と気軽にコミュニケーションできるように工夫されている	1392 100.0	742 53.3	390 28.0	260 18.7
集中して仕事ができるように工夫されている	1392 100.0	665 47.8	406 29.2	321 23.1
狭さを感じない（ゆとりを感じる）オフィスである	1392 100.0	643 46.2	308 22.1	441 31.7
書庫室や倉庫等のスペースが十分に用意されている	1392 100.0	500 35.9	350 25.1	542 38.9
会議・打ち合わせスペースが十分に用意されている	1392 100.0	618 44.4	318 22.8	456 32.8
心身をリフレッシュできる場所が十分に用意されている	1392 100.0	389 27.9	328 23.6	675 48.5
グループワークに適したスペースが十分に用意されている	1392 100.0	464 33.3	366 26.3	562 40.4
情報共有を促すスペースが十分に用意されている	1392 100.0	466 33.5	414 29.7	512 36.8
仕事上、関係の深い部署が近くに配置されている	1392 100.0	606 43.5	361 25.9	425 30.5
仕事上、関係の深い機器等の装備は使いやすい配置となっている	1392 100.0	589 42.3	456 32.8	347 24.9

図Ⅱ.6.8 成果・意欲を発揮しているワーカーの現在のオフィスに対する評価①

現在働いているオフィスの、家具やツールに対する評価

1段目 度数 2段目 横%	チームや組織の目標達成に貢献していると回答したワーカーの評価				チームや組織の目標を達成するために、創造性を発揮していると回答したワーカーの評価			
	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
現在働いているオフィスの家具やツール								
会議・ミーティングなどで、ICT設備（プロジェクタやモニタ等）が必要な時に利用できる	1274 100.0	797 62.6	266 20.9	211 16.6	974 100.0	637 65.4	193 19.8	144 14.8
会議・ミーティングなどで、書きながら情報を共有する 備品が必要なときに利用できる	1274 100.0	855 67.1	234 18.4	185 14.5	974 100.0	674 69.2	171 17.6	129 13.2
自分の仕事や身体に合った、机の広さが確保されている	1274 100.0	700 54.9	302 23.7	272 21.4	974 100.0	562 57.7	227 23.3	185 19.0
自分の仕事や身体に合った、机の高さが確保されている	1274 100.0	708 55.6	309 24.3	257 20.2	974 100.0	574 58.9	220 22.6	180 18.5
仕事で使っている椅子の座り心地が良い	1274 100.0	628 49.3	320 25.1	326 25.6	974 100.0	513 52.7	230 23.6	231 23.7
遠隔地との会議を、スムーズに行える装備が用意されている	1274 100.0	662 52.0	270 21.2	342 26.8	974 100.0	527 54.1	198 20.3	249 25.6
ICTツール（パソコン、携帯端末など）が、十分に配備されている	1274 100.0	852 66.9	223 17.5	199 15.6	974 100.0	660 67.8	166 17.0	148 15.2
書類の収納庫が、十分に用意されている	1274 100.0	520 40.8	319 25.0	435 34.1	974 100.0	426 43.7	237 24.3	311 31.9

1段目 度数 2段目 横%	仕事に意欲的に取り組んでいると回答したワーカーの評価			
	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
現在働いているオフィスの家具やツール				
会議・ミーティングなどで、ICT設備（プロジェクタやモニタ等）が必要な時に利用できる	1392 100.0	858 61.6	300 21.6	234 16.8
会議・ミーティングなどで、書きながら情報を共有する 備品が必要なときに利用できる	1392 100.0	901 64.7	269 19.3	222 15.9
自分の仕事や身体に合った、机の広さが確保されている	1392 100.0	764 54.9	344 24.7	284 20.4
自分の仕事や身体に合った、机の高さが確保されている	1392 100.0	759 54.5	354 25.4	279 20.0
仕事で使っている椅子の座り心地が良い	1392 100.0	670 48.1	359 25.8	363 26.1
遠隔地との会議を、スムーズに行える装備が用意されている	1392 100.0	678 48.7	295 21.2	419 30.1
ICTツール（パソコン、携帯端末など）が、十分に配備されている	1392 100.0	896 64.4	267 19.2	229 16.5
書類の収納庫が、十分に用意されている	1392 100.0	558 40.1	353 25.4	481 34.6

図Ⅱ.6.9 成果・意欲を発揮しているワーカーの現在のオフィスに対する評価②

現在働いているオフィスの、利便性や効率性に対する評価

1段目 度数 2段目 横%	チームや組織の目標達成に貢献していると回答したワーカーの評価				チームや組織の目標を達成するために、創造性を発揮していると回答したワーカーの評価			
	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
現在働いているオフィスの 利便性や効率性								
仕事が進めやすいよう、 オフィス改善がされている	1274 100.0	572 44.9	382 30.0	320 25.1	974 100.0	480 49.3	285 29.3	209 21.5
ペーパーレスに取り組んでいる	1274 100.0	669 52.5	271 21.3	334 26.2	974 100.0	535 54.9	208 21.4	231 23.7
社内に蓄積された情報を、すばやく入手できる	1274 100.0	606 47.6	327 25.7	341 26.8	974 100.0	501 51.4	235 24.1	238 24.4
私物の端末を持ち込んで、業務で利用できる （BYODを導入している）	1274 100.0	293 23.0	212 16.6	769 60.4	974 100.0	265 27.2	174 17.9	535 54.9
1段目 度数 2段目 横%	仕事に意欲的に取り組んでいると回答したワーカーの評価							
	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない				
現在働いているオフィスの 利便性や効率性								
仕事が進めやすいよう、 オフィス改善がされている	1392 100.0	622 44.7	424 30.5	346 24.9				
ペーパーレスに取り組んでいる	1392 100.0	672 48.3	327 23.5	393 28.2				
社内に蓄積された情報を、すばやく入手できる	1392 100.0	614 44.1	377 27.1	401 28.8				
私物の端末を持ち込んで、業務で利用できる （BYODを導入している）	1392 100.0	310 22.3	245 17.6	837 60.1				

図Ⅱ.6.10 成果・意欲を発揮しているワーカーの現在のオフィスに対する評価③

現在働いているオフィスの、安全性や快適性に対する評価

1段目 度数 2段目 横%	チームや組織の目標達成に貢献している と回答したワーカーの評価				チームや組織の目標を達成するために、創造性を 発揮していると回答したワーカーの評価			
現在働いているオフィスの 安全性や快適性	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
ダイバシティに配慮したオフィスである	1274 100.0	459 36.0	397 31.2	418 32.8	974 100.0	387 39.7	286 29.4	301 30.9
ワーカーの身体的健康に配慮した オフィスである	1274 100.0	511 40.1	366 28.7	397 31.2	974 100.0	445 45.7	265 27.2	264 27.1
ワーカーのメンタルヘルスに配慮した オフィスである	1274 100.0	469 36.8	366 28.7	439 34.5	974 100.0	403 41.4	269 27.6	302 31.0
避難経路の確保など、安全性に配慮した オフィスである	1274 100.0	745 58.5	301 23.6	228 17.9	974 100.0	609 62.5	203 20.8	162 16.6
家具類の転倒・落下・移動防止等の対策が 施されている	1274 100.0	714 56.0	266 20.9	294 23.1	974 100.0	580 59.5	187 19.2	207 21.3
地震などの災害時のために、 非常（避難）用備品が用意されている	1274 100.0	873 68.5	199 15.6	202 15.9	974 100.0	667 68.5	154 15.8	153 15.7
清潔性が保たれ、整理整頓が行き届いている	1274 100.0	679 53.3	337 26.5	258 20.3	974 100.0	550 56.5	237 24.3	187 19.2
業務に応じた、適正な明るさが 確保されている	1274 100.0	866 68.0	248 19.5	160 12.6	974 100.0	661 67.9	192 19.7	121 12.4
業務に応じた、適正な騒音対策が 施されている	1274 100.0	674 52.9	318 25.0	282 22.1	974 100.0	554 56.9	232 23.8	188 19.3
業務を行う上で、適切な空調管理が 行われている	1274 100.0	696 54.6	269 21.1	309 24.3	974 100.0	566 58.1	200 20.5	208 21.4

1段目 度数 2段目 横%	仕事に意欲的に取り組んでいる と回答したワーカーの評価			
現在働いているオフィスの 安全性や快適性	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
ダイバシティに配慮したオフィスである	1392 100.0	459 33.0	435 31.3	498 35.8
ワーカーの身体的健康に配慮した オフィスである	1392 100.0	507 36.4	434 31.2	451 32.4
ワーカーのメンタルヘルスに配慮した オフィスである	1392 100.0	461 33.1	429 30.8	502 36.1
避難経路の確保など、安全性に配慮した オフィスである	1392 100.0	785 56.4	339 24.4	268 19.3
家具類の転倒・落下・移動防止等の対策が 施されている	1392 100.0	717 51.5	319 22.9	356 25.6
地震などの災害時のために、 非常（避難）用備品が用意されている	1392 100.0	890 63.9	253 18.2	249 17.9
清潔性が保たれ、整理整頓が行き届いている	1392 100.0	721 51.8	386 27.7	285 20.5
業務に応じた、適正な明るさが 確保されている	1392 100.0	917 65.9	290 20.8	185 13.3
業務に応じた、適正な騒音対策が 施されている	1392 100.0	704 50.6	388 27.9	300 21.6
業務を行う上で、適切な空調管理が 行われている	1392 100.0	755 54.2	306 22.0	331 23.8

図Ⅱ.6.11 成果・意欲を発揮しているワーカーの現在のオフィスに対する評価④

1段目 度数 2段目 横%	現在働いているオフィスに対する評価 チームや組織の目標達成に貢献している と回答したワーカーの評価				チームや組織の目標を達成するために、創造性を 発揮していると回答したワーカーの評価			
現在働いているオフィスのデザイン	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
オフィスに愛着を感じている	1274 100.0	482 37.8	343 26.9	449 35.2	974 100.0	393 40.3	262 26.9	319 32.8
自社のオリジナリティを感じる	1274 100.0	303 23.8	296 23.2	675 53.0	974 100.0	268 27.5	230 23.6	476 48.9
オフィスの内装には十分満足している	1274 100.0	353 27.7	349 27.4	572 44.9	974 100.0	293 30.1	272 27.9	409 42.0
オフィス家具には十分満足している	1274 100.0	308 24.2	341 26.8	625 49.1	974 100.0	271 27.8	254 26.1	449 46.1

1段目 度数 2段目 横%	仕事に意欲的に取り組んでいる と回答したワーカーの評価			
現在働いているオフィスのデザイン	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
オフィスに愛着を感じている	1392 100.0	545 39.2	376 27.0	471 33.8
自社のオリジナリティを感じる	1392 100.0	324 23.3	340 24.4	728 52.3
オフィスの内装には十分満足している	1392 100.0	375 26.9	392 28.2	625 44.9
オフィス家具には十分満足している	1392 100.0	336 24.1	380 27.3	676 48.6

図Ⅱ.6.12 成果・意欲を発揮しているワーカーの現在のオフィスに対する満足度

6.3価値観を実現しているオフィス像 (Q2×Q15)

オフィスのキーワード

「信頼関係・一体感・働きやすさ」

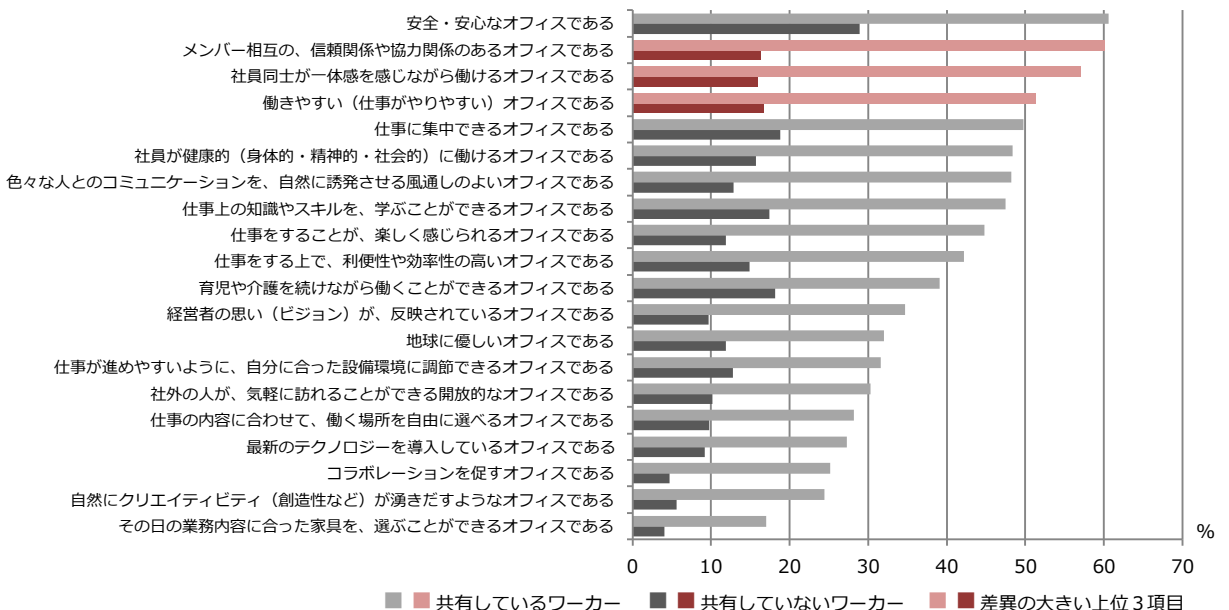
Ⅱ.5.2で示した、共感する仕事に対する価値観として高い支持を得た上位3項目「仕事による成功や達成感を、仲間と共有する」「仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある」「仕事を通じて、やりがいや充実感を感じる」を実現しているオフィスの要件を調査結果から見ると、3項目とも同様の結果を示している。

仕事による成功や達成感を、仲間と共有していると評価するワーカーが、現在働いているオフィスに合致するオフィス像として選択した上位4項目は、「安全・安心なオフィス60.6%」「メンバー相互の信頼関係や協力関係のあるオフィス60.2%」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス57.1%」「働きやすいオフィス51.3%」であった。これらの項目のうち、「安全・安心なオフィス」を除いた項目が、目標達成に貢献していないとするワーカーの回答者比率との差異が大きい上位3項目である。(図Ⅱ.6.1)

現在「仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある」と評価しているワーカーでは「メンバー相互の信頼関係や協力関係のあるオフィス60.8%」「安全・安心なオフィス60.1%」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス54.9%」「働きやすいオフィス50.5%」であり「仕事を通じて、やりがいや充実感を感じる」と評価しているワーカーでは「安全・安心なオフィス61.0%」「メンバー相互の信頼関係や協力関係のあるオフィス57.7%」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス54.3%」「働きやすいオフィス52.2%」であった。(図Ⅱ.6.2)

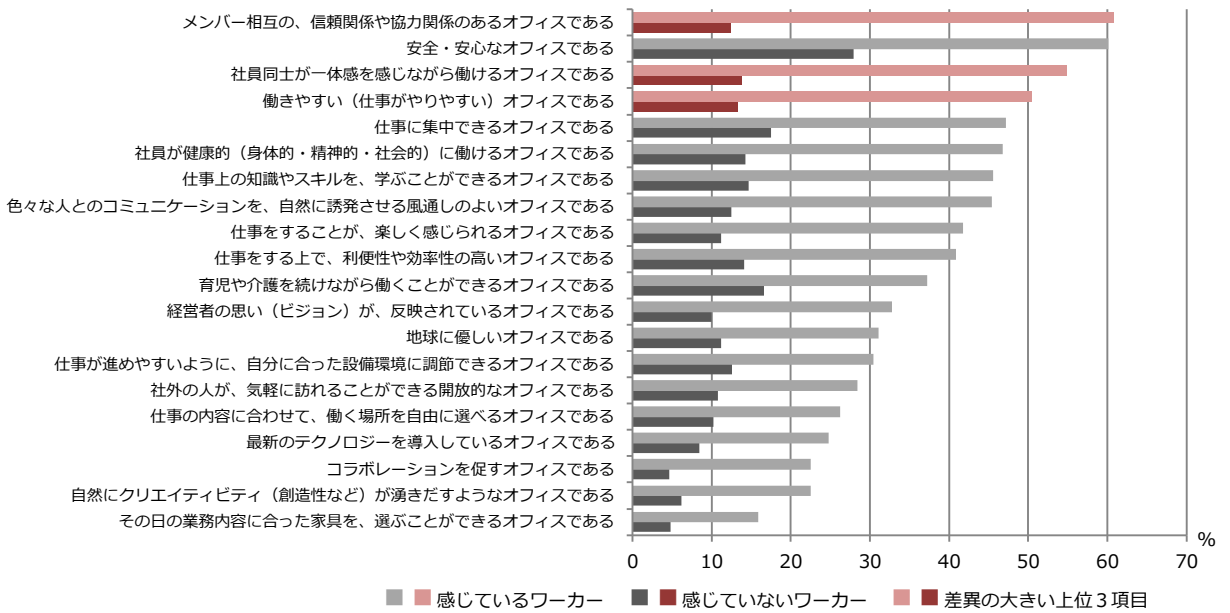
オフィス環境そのものにより、達成感の共有や信頼関係の醸成、やりがいや充実感の獲得を提供することはできないが、それらを実現しやすい環境やツールのセッティング、運用面のケアのためのしくみといった観点から、さまざまなサポートはできる。Ⅱ.6.3と同様、安心して働ける安全性という基本的な性能を有し、メンバー相互が信頼や協力関係のもと、一体感を感じながら働くことのできるオフィスづくりがその一例といえよう。そこでの活動では、価値観が共有され、同一の目標に向かうことで、より高い成果を生み出すことが可能であるということである。

仕事による成功や達成感を、仲間と共有していると感じているワーカー・チームの現在のオフィス像と、
そう感じていないワーカー・チームのオフィス像 (各項目の選択者比率の比較)



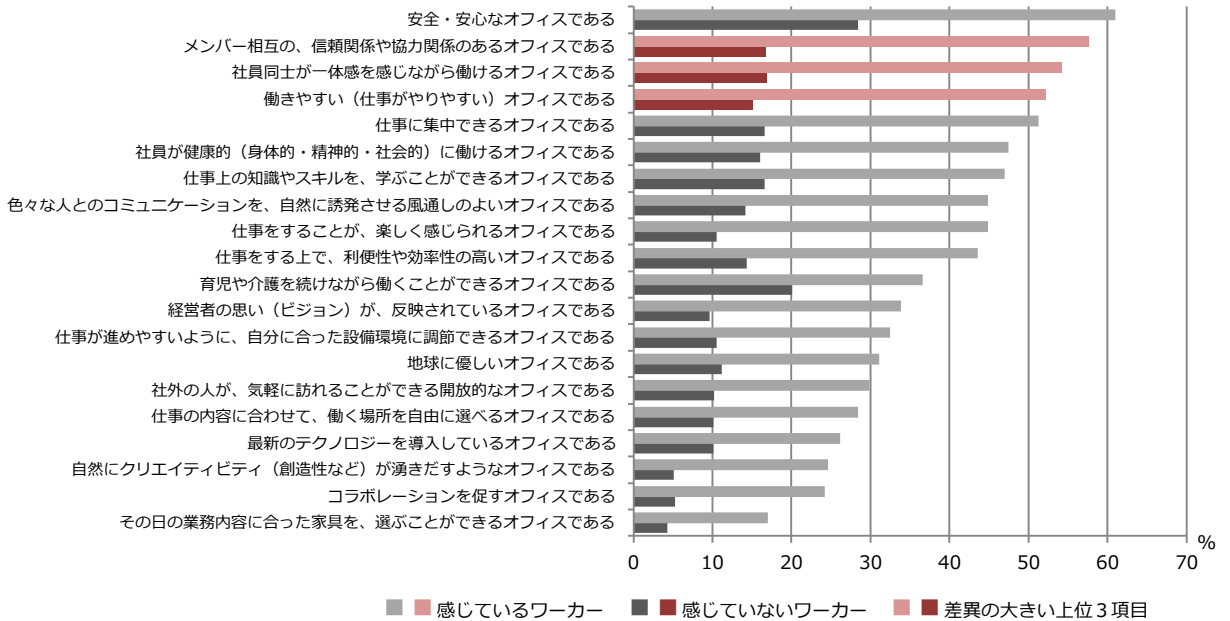
図Ⅱ.6.13 価値観を実現しているオフィス像①

仕事をする上で、思いやりや信頼関係があると感じているワーカー・チームの現在のオフィス像と、
そう感じていないワーカー・チームのオフィス像（各項目の選択者比率の比較）



図Ⅱ.6.14 価値観を実現しているオフィス像②

仕事を通じて、やりがいや充実感を感じているワーカー・チームの現在のオフィス像と、
そう感じていないワーカー・チームのオフィス像（各項目の選択者比率の比較）



図Ⅱ.6.15 価値観を実現しているオフィス像③

6.4価値観を実現しているオフィスの特徴（Q15×Q6,8,10,12）

オフィスのスペースやレイアウト

「コミュニケーションの量と質の達成が重要」

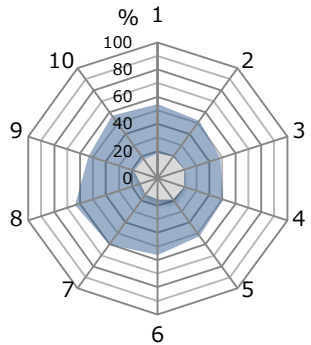
価値観の実現には「場」がある事が重要との結果がでている。部門隣接のスコアが低い事からまずはフォーマルに質を高める空間が必要であるが会議等の機能でなく実際の業務を行うスペースが実現されている。

特に成果をあげるには信頼感・思いやりなどの回答が多い事からも互酬性の達成が組織ミッションを達成するといえる。

現在働いているオフィスで実現できている項目

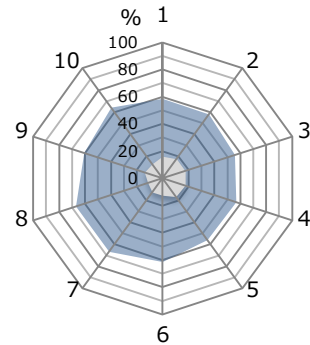
- 1 他の人と気軽にコミュニケーションできるように工夫されている
- 2 集中して仕事ができるように工夫されている
- 3 狭さを感じない（ゆとりを感じる）オフィスである
- 4 書庫室や倉庫等のスペースが十分に用意されている
- 5 会議・打ち合わせスペースが十分に用意されている
- 6 心身をリフレッシュできる場所が十分に用意されている
- 7 グループワークに適したスペースが十分に用意されている
- 8 情報共有を促すスペースが十分に用意されている
- 9 仕事上、関係の深い部署が近くに配置されている
- 10 仕事上、関係の深い機器等の装備は使いやすい配置となっている

仕事による成功や達成感を、仲間と共有しているワーカーと、そうでないワーカーの各項目の選択者比率の比較



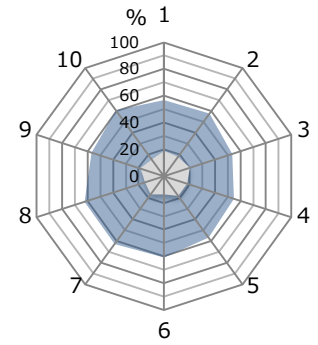
■ 価値観を実現しているワーカー・チーム

仕事をする上で、思いやりや信頼関係があると感じているワーカーと、そうでないワーカーの各項目の選択者比率の比較



■ 価値観を実現していないワーカー・チーム

仕事を通じて、やりがいや充実感を感じているワーカーと、そうでないワーカーの各項目の選択者比率の比較



図Ⅱ.6.16 価値観を実現しているオフィスの特徴①

オフィスの家具やツール

「家具に対する満足度が高くITC装備も不可欠」

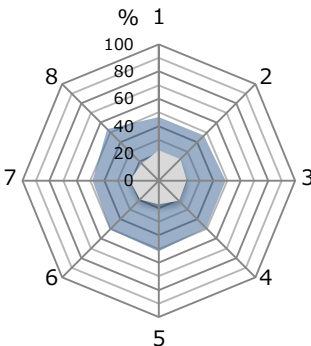
PCや携帯端末等のITC装備が十分でないと価値観の実現度合いが下がる。椅子の座り心地や書類の収納に関する満足度が高いと、価値観を実現できている傾向がうかがえる。

但し評価点数は低めで、家具やツールによる影響の度合いは低い。

現在働いているオフィスで実現できている項目

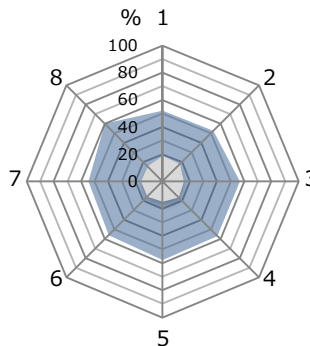
- 1 会議・ミーティングなどで、ICT設備が必要ときに利用できる
- 2 会議・ミーティングなどで、書きながら情報を共有する備品が必要ときに利用できる
- 3 自分の仕事や身体に合った、机の広さが確保されている
- 4 自分の仕事や身体に合った、机の高さが確保されている
- 5 仕事で使っている椅子の座り心地が良い
- 6 遠隔地との会議を、スムーズに行える装備が用意されている
- 7 ICTツール（パソコン、携帯端末など）が、十分に配備されている
- 8 書類の収納庫が、十分に用意されている

仕事による成功や達成感を、仲間と共有しているワーカーと、そうでないワーカーの各項目の選択者比率の比較



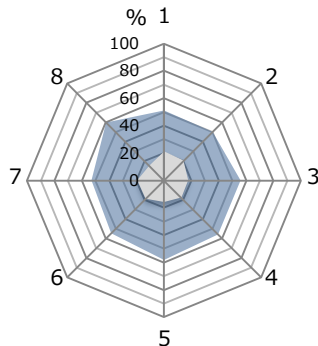
■ 価値観を実現しているワーカー・チーム

仕事をする上で、思いやりや信頼関係があると感じているワーカーと、そうでないワーカーの各項目の選択者比率の比較



■ 価値観を実現していないワーカー・チーム

仕事を通じて、やりがいや充実感を感じているワーカーと、そうでないワーカーの各項目の選択者比率の比較



図Ⅱ.6.17 価値観を実現しているオフィスの特徴②

オフィスの利便性や効率性

価値観の実現に対する課題はまだ多い

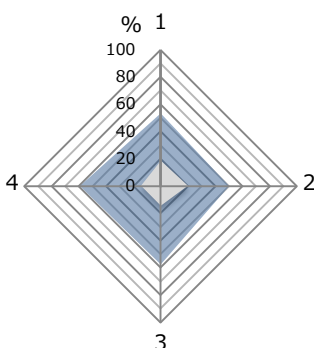
オフィスの改善やペーパーレスの取り組み、社内情報への入手の項目では仕事の成功やその達成感を共有しているワーカーや信頼関係があり充実感を感じていると回答したワーカーが多く半数近くを占めている。

しかしBYODの取り組みでは否定的な回答が多くどちらとも言えないとの回答も含めると価値観の実現にはまだ課題が残っている。

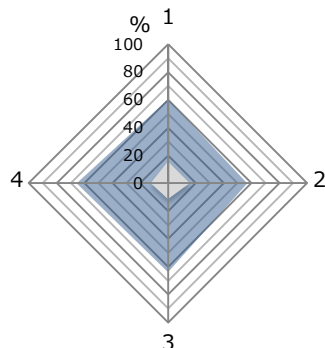
現在働いているオフィスで実現できている項目

- 1 仕事が進めやすいよう、オフィス改善がされている
- 2 ペーパーレスに取り組んでいる
- 3 社内に蓄積された情報を、すばやく入手できる
- 4 私物の端末を持ち込んで、業務で利用できる

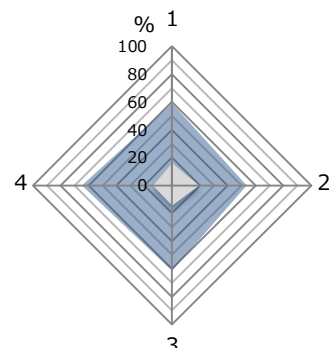
仕事による成功や達成感を、仲間と共有しているワーカーと、そうでないワーカーの各項目の選択者比率の比較



仕事をする上で、思いやりや信頼関係があると感じているワーカーと、そうでないワーカーの各項目の選択者比率の比較



仕事を通じて、やりがいや充実感を感じているワーカーと、そうでないワーカーの各項目の選択者比率の比較



■ 成果価値観を実現しているワーカー・チーム

■ 価値観を実現していないワーカー・チーム

図Ⅱ.6.18 価値観を実現しているオフィスの特徴③

オフィスの安全性や快適性

安全・快適なオフィスは価値観の実現に貢献している

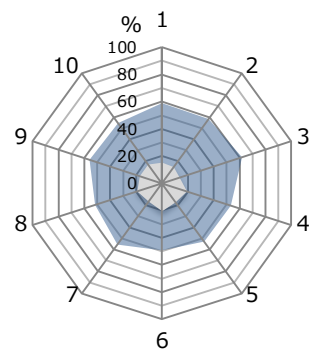
価値観を実現しているとした回答者群では、オフィスで安全性や快適性が配慮されているとした人が6割程度いたのに対し、価値観を実現していない回答者群で対策が施されているとした人は1割程度と少ない。

働く人の価値観の実現性認識と安全性や快適性への対策が実施されていることに対する認識との間には何らかの相関関係があると思われる。

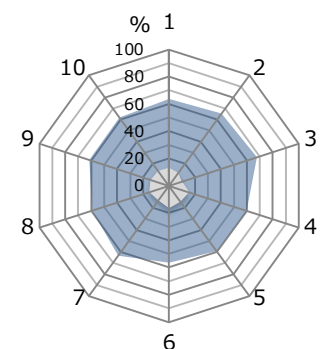
現在働いているオフィスで実現できている項目

- 1 ダイバシティに配慮したオフィスである
- 2 ワーカーの身体的健康に配慮したオフィスである
- 3 ワーカーのメンタルヘルスに配慮したオフィスである
- 4 避難経路の確保など、安全性に配慮したオフィスである
- 5 家具類の転倒・落下・移動防止等の対策が施されている
- 6 地震などの災害時のために、非常（避難）用備品が用意されている
- 7 清潔性が保たれ、整理整頓が行き届いている
- 8 業務に応じた、適正な明るさが確保されている
- 9 業務に応じた、適正な騒音対策が施されている
- 10 業務を行う上で、適切な空調管理が行われている

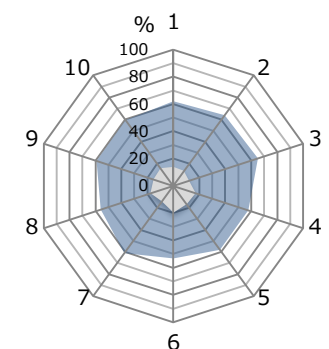
仕事による成功や達成感を、仲間と共有しているワーカーと、そうでないワーカーの各項目の選択者比率の比較



仕事をする上で、思いやりや信頼関係があると感じているワーカーと、そうでないワーカーの各項目の選択者比率の比較



仕事を通じて、やりがいや充実感を感じているワーカーと、そうでないワーカーの各項目の選択者比率の比較



■ 価値観を実現しているワーカー・チーム

■ 価値観を実現していないワーカー・チーム

図Ⅱ.6.19 価値観を実現しているオフィスの特徴④

価値観を実現している（満たしている）オフィスの特徴

全サンプルにおいて支持率の高かった、仕事に対する価値観（成功や達成感の共有、思いやりや信頼関係、やりがいや充実感）が実現されているワーカーやチームの働いているオフィスは、そうでないワーカーやチームの働いているオフィスと比べ、レイアウトやスペース、家具やツール、利便性や効率性、安全性や快適性の面で、様々な工夫や対策が実現されており、その評価の差異が大きいことが示された。（図Ⅱ.6.16～6.19）この結果は、先に示した成果・意欲を発揮しているオフィスの特徴と同様である。

現在のオフィスにおいて低い評価（実現度が低い）となっているのは、スペースやレイアウトでは、「心身をリフレッシュできる場所」「グループワークに適したスペース」などである。（図Ⅱ.6.20）また、安全性や快適性においては「ダイバシティへの配慮」「心身の健康への配慮」がやや低い評価となっている。

家具やツール、利便性や効率性（BYODを除く）に関する項目については、総じて実現度は高いと評価されている。

これらから、オフィス環境の性能は、先の3つの価値観の実現に少なからず影響を与え、オフィスにおける家具やツールの装備状況、利便性や効率性への配慮を基本的な性能とし、気軽なコミュニケーションと集中して仕事をするための工夫が行われていることが重要であり、更にこれからは、積極的なグループワークのための場の用意や、ダイバシティ、心身の健康面への配慮が求められているといえ、成果・意欲を発揮しているオフィスの特徴と同様である。

現在働いているオフィスの、スペースやレイアウトに対する評価

1段目 度数 2段目 横%	仕事による成功や達成感を、仲間と共有している と回答したワーカーの評価				仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある と回答したワーカーの評価			
	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
現状オフィスの スペースやレイアウトに対する評価								
他の人と気軽にコミュニケーションできるように工夫されている	1141 100.0	683 59.9	317 27.8	141 12.4	1340 100.0	730 54.5	403 30.1	207 15.4
集中して仕事ができるように工夫されている	1141 100.0	571 50.0	357 31.3	213 18.7	1340 100.0	634 47.3	428 31.9	278 20.7
狭さを感じない（ゆとりを感じる）オフィスである	1141 100.0	527 46.2	273 23.9	341 29.9	1340 100.0	608 45.4	316 23.6	416 31.0
書庫室や倉庫等のスペースが十分に用意されている	1141 100.0	421 36.9	313 27.4	407 35.7	1340 100.0	472 35.2	354 26.4	514 38.4
会議・打ち合わせスペースが十分に用意されている	1141 100.0	528 46.3	270 23.7	343 30.1	1340 100.0	564 42.1	328 24.5	448 33.4
心身をリフレッシュできる場所が十分に用意されている	1141 100.0	332 29.1	314 27.5	495 43.4	1340 100.0	362 27.0	358 26.7	620 46.3
グループワークに適したスペースが十分に用意されている	1141 100.0	402 35.2	350 30.7	389 34.1	1340 100.0	446 33.3	388 29.0	506 37.8
情報共有を促すスペースが十分に用意されている	1141 100.0	430 37.7	374 32.8	337 29.5	1340 100.0	451 33.7	450 33.6	439 32.8
仕事上、関係の深い部署が近くに配置されている	1141 100.0	512 44.9	333 29.2	296 25.9	1340 100.0	581 43.4	379 28.3	380 28.4
仕事上、関係の深い機器等の装備は使いやすい配置となっている	1141 100.0	512 44.9	384 33.7	245 21.5	1340 100.0	577 43.1	453 33.8	310 23.1

仕事を通じて、やりがいや充実感を感じている
と回答したワーカーの評価

1段目 度数 2段目 横%	仕事を通じて、やりがいや充実感を感じている と回答したワーカーの評価			
	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
現状オフィスの スペースやレイアウトに対する評価				
他の人と気軽にコミュニケーションできるように工夫されている	1262 100.0	710 56.3	355 28.1	197 15.6
集中して仕事ができるように工夫されている	1262 100.0	632 50.1	387 30.7	243 19.3
狭さを感じない（ゆとりを感じる）オフィスである	1262 100.0	584 46.3	299 23.7	379 30.0
書庫室や倉庫等のスペースが十分に用意されている	1262 100.0	456 36.1	345 27.3	461 36.5
会議・打ち合わせスペースが十分に用意されている	1262 100.0	570 45.2	303 24.0	389 30.8
心身をリフレッシュできる場所が十分に用意されている	1262 100.0	358 28.4	341 27.0	563 44.6
グループワークに適したスペースが十分に用意されている	1262 100.0	419 33.2	379 30.0	464 36.8
情報共有を促すスペースが十分に用意されている	1262 100.0	420 33.3	419 33.2	423 33.5
仕事上、関係の深い部署が近くに配置されている	1262 100.0	546 43.3	366 29.0	350 27.7
仕事上、関係の深い機器等の装備は使いやすい配置となっている	1262 100.0	547 43.3	433 34.3	282 22.3

図Ⅱ.6.20 価値観を実現しているオフィスの特徴①

現在働いているオフィスの、家具やツールに対する評価

1段目 度数 2段目 横%	仕事による成功や達成感を、仲間と共有している と回答したワーカーの評価				仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある と回答したワーカーの評価			
	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
現状オフィスの家具やツール に対する評価								
会議・ミーティングなどで、ICT設備（プロ ジェクタやモニタ等）が必要な時に利用できる	1141 100.0	703 61.6	255 22.3	183 16.0	1340 100.0	786 58.7	300 22.4	254 19.0
会議・ミーティングなどで、書きながら情報を 共有する備品が必要なときに利用できる	1141 100.0	728 63.8	239 20.9	174 15.2	1340 100.0	819 61.1	292 21.8	229 17.1
自分の仕事や身体に合った、机の広さが 確保されている	1141 100.0	630 55.2	299 26.2	212 18.6	1340 100.0	730 54.5	342 25.5	268 20.0
自分の仕事や身体に合った、机の高さが 確保されている	1141 100.0	636 55.7	304 26.6	201 17.6	1340 100.0	735 54.9	350 26.1	255 19.0
仕事で使っている椅子の座り心地が良い	1141 100.0	589 51.6	302 26.5	250 21.9	1340 100.0	657 49.0	370 27.6	313 23.4
遠隔地との会議を、スムーズに行える装備が 用意されている	1141 100.0	559 49.0	277 24.3	305 26.7	1340 100.0	620 46.3	327 24.4	393 29.3
ICTツール（パソコン、携帯端末など）が、 十分に配備されている	1141 100.0	746 65.4	226 19.8	169 14.8	1340 100.0	839 62.6	278 20.7	223 16.6
書類の収納庫が、十分に用意されている	1141 100.0	465 40.8	331 29.0	345 30.2	1340 100.0	524 39.1	379 28.3	437 32.6

1段目 度数 2段目 横%	仕事を通じて、やりがいや充実感を感じている と回答したワーカーの評価			
	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
現状オフィスの家具やツール に対する評価				
会議・ミーティングなどで、ICT設備（プロ ジェクタやモニタ等）が必要な時に利用できる	1262 100.0	770 61.0	278 22.0	214 17.0
会議・ミーティングなどで、書きながら情報を 共有する備品が必要なときに利用できる	1262 100.0	780 61.8	267 21.2	215 17.0
自分の仕事や身体に合った、机の広さが 確保されている	1262 100.0	719 57.0	322 25.5	221 17.5
自分の仕事や身体に合った、机の高さが 確保されている	1262 100.0	722 57.2	333 26.4	207 16.4
仕事で使っている椅子の座り心地が良い	1262 100.0	660 52.3	335 26.5	267 21.2
遠隔地との会議を、スムーズに行える装備が 用意されている	1262 100.0	604 47.9	302 23.9	356 28.2
ICTツール（パソコン、携帯端末など）が、 十分に配備されている	1262 100.0	814 64.5	256 20.3	192 15.2
書類の収納庫が、十分に用意されている	1262 100.0	521 41.3	356 28.2	385 30.5

図Ⅱ.6.21 価値観を実現しているオフィスの特徴①

現在働いているオフィスの、利便性や効率性に対する評価

1段目 度数 2段目 横%	仕事による成功や達成感を、仲間と共有している と回答したワーカーの評価				仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある と回答したワーカーの評価			
	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
現状オフィスの家具やツール に対する評価								
仕事が進めやすいよう、オフィス改善が されている	1141 100.0	529 46.4	356 31.2	256 22.4	1340 100.0	600 44.8	423 31.6	317 23.7
ペーパーレスに取り組んでいる	1141 100.0	571 50.0	268 23.5	302 26.5	1340 100.0	648 48.4	327 24.4	365 27.2
社内に蓄積された情報を、すばやく入手で きる	1141 100.0	535 46.9	338 29.6	268 23.5	1340 100.0	595 44.4	405 30.2	340 25.4
私物の端末を持ち込んで、業務で利用できる （BYODを導入している）	1141 100.0	277 24.3	216 18.9	648 56.8	1340 100.0	307 22.9	253 18.9	780 58.2

1段目 度数 2段目 横%	仕事を通じて、やりがいや充実感を感じている と回答したワーカーの評価			
	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
現状オフィスの家具やツール に対する評価				
仕事が進めやすいよう、オフィス改善が されている	1262 100.0	587 46.5	406 32.2	269 21.3
ペーパーレスに取り組んでいる	1262 100.0	609 48.3	315 25.0	338 26.8
社内に蓄積された情報を、すばやく入手で きる	1262 100.0	572 45.3	380 30.1	310 24.6
私物の端末を持ち込んで、業務で利用できる （BYODを導入している）	1262 100.0	303 24.0	247 19.6	712 56.4

図Ⅱ.6.22 価値観を実現しているオフィスの特徴②

現在働いているオフィスの、安全性や快適性に対する評価

1段目 度数 2段目 横%	仕事による成功や達成感を、仲間と共有している と回答したワーカーの評価				仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある と回答したワーカーの評価			
現状オフィスのスペースやレイアウト に対する評価	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
ダイバシティに配慮したオフィスである	1141 100.0	403 35.3	386 33.8	352 30.9	1340 100.0	436 32.5	446 33.3	458 34.2
ワーカーの身体的健康に配慮した オフィスである	1141 100.0	440 38.6	374 32.8	327 28.7	1340 100.0	493 36.8	430 32.1	417 31.1
ワーカーのメンタルヘルスに配慮した オフィスである	1141 100.0	415 36.4	381 33.4	345 30.2	1340 100.0	454 33.9	442 33.0	444 33.1
避難経路の確保など、安全性に配慮した オフィスである	1141 100.0	642 56.3	300 26.3	199 17.4	1340 100.0	722 53.9	363 27.1	255 19.0
家具類の転倒・落下・移動防止等の対策が 施されている	1141 100.0	609 53.4	270 23.7	262 23.0	1340 100.0	683 51.0	325 24.3	332 24.8
地震などの災害時のために、 非常（避難）用備品が用意されている	1141 100.0	741 64.9	226 19.8	174 15.2	1340 100.0	847 63.2	256 19.1	237 17.7
清潔性が保たれ、整理整頓が行き届いている	1141 100.0	619 54.3	321 28.1	201 17.6	1340 100.0	704 52.5	389 29.0	247 18.4
業務に応じた、適正な明るさが確保されている	1141 100.0	761 66.7	253 22.2	127 11.1	1340 100.0	873 65.1	305 22.8	162 12.1
業務に応じた、適正な騒音対策が施されている	1141 100.0	609 53.4	327 28.7	205 18.0	1340 100.0	668 49.9	394 29.4	278 20.7
業務を行う上で、適切な空調管理が 行われている	1141 100.0	642 56.3	272 23.8	227 19.9	1340 100.0	726 54.2	330 24.6	284 21.2

1段目 度数 2段目 横%	仕事を通じて、やりがいや充実感を感じている と回答したワーカーの評価			
現状オフィスのスペースやレイアウト に対する評価	total	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
ダイバシティに配慮したオフィスである	1262 100.0	424 33.6	443 35.1	395 31.3
ワーカーの身体的健康に配慮した オフィスである	1262 100.0	482 38.2	423 33.5	357 28.3
ワーカーのメンタルヘルスに配慮した オフィスである	1262 100.0	437 34.6	421 33.4	404 32.0
避難経路の確保など、安全性に配慮した オフィスである	1262 100.0	698 55.3	335 26.5	229 18.1
家具類の転倒・落下・移動防止等の対策が 施されている	1262 100.0	668 52.9	299 23.7	295 23.4
地震などの災害時のために、 非常（避難）用備品が用意されている	1262 100.0	799 63.3	243 19.3	220 17.4
清潔性が保たれ、整理整頓が行き届いている	1262 100.0	678 53.7	349 27.7	235 18.6
業務に応じた、適正な明るさが確保されている	1262 100.0	824 65.3	288 22.8	150 11.9
業務に応じた、適正な騒音対策が施されている	1262 100.0	644 51.0	353 28.0	265 21.0
業務を行う上で、適切な空調管理が 行われている	1262 100.0	698 55.3	288 22.8	276 21.9

図Ⅱ.6.23 価値観を実現しているオフィスの特徴②

7.成果・意欲を発揮するためのオフィス

7.1成果・意欲を発揮しているワーカーの価値観（Q13、Q14×Q15）

「価値観が満たされることが、創造性や成果の発揮につながっていく」

図Ⅱ.7.2、図Ⅱ.7.3に示すとおり、仕事に対して共感する価値観の上位は下記の4項目である。

- 1.仕事による成功や達成感を仲間と共有すること
- 2.仕事をする上での思いやりや信頼関係があること
- 3.仕事を通じて、やりがいや充実感を得ること
- 4.仕事を通じて、自分自身を成長させること

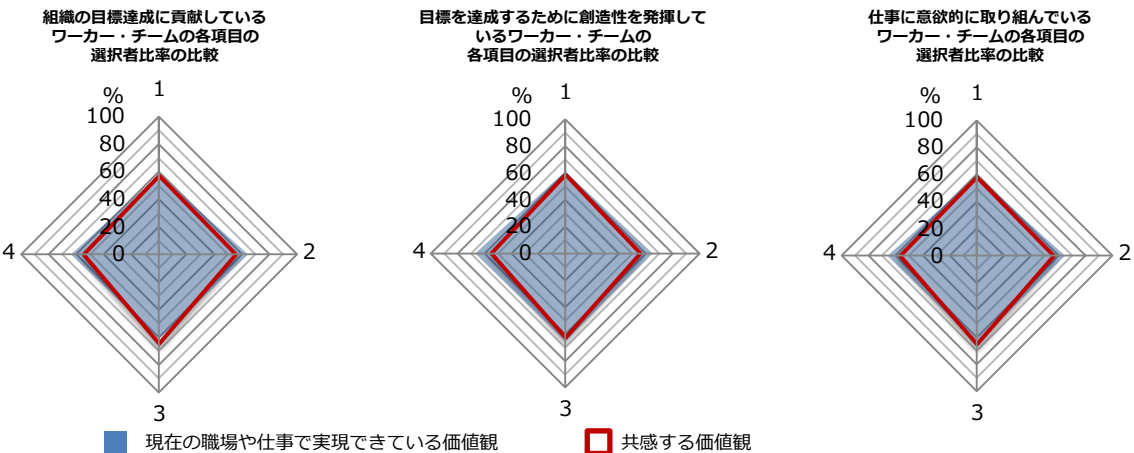
組織の目標達成への貢献や、創造性の発揮について、実現できているワーカー・チームと、実現できていないワーカー・チームの状態を比較すると、実現できていないワーカー・チームは「仕事による成功や達成感を仲間と共有すること」および「仕事を通じて、やりがいや充実感を得ること」が著しく低いことが見て取れる。これらのことから、価値観が満たされることで意欲的に取り組み、その結果、創造性や成果の発揮につながっていくと考えることができる。

仕事による達成感や仲間との共有、信頼関係の醸成などが特に重要であり、オフィスのつくり方や運用により、それらの実現をサポートすることが求められるのではないかとと思われる。

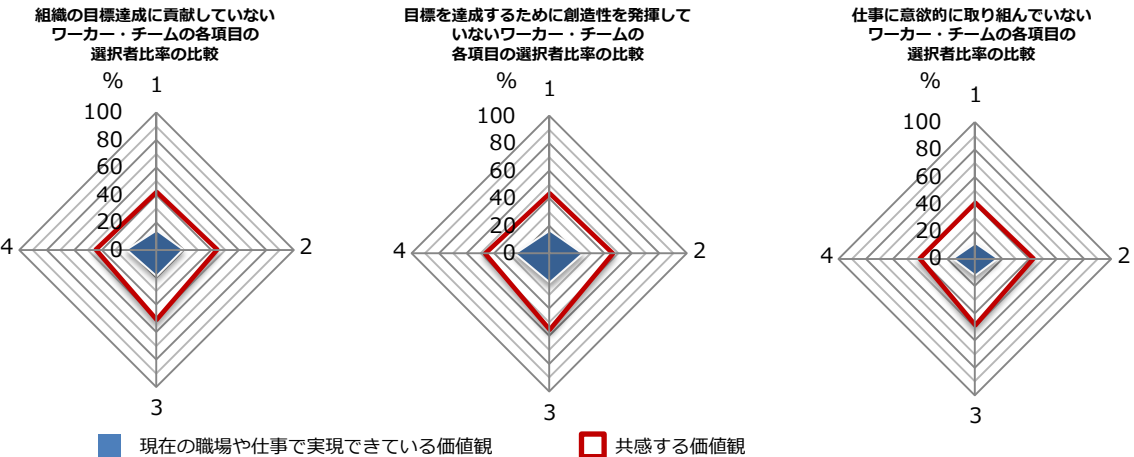
属性別の相違で大きな特徴はないが、仕事を通じてのやりがいや充実感については、女性の方が強く求めている傾向にある。（女性46%、男性35%）

共感する価値観（上位項目）

- 1 仕事による成功や達成感を、仲間と共有すること
- 2 仕事をする上での、思いやりや信頼関係
- 3 仕事を通じて、やりがいや充実感を得ること
- 4 仕事を通じて、自分自身を成長させること



図Ⅱ.7.1 成果・意欲を発揮しているワーカーの価値観



図Ⅱ.7.2 成果・意欲を発揮していないワーカーの価値観

7.2成果・意欲を発揮するためのオフィス像（Q13、Q1）

共感するオフィス像

「心身ともに健康的に働く・仕事をするのが楽しく感じられる・一体感」

図Ⅱ.7.3は、「チームや組織の目標達成に貢献している」「チームや組織の目標を達成するために創造性を発揮している」「仕事に意欲的に取り組んでいる」それぞれに対し、肯定的回答者（そう思う、ややそう思う）と他の回答者別に、「働いてみたいオフィス像」の選択状況を集計したものである。

図中の■部は、回答者の過半が選択した各オフィス像の選択者比率（選択者数／回答者数）である。赤字で示している数値は、肯定的回答者比率と比べ、その他の回答者の選択者比率が10%以上低い項目である。「チームや組織の目標達成に貢献している」「チームや組織の目標を達成するために創造性を発揮している」「仕事に意欲的に取り組んでいる」とも、肯定的回答者とそれ以外の回答者の共感するオフィス像の選択傾向は、ほぼ同様である。肯定的回答者の選択者比率は、全体的にやや高い。「仕事に意欲的に取り組んでいる」ワーカーとそうでないワーカーでは、10%以上の選択者比率に差異のある項目が多い。

1段目 回答数 2段目 横%	TOTAL	チームや組織の目標達成に貢献している			チームや組織の目標を達成するために、 創造性を発揮している			仕事に意欲的に取り組んでいる		
		そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
TOTAL	3316	1274	1315	727	974	1413	929	1392	1297	627
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
社員同士が一体感を感じながら働ける オフィス	1699	738	636	325	582	701	416	805	624	270
	51.2	57.9	48.4	44.7	59.8	49.6	44.8	57.8	48.1	43.1
仕事の内容に合わせて、働く場所を自由 に選べるオフィス	976	390	360	226	293	397	286	438	346	192
	29.4	30.6	27.4	31.1	30.1	28.1	30.8	31.5	26.7	30.6
色々な人とのコミュニケーションを自然 に誘発させる風通しのよいオフィス	1410	632	513	265	480	562	368	718	469	223
	42.5	49.6	39.0	36.5	49.3	39.8	39.6	51.6	36.2	35.6
コラボレーションを促すオフィス	315	154	105	56	133	116	66	162	97	56
	9.5	12.1	8.0	7.7	13.7	8.2	7.1	11.6	7.5	8.9
社員が健康的（身体的・精神的・社会的） に働けるオフィス	1992	840	735	417	595	830	567	916	740	336
	60.1	65.9	55.9	57.4	61.1	58.7	61.0	65.8	57.1	53.6
メンバー相互の、信頼関係や協力関係 のあるオフィス	1527	670	552	305	496	605	426	750	519	258
	46.0	52.6	42.0	42.0	50.9	42.8	45.9	53.9	40.0	41.1
仕事をするのが、楽しく感じられる オフィス	1775	737	667	371	556	714	505	814	641	320
	53.5	57.8	50.7	51.0	57.1	50.5	54.4	58.5	49.4	51.0
自然にクリエイティビティ（創造性など） が湧きだすようなオフィス	585	284	184	117	233	208	144	317	168	100
	17.6	22.3	14.0	16.1	23.9	14.7	15.5	22.8	13.0	15.9
育児や介護を続けながら働くことができ るオフィス	784	334	273	177	244	292	248	382	264	138
	23.6	26.2	20.8	24.3	25.1	20.7	26.7	27.4	20.4	22.0
最新のテクノロジーを導入しているオフィ ス	487	241	156	90	181	182	124	259	141	87
	14.7	18.9	11.9	12.4	18.6	12.9	13.3	18.6	10.9	13.9
安全・安心なオフィス	1437	602	550	285	448	595	394	687	509	241
	43.3	47.3	41.8	39.2	46.0	42.1	42.4	49.4	39.2	38.4
地球に優しいオフィス	468	196	176	96	169	176	123	247	146	75
	14.1	15.4	13.4	13.2	17.4	12.5	13.2	17.7	11.3	12.0
仕事に集中できるオフィス	1531	659	562	310	492	631	408	753	523	255
	46.2	51.7	42.7	42.6	50.5	44.7	43.9	54.1	40.3	40.7
仕事上の知識やスキルを、学ぶことが できるオフィス	1143	485	421	237	375	448	320	558	381	204
	34.5	38.1	32.0	32.6	38.5	31.7	34.4	40.1	29.4	32.5
経営者の思い（ビジョン）が、反映さ れているオフィス	458	221	141	96	176	164	118	243	131	84
	13.8	17.3	10.7	13.2	18.1	11.6	12.7	17.5	10.1	13.4
社外の人が、気軽に訪れることができ る開放的なオフィス	310	128	108	74	112	97	101	144	100	66
	9.3	10.0	8.2	10.2	11.5	6.9	10.9	10.3	7.7	10.5
働きやすい（仕事がいやしやすい）オ フィス	1687	688	637	362	498	693	496	772	615	300
	50.9	54.0	48.4	49.8	51.1	49.0	53.4	55.5	47.4	47.8
仕事をする上で、利便性や効率性の高い オフィス	1302	568	468	266	425	520	357	647	437	218
	39.3	44.6	35.6	36.6	43.6	36.8	38.4	46.5	33.7	34.8
仕事が進めやすいように、自分に合っ た設備環境に調節できるオフィス	1080	486	367	227	346	422	312	541	356	183
	32.6	38.1	27.9	31.2	35.5	29.9	33.6	38.9	27.4	29.2
その日の業務内容に合った家具を、選 ぶことができるオフィス	182	85	55	42	70	61	51	92	53	37
	5.5	6.7	4.2	5.8	7.2	4.3	5.5	6.6	4.1	5.9
その他	7	4	1	2	2	2	3	4	2	1
	0.2	0.3	0.1	0.3	0.2	0.1	0.3	0.3	0.2	0.2
特にない	172	21	106	45	20	100	52	18	110	44
	5.2	1.6	8.1	6.2	2.1	7.1	5.6	1.3	8.5	7.0

図Ⅱ.7.3 成果・意欲を発揮するためのオフィス像

「チームや組織の目標達成に貢献している」「チームや組織の目標を達成するために創造性を発揮している」「仕事に意欲的に取り組んでいる」とも、肯定的回答者の選択したオフィス像の上位は、「社員が健康的に働ける」「社員同士が一体感を感じながら働ける」「仕事をするのが楽しく感じられる」オフィスである。

共感するオフィス像の優先度（重要度）については、「チームや組織の目標達成に貢献している」「チームや組織の目標を達成するために創造性を発揮している」「仕事に意欲的に取り組んでいる」と回答しているワーカーとも同一の結果であり、「社員が健康的（身体的・精神的・社会的）に働けるオフィス」「仕事をするのが、楽しく感じられるオフィス」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス」が上位を占めている。

これらの結果からみると、オフィス環境改善が、仕事に対する意欲的な取り組みや、その結果としての目標達成への貢献に、強く影響するものと考えられる。そして、「仕事に集中できる」「働きやすい」オフィスという、基本的な要件の実現が、これらの環境改善の前提であることを忘れてはならない。

	一段目 二丁目 ■	選択者数 % 上位 5 項目	チームや組織の 目標達成に貢献している と評価するワーカーが 優先するオフィス像	チームや組織の目標を 達成するために、 創造性を発揮していると 評価しているワーカーが 優先するオフィス像	仕事に意欲的に 取り組んでいると 評価しているワーカーが 優先するオフィス像
TOTAL			1274 100.0	974 100.0	1392 100.0
社員同士が一体感を感じながら 働けるオフィス		336 26.4	336 26.4	296 30.4	344 24.7
仕事の内容に合わせて、 働く場所を自由に選べるオフィス		137 10.8	137 10.8	111 11.4	154 11.1
色々な人とのコミュニケーションを、 自然に誘発させる風通しのよいオフィス		258 20.3	258 20.3	206 21.1	301 21.6
コラボレーションを促すオフィス		20 1.6	20 1.6	16 1.6	20 1.4
社員が健康的（身体的・精神的・社会的）に 働けるオフィス		513 40.3	513 40.3	352 36.1	554 39.8
メンバー相互の、信頼関係や協力関係のある オフィス		297 23.3	297 23.3	231 23.7	341 24.5
仕事をするのが、楽しく感じられる オフィス		360 28.3	360 28.3	267 27.4	386 27.7
自然にクリエイティビティ（創造性など） が湧きだすようなオフィス		56 4.4	56 4.4	49 5.0	72 5.2
育児や介護を続けながら働くことができる オフィス		124 9.7	124 9.7	81 8.3	149 10.7
最新のテクノロジーを導入しているオフィス		55 4.3	55 4.3	41 4.2	67 4.8
安全・安心なオフィス		163 12.8	163 12.8	122 12.5	181 13.0
地球に優しいオフィス		17 1.3	17 1.3	18 1.8	19 1.4
仕事に集中できるオフィス		238 18.7	238 18.7	184 18.9	268 19.3
仕事上の知識やスキルを、学ぶことができる オフィス		95 7.5	95 7.5	71 7.3	118 8.5
経営者の思い（ビジョン）が、反映されている オフィス		33 2.6	33 2.6	21 2.2	32 2.3
社外の人々が、気軽に訪れることができる開放的 なオフィス		9 0.7	9 0.7	7 0.7	8 0.6
働きやすい（仕事やりやすい）オフィス		224 17.6	224 17.6	148 15.2	229 16.5
仕事をする上で、利便性や効率性の高い オフィス		146 11.5	146 11.5	109 11.2	168 12.1
仕事が進めやすいように、自分に合った設備 環境（空調・照明）に調節できるオフィス		102 8.0	102 8.0	66 6.8	104 7.5
その日の業務内容に合った家具を、選ぶことが できるオフィス		4 0.3	4 0.3	3 0.3	4 0.3
その他		1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1
特になし		21 1.6	21 1.6	20 2.1	18 1.3

図Ⅱ.7.4 成果・意欲を発揮するために優先されるオフィス像

7.3成果・意欲を発揮するためのオフィス性能 (Q13、Q5,7,9,11×Q6,8,10,12)

オフィスのスペースやレイアウト

「成果を達成するにはコミュニケーションの質を高める事が重要」

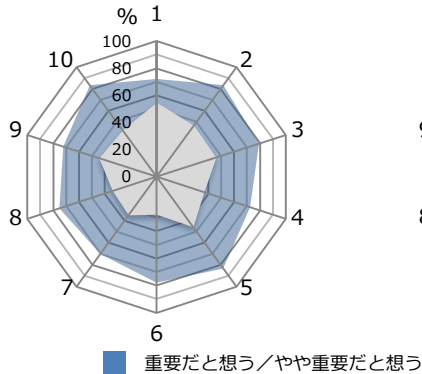
様々な情報共有とグループでのコミュニケーションが重要と考えている (7.8) 会議などの機能ではない新しいコミュニケーションの重要性を意識しており、この表出化が成果を大きく実現するスペースとなる。

なにげないコミュニケーション (1) についてのスコアが小さく実現度もたかくなっているのは環境がそのファクトにならないと考察しているとの仮説もあるが逆にこの整備も必要かもしれない。

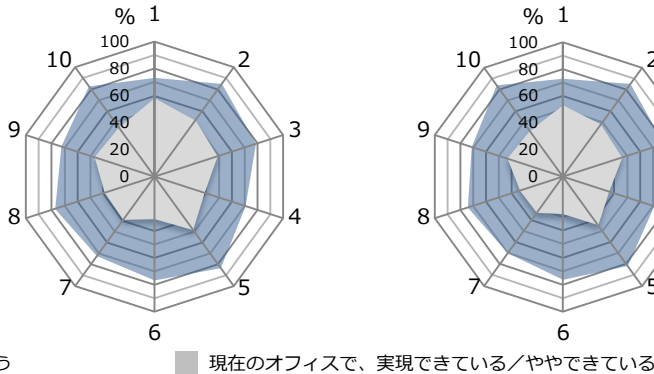
オフィスにおける重要項目

- 1 他の人と気軽にコミュニケーションできるように工夫されている
- 2 集中して仕事ができるように工夫されている
- 3 狭さを感じない (ゆとりを感じる) オフィスである
- 4 書庫室や倉庫等のスペースが十分に用意されている
- 5 会議・打ち合わせスペースが十分に用意されている
- 6 心身をリフレッシュできる場所が十分に用意されている
- 7 グループワークに適したスペースが十分に用意されている
- 8 情報共有を促すスペースが十分に用意されている
- 9 仕事上、関係の深い部署が近くに配置されている
- 10 仕事上、関係の深い機器等の装備は使いやすい配置となっている

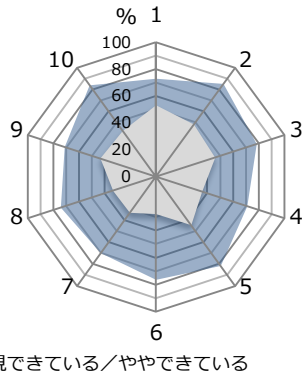
組織の目標達成に貢献しているワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



目標を達成するために創造性を発揮しているワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



仕事に意欲的に取り組んでいるワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



図Ⅱ.7.5 成果・意欲を発揮するためのオフィスの性能①

オフィスの家具やツール

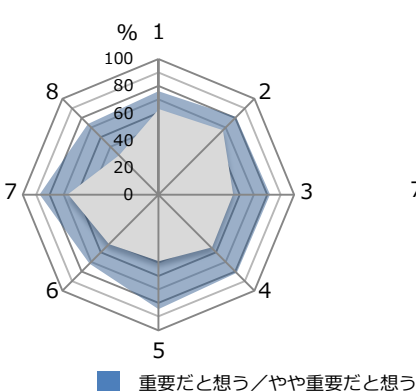
「書類の収納量と椅子の座り心地に関する施策が重要」

他の項目と比べると理想と現実の差異が少ないものの書類収納に対する理想と現実の差異の傾向は同じように現れている。普段手に触れる机や椅子についても、重要度は高い。

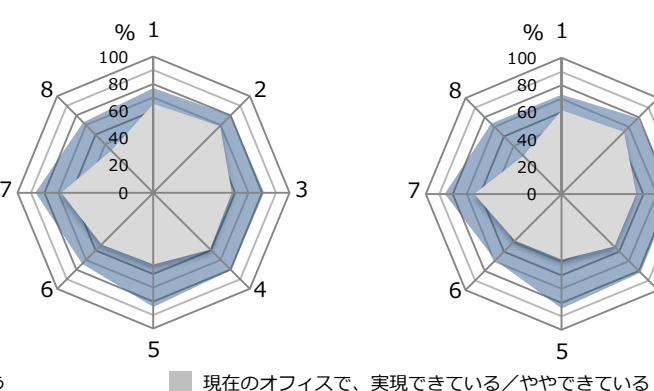
オフィスにおける重要項目

- 1 会議・ミーティングなどで、ICT設備が必要ときに利用できる
- 2 会議・ミーティングなどで、書きながら情報を共有する備品が必要ときに利用できる
- 3 自分の仕事や身体に合った、机の広さが確保されている
- 4 自分の仕事や身体に合った、机の高さが確保されている
- 5 仕事で使っている椅子の座り心地が良い
- 6 遠隔地との会議を、スムーズに行える装備が用意されている
- 7 ICTツール (パソコン、携帯端末など) が、十分に配備されている
- 8 書類の収納庫が、十分に用意されている

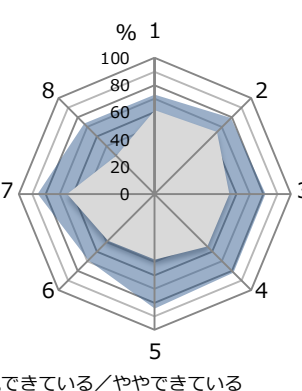
組織の目標達成に貢献しているワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



目標を達成するために創造性を発揮しているワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



仕事に意欲的に取り組んでいるワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



図Ⅱ.7.6 成果・意欲を発揮するためのオフィスの性能②

オフィスの利便性や効率性

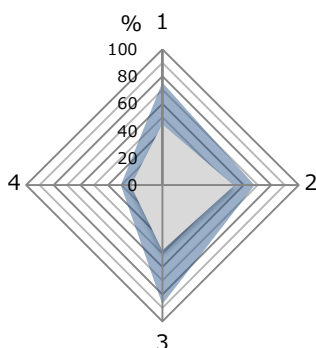
強化すべき事項はBYODの導入である

成果や意欲を発揮しているワーカーの65～87%は、オフィス性能における重要事項を仕事が進めやすいようにオフィスが改善されること、ペーパーレスへの取り組み、社内に蓄積された情報のすばやい入手と認識しているが、今後強化すべき課題は、32%の認識に留まっている私物の端末を持ち込み業務で利用できるBYODの導入である。

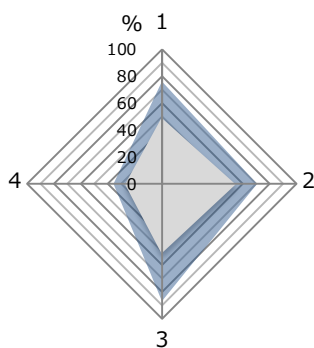
オフィスにおける重要項目

- 1 仕事が進めやすいよう、オフィス改善がされている
- 2 ペーパーレスに取り組んでいる
- 3 社内に蓄積された情報を、すばやく入手できる
- 4 私物の端末を持ち込んで、業務で利用できる

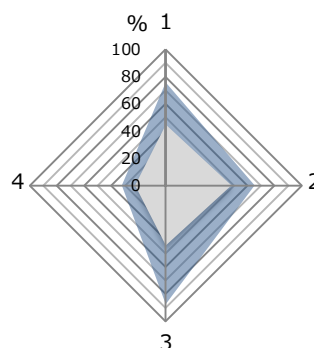
組織の目標達成に貢献しているワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



目標を達成するために創造性を発揮しているワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



仕事に意欲的に取り組んでいるワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



■ 重要だと想う／やや重要だと想う

■ 現在のオフィスで、実現できている／ややできている

図Ⅱ.7.7 成果・意欲を発揮するためのオフィスの性能③

オフィスの安全性や快適性

成果・意欲を発揮をしているオフィスでは、安全性・快適性への対策が実施されている割合が高い

成果や意欲を発揮している回答者群は、ダイバーシティを除く殆どの項目に対して重要性を認識している。

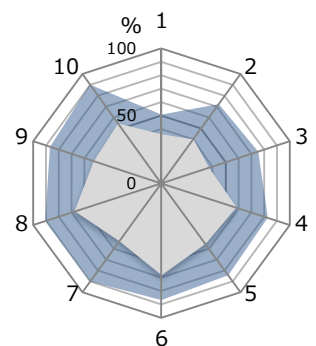
それに対してオフィスでの実現度は全体の傾向

(図Ⅱ.3.3) と比べると1.5～2倍ほど高くなっており、安全性・快適性への配慮と成果・意欲の発揮には相関性があるように見える。その中で重要度と実現度の間に差があったのは「3.メンタルヘルス」「7.清潔性・整理整頓」の2項目であった。

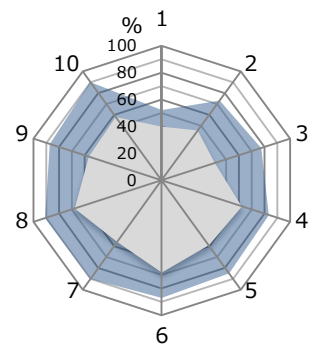
オフィスにおける重要項目

- 1 ダイバーシティに配慮したオフィスである
- 2 ワーカーの身体的健康に配慮したオフィスである
- 3 ワーカーのメンタルヘルスに配慮したオフィスである
- 4 避難経路の確保など、安全性に配慮したオフィスである
- 5 家具類の転倒・落下・移動防止等の対策が施されている
- 6 地震などの災害時のために、非常（避難）用備品が用意されている
- 7 清潔性が保たれ、整理整頓が行き届いている
- 8 業務に応じた、適正な明るさが確保されている
- 9 業務に応じた、適正な騒音対策が施されている
- 10 業務を行う上で、適切な空調管理が行われている

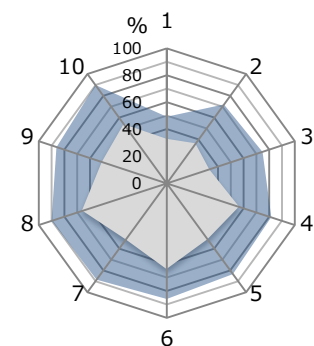
組織の目標達成に貢献しているワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



目標を達成するために創造性を発揮しているワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



仕事に意欲的に取り組んでいるワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



■ 重要だと想う／やや重要だと想う

■ 現在のオフィスで、実現できている／ややできている

図Ⅱ.7.8 成果・意欲を発揮するためのオフィスの性能④

7.4価値観を実現するためのオフィス像 (Q14×Q1)

共感するオフィス像

「心身ともに健康的に働く・仕事をするのが楽しく感じられる・一体感」

図Ⅱ.7.9は、Ⅱ.5で示した共感する仕事に対する価値観の、上位3項目について、共感すると回答したワーカーがどのようなオフィス像に共感するか、どのようなオフィス像が優先されるかをまとめたものである。

図中の■部は、それぞれの上位5項目を示している。3項目の仕事に対する価値観に共感したワーカーが選択したオフィス像は、選択者の比率には若干の差異はあるものの、全体的には同様の傾向であった。

「社員が健康的に働けるオフィス」が働いてみたいと思うオフィス像、その優先度とも最上位で各価値観とも、70%を超える選択者比率、40%を超える優先度評価となっている。他の優先度の高いオフィス像は「仕事をするのが楽しく感じられるオフィス」「メンバー相互の信頼関係や協力関係のあるオフィス」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス」であり、共感するオフィス像の全体傾向とほぼ一致している。

一段目 二段目	選択者数 %	「仕事による成功や達成感を、 仲間と共有すること」に 共感するワーカー		「仕事をする上での、 思いやりや信頼関係」に 共感するワーカー		「仕事を通じて、やりがいや 充実感を得ること」に 共感するワーカー	
		働いてみたい と思う オフィス像	優先度の高い オフィス像	働いてみたい と思う オフィス像	優先度の高い オフィス像	働いてみたい と思う オフィス像	優先度の高い オフィス像
TOTAL		1576	1576	1594	1594	1846	1846
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス		1065	460	1025	420	1110	419
		67.6	29.2	64.3	26.3	60.1	22.7
仕事の内容に合わせて、働く場所を自由に選べるオフィス		550	167	542	164	623	185
		34.9	10.6	34.0	10.3	33.7	10.0
色々な人とのコミュニケーションを、自然に誘発させる風通しのよいオフィス		931	377	920	362	1029	404
		59.1	23.9	57.7	22.7	55.7	21.9
コラボレーションを促すオフィス		230	20	203	17	237	23
		14.6	1.3	12.7	1.1	12.8	1.2
社員が健康的（身体的・精神的・社会的）に働けるオフィス		1145	687	1192	748	1367	839
		72.7	43.6	74.8	46.9	74.1	45.4
メンバー相互の、信頼関係や協力関係のあるオフィス		979	470	1003	487	1111	513
		62.1	29.8	62.9	30.6	60.2	27.8
仕事をするのが、楽しく感じられるオフィス		1064	537	1083	535	1255	645
		67.5	34.1	67.9	33.6	68.0	34.9
自然にクリエイティビティ（創造性など）が湧きだすようなオフィス		401	74	378	52	454	83
		25.4	4.7	23.7	3.3	24.6	4.5
育児や介護を続けながら働くことができるオフィス		502	167	542	198	583	207
		31.9	10.6	34.0	12.4	31.6	11.2
最新のテクノロジーを導入しているオフィス		304	59	300	59	350	73
		19.3	3.7	18.8	3.7	19.0	4.0
安全・安心なオフィス		829	187	883	198	994	237
		52.6	11.9	55.4	12.4	53.8	12.8
地球に優しいオフィス		305	18	339	19	341	16
		19.4	1.1	21.3	1.2	18.5	0.9
仕事に集中できるオフィス		891	278	887	262	1073	366
		56.5	17.6	55.6	16.4	58.1	19.8
仕事上の知識やスキルを、学ぶことができるオフィス		722	142	772	150	878	191
		45.8	9.0	48.4	9.4	47.6	10.3
経営者の思い（ビジョン）が、反映されているオフィス		341	43	337	42	372	48
		21.6	2.7	21.1	2.6	20.2	2.6
社外の人々が、気軽に訪ねることができる開放的なオフィス		208	10	212	9	228	11
		13.2	0.6	13.3	0.6	12.4	0.6
働きやすい（仕事がいやらない）オフィス		979	265	1037	301	1213	365
		62.1	16.8	65.1	18.9	65.7	19.8
仕事をする上で、利便性や効率性の高いオフィス		780	168	796	155	957	224
		49.5	10.7	49.9	9.7	51.8	12.1
仕事が進めやすいように、自分に合った設備環境（空調・照明）に調節できるオフィス		652	108	669	106	782	143
		41.4	6.9	42.0	6.6	42.4	7.7
その日の業務内容に合った家具を、選ぶことができるオフィス		121	8	127	6	142	7
		7.7	0.5	8.0	0.4	7.7	0.4
その他		2	0	4	0	3	0
		0.1	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0
特になし		10	10	12	12	14	14
		0.6	0.6	0.8	0.8	0.8	0.8

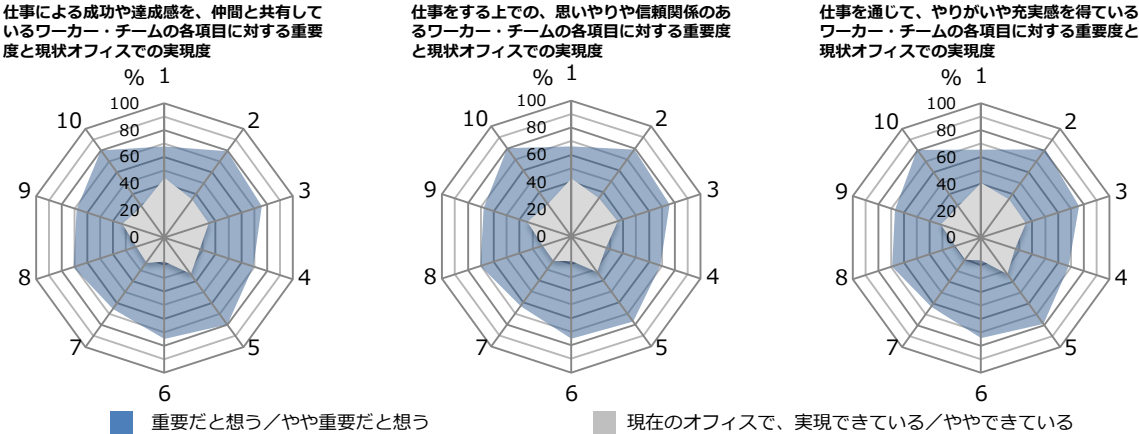
図Ⅱ.7.9 価値観を実現するためのオフィスの像

7.5価値観を実現するためのオフィスの性能 (Q15S、Q5,7,9,11×Q6,8,10,12)

オフィスのスペースやレイアウト
コミュニケーションの本質を追求する事が重要

インフォーマルな会話が組織の結びつきを強くすると仮定すると注目すべきは1と6のギャップ。1に対しては重要度（低）と実現度（高）でギャップは小さい。一方6は逆となる。1と6は相関する関係にあると仮定できるとインフォーマルな会話はどこで行われているのか。どの程度の深さなのか。結果からはフォーマルに対しインフォーマルな会話は重要視されずマネジメントが十分でないと推察できる。組織の互酬性を発揮されるためにもこのマネジメントは大きな課題である。

- オフィスにおける重要項目
- 1 他の人と気軽にコミュニケーションできるように工夫されている
 - 2 集中して仕事ができるように工夫されている
 - 3 狭さを感じない（ゆとりを感じる）オフィスである
 - 4 書庫や倉庫等のスペースが十分に用意されている
 - 5 会議・打ち合わせスペースが十分に用意されている
 - 6 心身をリフレッシュできる場所が十分に用意されている
 - 7 グループワークに適したスペースが十分に用意されている
 - 8 情報共有を促すスペースが十分に用意されている
 - 9 仕事上、関係の深い部署が近くに配置されている
 - 10 仕事上、関係の深い機器等の装備は使いやすい配置となっている

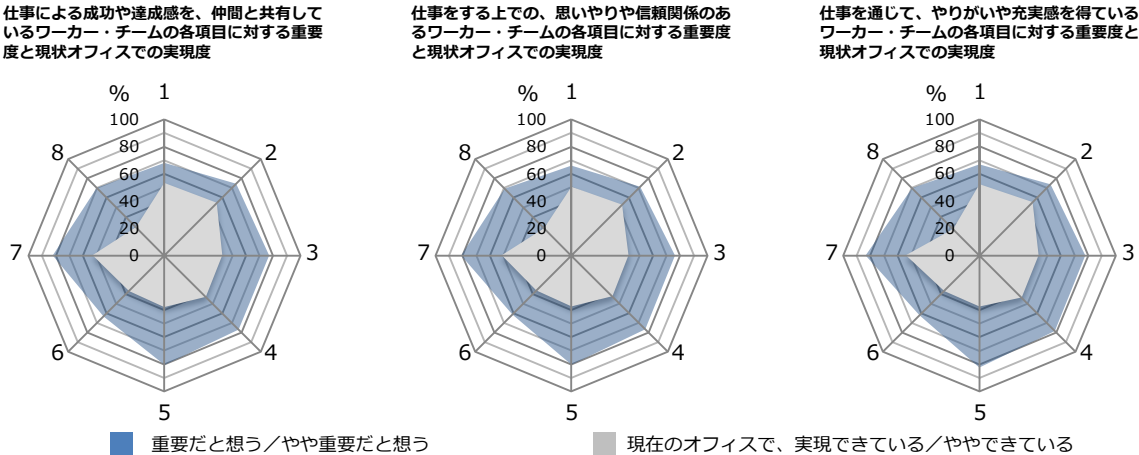


図Ⅱ.7.10 価値観を実現するためのオフィスの性能①

オフィスの家具やツール
「デジタルとアナログ、エルゴノミクスとの融合」

ICTの装備については言わずもがな、書類収納に関する手立てを十分に行うことは「価値観の実現」に大きく関与する。机の広さ/高さ、椅子の座り心地についても同様の傾向があり、投資効果に結びつくモノと思われる。

- オフィスにおける重要項目
- 1 会議・ミーティングなどで、ICT設備が必要ときに利用できる
 - 2 会議・ミーティングなどで、書きながら情報を共有する備品が必要ときに利用できる
 - 3 自分の仕事や身体に合った、机の広さが確保されている
 - 4 自分の仕事や身体に合った、机の高さが確保されている
 - 5 仕事で使っている椅子の座り心地が良い
 - 6 遠隔地との会議を、スムーズに行える装備が用意されている
 - 7 ICTツール（パソコン、携帯端末など）が、十分に配備されている
 - 8 書類の収納庫が、十分に用意されている



図Ⅱ.7.11 価値観を実現するためのオフィスの性能②

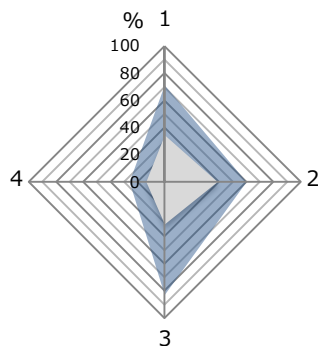
オフィスの利便性や効率性 強化すべき事項はBYODの導入である

価値観を実現しているワーカーの60～80%以上はオフィス性能における重要事項を仕事が進めやすいようにオフィスが改善されること、ペーパーレスへの取り組み、社内に蓄積された情報のすばやい入手と認識しているが、今後強化すべき課題は、約25%の認識に留まっている私物の端末を持ち込み業務で利用できるBYODの導入である。

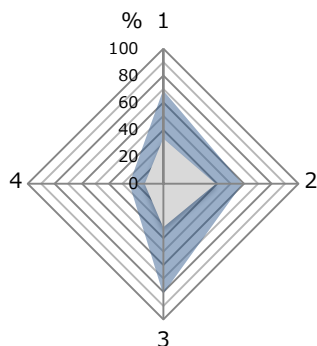
オフィスにおける重要項目

- 1 仕事が進めやすいよう、オフィス改善がされている
- 2 ペーパーレスに取り組んでいる
- 3 社内に蓄積された情報を、すばやく入手できる
- 4 私物の端末を持ち込んで、業務で利用できる

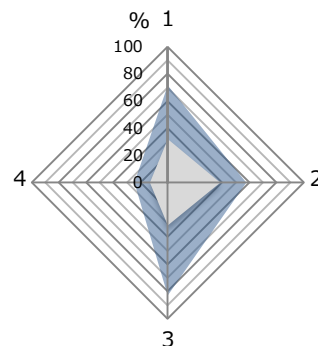
仕事による成功や達成感を、仲間と共有しているワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



仕事をする上での、思いやりや信頼関係のあるワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



仕事を通じて、やりがいや充実感を得ているワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



■ 重要だと想う／やや重要だと想う

■ 現在のオフィスで、実現できている／ややできている

図Ⅱ.7.12 価値観を実現するためのオフィスの性能③

オフィスの安全性や快適性

価値観の実現を目指すオフィスに安全性・快適性に関する提案は有効

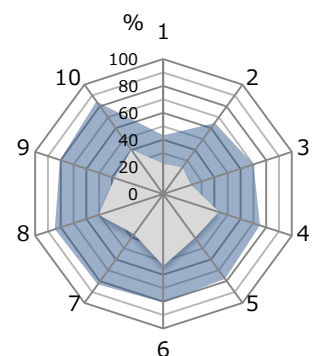
価値観を実現しているとした回答者が安全性や快適性を重要だと答えた割合は高く、全回答者の結果（図Ⅱ.3.3）よりもこちらの方が1～2割ほど高くなっている。

オフィスでの実現性認識との差が大きいことから、この分野に対する改善提案は今後も有効と思われる。特に差が大きかったのは「3.メンタルヘルス」「7.清潔性・整理整頓」の2項目であった。

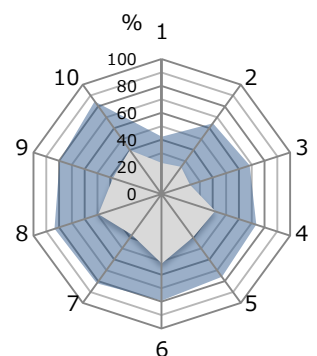
オフィスにおける重要項目

- 1 ダイバシティに配慮したオフィスである
- 2 ワーカーの身体的健康に配慮したオフィスである
- 3 ワーカーのメンタルヘルスに配慮したオフィスである
- 4 避難経路の確保など、安全性に配慮したオフィスである
- 5 家具類の転倒・落下・移動防止等の対策が施されている
- 6 地震などの災害時のために、非常（避難）用備品が用意されている
- 7 清潔性が保たれ、整理整頓が行き届いている
- 8 業務に応じた、適正な明るさが確保されている
- 9 業務に応じた、適正な騒音対策が施されている
- 10 業務を行う上で、適切な空調管理が行われている

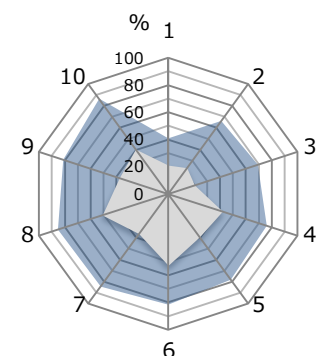
仕事による成功や達成感を、仲間と共有しているワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



仕事をする上での、思いやりや信頼関係のあるワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



仕事を通じて、やりがいや充実感を得ているワーカー・チームの各項目に対する重要度と現状オフィスでの実現度



■ 重要だと想う／やや重要だと想う

■ 現在のオフィスで、実現できている／ややできている

図Ⅱ.7.13 価値観を実現するためのオフィスの性能④

8.ワークスタイル

8.1共感するこれからの働き方（Q16,Q16×属性）

「オフィスにおける健康問題はワーカーにも経営層にも重要なテーマ」

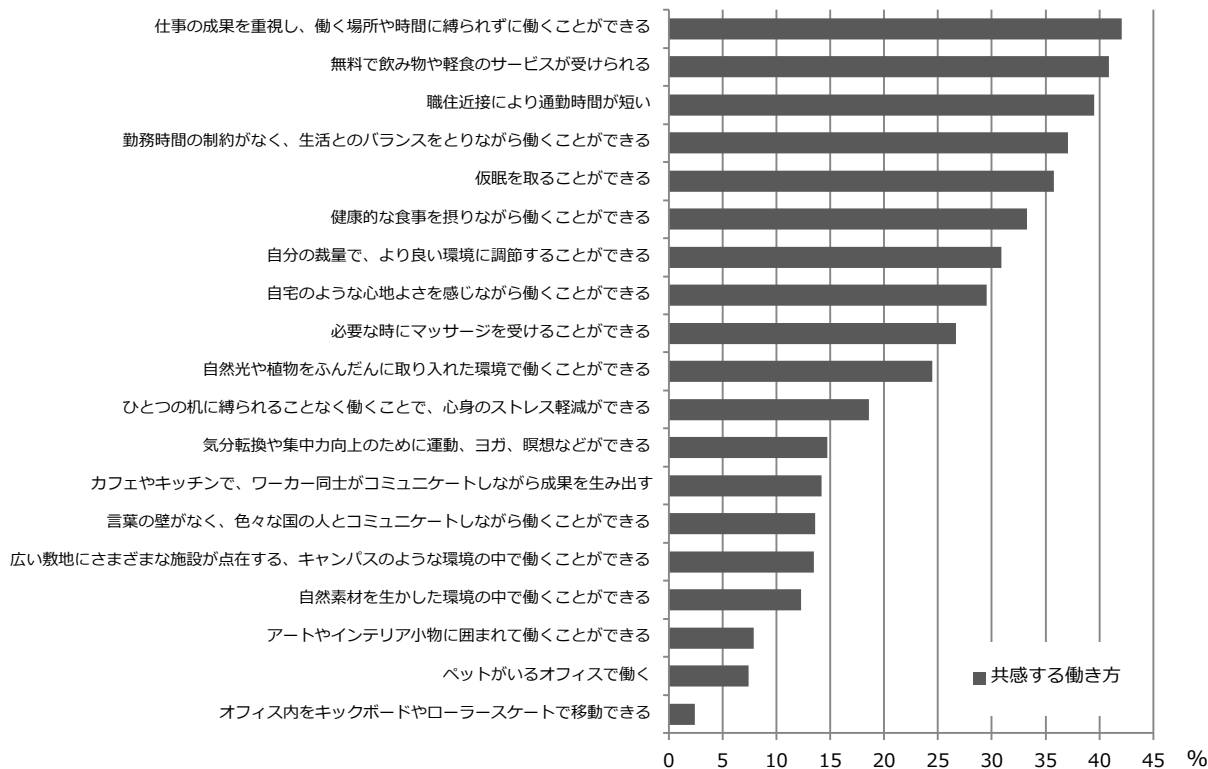
オフィスの環境は備えつけられた家具・什器やインテリアだけでなく、働き方そのものからも大きな影響を受ける。ここでは現在の働き方にとらわれず、これからの働き方として「共感できるもの」「魅力的なもの」について質問をした。（図Ⅱ.8.1）

昨今のワークライフ・バランスやテレワーク、モバイルワークの影響もあり「仕事の成果を重視し、働く場所や時間に縛られずに働くことができる」が最も多く（42.1%）、「勤務時間の制約が無く、生活とのバランスをとりながら働くことができる」が4位（37.1%）に来ている。

また福利厚生的な意味合いも強い「無料で飲み物や軽食のサービスが受けられる」が2番目（40.9%）で、「健康的な食事を摂りながら働くことができる」が6位（33.3%）である。ワーカーにとって、生活時間の大半を過ごすオフィスでの健康問題は非常に関心の高いテーマであり、健康経営などの課題と相俟って経営層にとっても今後ますます重要視されることと思われる。しかしながら属性別でみると、無料の飲食サービスや、仮眠、マッサージなどは若年層や一般・派遣社員に関心度が高く、高齢層、部長職以上の経営層は低い。

また性別に見ると、男性に比べて女性は「健康的な食事を摂りながら働くことができる（44.6%）」「仮眠を取ることができる（45.7%）」「必要な時にマッサージを受けることができる（40.6%）」など、リフレッシュ・リラックス系の要望が高い。

一方職種別の分析では、企画系（マーケティング・宣伝・広報など）は「自分の裁量で、より良い環境に調節することができる（38.3%）」「ひとつの机に縛られることなく働くことで、心身のストレス軽減ができる（24.2%）」など、自由度の高さを魅力としている。



図Ⅱ.8.1 共感するこれからの働き方

8.2成果・意欲を発揮しているチーム・ワーカーの共感する働き方（Q13×Q16）

「意欲的なチーム・組織は、健康やワークライフバランスに対する意識も高い」

図Ⅱ.8.2はチームや組織の意欲・目標達成貢献度とオフィス環境、共感する働き方との相関関係を表す。全体で1位、2位の「仕事の成果を重視し、働く場所や時間に縛られずに働ける」「無料で飲み物や軽食のサービスが受けられる」に対して、「チームや組織の目標達成に貢献している」「チームや組織の目標を達成するために、創造性を発揮している」「仕事に意欲的に取り組んでいる」それぞれに「そう思う」「ややそう思う」合計は共に1,2位を占める。

3位以下も若干のばらつきは見られるものの大きな変動は無く、目標達成に意欲的に取り組み、チームや組織に貢献的な取り組みをしている人は健康やワークライフバランスなどに対する意識も高いことがうかがえる。

	TOTAL	チームや組織の目標達成に貢献している			チームや組織の目標を達成するために、創造性を発揮している			仕事に意欲的に取り組んでいる		
		そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
1段目 度数	3316	1274	1315	727	974	1413	929	1392	1297	627
2段目 横%	100.0	38.4	39.7	21.9	29.4	42.6	28.0	42.0	39.1	18.9
仕事の成果を重視し、働く場所 や時間に縛られずに働ける	1395	595	510	290	478	555	362	673	473	249
	100.0	42.7	36.6	20.8	34.3	39.8	25.9	48.2	33.9	17.8
自宅のような心地よさを感じな がら働くことができる	977	420	333	224	302	372	303	442	338	197
	100.0	43.0	34.1	22.9	30.9	38.1	31.0	45.2	34.6	20.2
カフェやキッチンで、ワーカー 同士がコミュニケーションしながら 成果を生み出す	470	225	157	88	178	175	117	238	155	77
	100.0	47.9	33.4	18.7	37.9	37.2	24.9	50.6	33.0	16.4
広い敷地にさまざまな施設が点 在する、キャンパスのような環 境の中で働くことができる	449	221	142	86	165	172	112	230	149	70
	100.0	49.2	31.6	19.2	36.7	38.3	24.9	51.2	33.2	15.6
自然光や植物をふんだんに取り 入れた環境で働くことができる	811	391	259	161	302	306	203	414	268	129
	100.0	48.2	31.9	19.9	37.2	37.7	25.0	51.0	33.0	15.9
アートやインテリア小物に囲ま れて働くことができる	261	124	73	64	99	81	81	136	77	48
	100.0	47.5	28.0	24.5	37.9	31.0	31.0	52.1	29.5	18.4
健康的な食事を摂りながら働く ことができる	1105	507	361	237	375	419	311	560	361	184
	100.0	45.9	32.7	21.4	33.9	37.9	28.1	50.7	32.7	16.7
自然素材を生かした環境の中で 働くことができる	409	197	125	87	163	136	110	231	115	63
	100.0	48.2	30.6	21.3	39.9	33.3	26.9	56.5	28.1	15.4
自分の裁量で、より良い環境に 調節することができる	1023	458	354	211	346	381	296	512	325	186
	100.0	44.8	34.6	20.6	33.8	37.2	28.9	50.0	31.8	18.2
ひとつの机に縛られることなく 働くことで、心身のストレス軽 減ができる	616	274	190	152	216	224	176	285	200	131
	100.0	44.5	30.8	24.7	35.1	36.4	28.6	46.3	32.5	21.3
勤務時間の制約がなく、生活と のバランスをとりながら働くこ とができる	1231	534	442	255	380	505	346	579	427	225
	100.0	43.4	35.9	20.7	30.9	41.0	28.1	47.0	34.7	18.3
ペットがいるオフィスで働く	246	102	81	63	79	88	79	104	89	53
	100.0	41.5	32.9	25.6	32.1	35.8	32.1	42.3	36.2	21.5
オフィス内をキックボードや ローラースケートで移動できる	81	46	18	17	34	25	22	46	21	14
	100.0	56.8	22.2	21.0	42.0	30.9	27.2	56.8	25.9	17.3
気分転換や集中力向上のために 運動、ヨガ、瞑想などができる	489	233	143	113	167	168	154	246	155	88
	100.0	47.6	29.2	23.1	34.2	34.4	31.5	50.3	31.7	18.0
必要な時にマッサージを受ける ことができる	886	413	272	201	289	331	266	418	303	165
	100.0	46.6	30.7	22.7	32.6	37.4	30.0	47.2	34.2	18.6
仮眠を取ることができる	1186	505	408	273	349	459	378	549	400	237
	100.0	42.6	34.4	23.0	29.4	38.7	31.9	46.3	33.7	20.0
無料で飲み物や軽食のサービス が受けられる	1357	593	464	300	424	525	408	655	453	249
	100.0	43.7	34.2	22.1	31.2	38.7	30.1	48.3	33.4	18.3
言葉の壁がなく、色々な国の人 とコミュニケーションしながら働く ことができる	452	224	141	87	185	152	115	251	129	72
	100.0	49.6	31.2	19.2	40.9	33.6	25.4	55.5	28.5	15.9
職住近接により通勤時間が短い	1309	558	470	281	384	511	414	626	429	254
	100.0	42.6	35.9	21.5	29.3	39.0	31.6	47.8	32.8	19.4
この中にはない	411	72	238	101	60	240	111	81	242	88
	100.0	17.5	57.9	24.6	14.6	58.4	27.0	19.7	58.9	21.4

図Ⅱ.8.2 成果・意欲を発揮しているチーム・ワーカーの共感する働き方

9.オフィス運用の状況

オフィスにおける健康行動の実態（Q25、Q25×属性）

「健康に対する意識が高くても行動が伴っておらず、積極的な仕掛けが必要」

ワーカーの健康に配慮することはプレゼンティーズムやアブセンティーズムの抑止につながり、最終的には業務効率の向上、つまり会社の業績に好影響を及ぼすことになる。オフィスにおける健康促進は環境の整備と同時に、そこに働く人たちがいかに意識して行動するかにもかかっている。

図Ⅱ.9.1はオフィスにおける健康行動の実態に関する調査である。「オフィスでの仕事、オフィス内をよく歩いている」については「そう思う」「ややそう思う」合計38.1%が多いものの、「どちらともいえない」30.6%、「あまりそう思わない」「そう思わない」合計31.2%と差は少なく、健康を意識して行動しているとはいえない。

また「オフィスでの仕事、立った姿勢で仕事をすることが多い」に関しては「あまりそう思わない」「思わない」が66.4%と全体の2/3を占めており、長時間座り続けている実態を表している。

他方「健康であれば仕事の効率が上がる」「健康であれば仕事に意欲的に取り組める」についてはどちらも「そう思う」「ややそう思う」が70%以上を占めており、健康に対する意識は高いことが伺える。

次に仕事に対するモチベーションが高い「組織の目標達成に貢献している」「組織の目標を達成するために、創造性を発揮している」「仕事に意欲的に取り組んでいる」チームやワーカーにおいては、「オフィスでの仕事、オフィス内をよく歩いている」に対して、「そう思う」「ややそう思う」合計が半数前後となっている。一概に言うことはできないかもしれないが、積極的に体を動かすことが良い影響を及ぼしていることが推測される。繰り返しになるがオフィスにおける健康配慮は、単に環境を整備するだけではなく、そこに働く人々の健康に対する意識を向上させ、積極的に参画させる仕掛けが必要である。

	全体					組織の目標達成に貢献している チームやワーカー			
	TOTAL	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない		TOTAL	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
オフィスでの仕事、 オフィス内をよく歩いている	3316 100.0	1265 38.1	1015 30.6	1036 31.2	1265 100.0	657 51.9	386 30.5	222 17.5	
オフィスでの仕事、 立った姿勢で仕事をすることが多い	3316 100.0	447 13.5	666 20.1	2203 66.4	447 100.0	222 49.7	137 30.6	88 19.7	
オフィスでは、 集中して仕事ができる	3316 100.0	1123 33.9	1345 40.6	848 25.6	1123 100.0	645 57.4	328 29.2	150 13.4	
オフィスでは、 必要なときに気分転換できている	3316 100.0	1140 34.4	1024 30.9	1152 34.7	1140 100.0	623 54.6	348 30.5	169 14.8	
健康のため、上下階への移動には 階段を使うよう心がけている	3316 100.0	1452 43.8	899 27.1	965 29.1	1452 100.0	698 48.1	477 32.9	277 19.1	
健康のため、オフィスでの 食事や飲み物には気をつけている	3316 100.0	1301 39.2	1154 34.8	861 26.0	1301 100.0	673 51.7	388 29.8	240 18.4	
健康であれば、 仕事の能率が上がる	3316 100.0	2371 71.5	717 21.6	228 6.9	2371 100.0	1100 46.4	789 33.3	482 20.3	
健康であれば、 仕事に意欲的に取り組める	3316 100.0	2357 71.1	755 22.8	204 6.2	2357 100.0	1108 47.0	776 32.9	473 20.1	

	組織の目標を達成するために、 創造性を発揮しているチームやワーカー					仕事に意欲的に取り組んでいる チームやワーカー			
	TOTAL	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない		TOTAL	そう思う ややそう思う	どちらとも いえない	あまり思わない そう思わない
オフィスでの仕事、 オフィス内をよく歩いている	1265 100.0	537 42.5	449 35.5	279 22.1	1265 100.0	690 54.5	378 29.9	197 15.6	
オフィスでの仕事、 立った姿勢で仕事をすることが多い	447 100.0	192 43.0	150 33.6	105 23.5	447 100.0	244 54.6	128 28.6	75 16.8	
オフィスでは、 集中して仕事ができる	1123 100.0	514 45.8	398 35.4	211 18.8	1123 100.0	734 65.4	274 24.4	115 10.2	
オフィスでは、 必要なときに気分転換できている	1140 100.0	503 44.1	416 36.5	221 19.4	1140 100.0	681 59.7	343 30.1	116 10.2	
健康のため、上下階への移動には 階段を使うよう心がけている	1452 100.0	550 37.9	540 37.2	362 24.9	1452 100.0	772 53.2	454 31.3	226 15.6	
健康のため、オフィスでの 食事や飲み物には気をつけている	1301 100.0	551 42.4	444 34.1	306 23.5	1301 100.0	743 57.1	366 28.1	192 14.8	
健康であれば、 仕事の能率が上がる	2371 100.0	842 35.5	879 37.1	650 27.4	2371 100.0	1213 51.2	761 32.1	397 16.7	
健康であれば、 仕事に意欲的に取り組める	2371 100.0	842 35.5	879 37.1	650 27.4	2357 100.0	1251 53.1	740 31.4	366 15.5	

図Ⅱ.9.1 オフィスにおける健康行動

自席の運用状況（Q17,18）

- ・自席を固定化するオフィス運用が圧倒的（83.4％）である。
- ・席を利用しないオフィス運用（その他）が6.7％を占める。

	TOTAL	固定席	フリー アドレス	グループ アドレス	その他
自席の運用状況	3316	2766	229	99	222
	100.0	83.4	6.9	3.0	6.7

図Ⅱ.9.2 自席の運用状況

テレワークの運用状況（Q19,20）

- ・テレワーク制度の採用率は20％以下である。
- ・カフェ等でのＰＣ作業をよく見かけるが、実際のテレワーク利用率は10％程度である。

	TOTAL	採用している	採用していない	わからない
テレワークの採用状況	3316	638	2163	515
	100.0	19.2	65.2	15.5

	TOTAL	利用している	利用していない
テレワークの利用状況	638	357	281
	100.0	56.0	44.0

図Ⅱ.9.3 テレワークの運用状況

フレックスタイム制度の運用状況（Q21,22）

- ・多様な働き方を支援するフレックスタイムの採用率は30％超である。
- ・全回答者の20％弱がフレックスタイムを利用している。

	TOTAL	採用している	採用していない	わからない
フレックスタイムの採用状況	3316	1049	2009	258
	100.0	31.6	60.6	7.8

	TOTAL	利用している	利用していない
フレックスタイムの利用状況	1049	600	449
	100.0	57.2	42.8

図Ⅱ.9.4 フレックスタイム制度の運用状況

時短制度の運用状況（Q23,24）

- ・101名以上の企業においては短時間勤務制度は義務化となっているが、実際の制度採用は半数に留まっている。
- ・時短勤務制度を育児・介護の両面で利用しているワーカーがいる。
（今後、更なる法改正が加速と思われる。「育児・介護休業法～平成29年1月1日施行予定」）

	TOTAL	採用している	採用していない	わからない
時短勤務制度の採用状況	3316 100.0	1498 45.2	1477 44.5	341 10.3

	TOTAL	育児のための 時短勤務	介護のための 時短勤務	その他の 時短勤務	利用していない
時短勤務制度の利用状況	1498 100.0	325 21.7	191 12.8	12 0.8	1143 76.3

図Ⅱ.9.5 時短制度の運用状況

オフィスでの勤務時間（QC6、QC6×属性）

- ・60%超のオフィスワーカーは、勤務時間の大半をオフィス内で過ごしている。
- ・24%のオフィスワーカーは、オフィス内で過ごす時間は50%に満たない。

	TOTAL	勤務時間の 25%未満	勤務時間の 25%以上 50%未満	勤務時間の 50%以上 75%未満	勤務時間の 75%以上
オフィス内で過ごす時間	3316 100.0	295 8.9	501 15.1	421 12.7	2099 63.3

図Ⅱ.9.6 オフィス内で過ごす時間

Ⅲ オフィスに対するワーカーニーズと経営への貢献につながる解決課題

1.留意すべきキーワード

前頁までの、Ⅱ.調査結果では、現状オフィスの課題を、成果や意欲、価値観といった側面からみてきたが、それらも含め、様々な視点で行った集計分析の結果から得られた、今後のワークスタイル、ワークプレイスを考えていく上での留意すべきキーワードを以下に示す。

期待

- ・オフィスの改善意識は高いものの、実現は低調
- ・現在のオフィスに対する満足度は極めて低く、オフィス環境改善の余地は大きい
- ・39歳以下のワーカーはオフィスに対する意識が高くオフィスは彼らの能力発揮を支援する
- ・オリジナリティや愛着感の評価要素は、コミュニケーションスペースの充実、情報共有のしくみ、部署の配置、身体的な健康への配慮
- ・満足度の低さ、オリジナリティの欠如などが愛着感の低さにつながっている
- ・内装に対する満足度を向上させるための要素は、コミュニケーションスペースの充実、適正なゾーニング。

価値観

- ・仕事を通じてやりがいや充実感を得ることが過半数を超える
- ・達成感の共有や思いやり・信頼関係などの仕事をする上での関係性が重視されている
- ・仕事を通じた成長意欲が高い
- ・オフィスに愛着を感じているワーカーは仕事をする上での思いやりや信頼関係があると感じている

行動

- ・創造性を発揮していると思っている人の方が、仕事を通じた交流関係が広がっている
- ・創造性を発揮していると思っている人は、仕事の成果を上げている
- ・創造性の発揮を支援するオフィス環境のキーワードは、一体感・健康・楽しさ
- ・創造性の発揮を支援するオフィス環境に重要要素は、集中・働きやすさ・利便性・効率性
- ・目標達成、意欲的な取り組みを支援するオフィス環境のキーワードは、一体感・楽しさ
- ・目標達成を支援するオフィス環境に重要な要素は、安全・安心、快適、集中、働きやすさ
- ・仕事の成果やモチベーション向上のためのキーワードは、健康・楽しさ・一体感、働きやすさ・集中
- ・オフィスに愛着を感じている人の方が 仕事を通じた交流関係が広がっている

健康

- ・健康管理は直近のニーズ
- ・健康と家具の関係は注目されている
- ・健康的に働けるオフィスのための要素は、飲み物・軽食サービス、健康的な食事、仮眠、職住近接
- ・オフィスへの愛着度と快適性、健康度には相関がある
- ・ダイバシティへの提案はこれからの課題
- ・健康的に働けるオフィスは、これからのオフィスづくりに対する大きなテーマとなる。

女性活躍

- ・従業員が多い企業でオフィスで過ごす時間が多い女性若年層は環境改善意識が高い。
- ・女性は安全・快適に対する意識が高い。
- ・社内に蓄積された情報の入手においては従業員が多い事務所の女性は意識が高い。
- ・女性は家具選びにシビアである。
- ・女性の能力発揮を促すオフィス環境整備のキーワードは、健康・楽しさ・働きやすさ。

制約

- ・介護による時短勤務ワーカーが求めるものは、仕事による成功や達成感の仲間との共有。
- ・育児による時短勤務ワーカーが求めるものは、仕事を通じてやりがいや充実感を得ること。
- ・育児・介護をしている人は安全性・快適性に対する意識が低い。
- ・働き方に制約等があるワーカーは、コミュニケーションに関する不満が大きく、今後検討すべき事項となる。
- ・派遣社員、契約社員のオフィス環境に対する意識は高い。

性能

- ・オフィス環境全般に対して高評価なワーカーは、オフィスの利便性や効率性・安全性や快適性に対して重要度意識が高い。
- ・利便性や効率性が高いオフィスで働いていると認識しているワーカーは、オフィス環境全般に対して評価は高い。
- ・安全性・快適性が配慮されたオフィスで働いていると認識しているワーカーは、オフィス環境全般に対して評価は高い。
- ・大規模オフィスでは安全性・快適性を実現できている
- ・オフィスで過ごす時間が少ない人は安全性・快適性に対する意識が低い
- ・店舗などの事務所勤務の人は意識が低く、オフィスでの実現性も低い
- ・安全性、快適性に対する提案はまだ有効

環境

- ・オフィスはせまい。
- ・現在のオフィス環境は、健康・楽しさの実現度は高くない。
- ・現在のオフィス環境は、働きやすさ・一体感・集中はやや実現度が高い。
- ・経営層はオフィス内にリフレッシュできる場所を用意しているつもりでいるが、派遣を含む一般ワーカー、若年層はそう感じていなく、重要性認識についても同様。
- ・福利厚生(リフレッシュ)スペースの整備は進んでいない。
- ・書類の収納庫不足を訴えるのは稼ぎ頭。
- ・書類の収納量は未だに必要性が高い。
- ・社内の蓄積情報の活用は大きな課題。
- ・ペーパーレスへの取組み意識は、事業所種別により異なる。
- ・ペーパーレスへの取組みは、過半のワーカーが重要性を認識している

家具

- ・家具に対する満足度を向上させる場合の視点は、ダイバシティ、身体的健康への配慮、メンタルヘルスへの配慮。
- ・机のサイズは未だヒエラルキー。
- ・フリーアドレスワーカーは家具に関して無頓着。
- ・机椅子に対する重要度は高いが満足度は低い。
- ・オフィスチェアは投資対象。

ICT

- ・店舗などの事務所に勤務している従業員はAVツールへの関心が低い。
- ・企画系と専門職系はプロジェクターなどAVツールをよく活用している。
- ・経営者、役員はAVツールをほとんど活用していない。
- ・働きやすいと思っている人はAVツールを使っている。
- ・BYODの導入意欲は経営者が他より高めであるものの30%程度。
- ・BYODの導入の重要性、実現性とも低い。

知識

- ・オフィスデザインの効果に対する認識が低い

2. オフィスに対するワーカーニーズと経営への貢献につながる解決課題

オフィスに対するワーカーニーズと経営への貢献につながる解決課題について、今まで分析してきた結果を踏まえまとめている。もちろん、解決すべき課題は、ここに示したもののだけではないことは言うまでもない。「スペースやレイアウト」「家具やツール」「利便性や効率性」「安全性や快適性」といった視点からの集計結果から、物理的に解決すべき課題は多数存在することは明らかである。

これら、個々のオフィス性能に関する具体的課題を解決することは、ワーカー一人ひとりや組織が能力を十分に発揮し、彼らが企業活動としての成果を生み出すためにとても重要であり、今すぐにでも取り組むべきである。また、同時に、以下に示すマクロな視点からの十分な検証・検討が必要であるといえる。

[共感するオフィス像]

今回のアンケート調査から見てきた、多くのワーカーが求めるオフィス像のキーワードは「社員が健康的に働けるオフィス」、「仕事をするのが楽しく感じられるオフィス」「働きやすいオフィス」、「一体感・信頼関係のあるオフィス」、「自分自身を成長させられるオフィス」であり、さらに、「共感する」オフィス像と「現状」のオフィスとのギャップが大きいのは「健康的に働けるオフィス」「仕事をするのが楽しく感じられるオフィス」であった。

また、「共感する価値観が満たされることが創造性や成果の発揮につながっていく」ということも確認できた。これらの項目が満たされるオフィスは、組織としての目的を共有することで一体感や信頼関係があり、人と人との交流が活発に行われ快適で自然と歩き回りたくなるような仕掛けにあふれた働きやすい空間。なによりそこで働くことが楽しく感じられ自分自身が成長していると実感できるオフィスであるといえる。

逆説的に言えば「目的の共有・元気な挨拶・笑顔」が無い組織からはそのようなオフィスを実現することは非常に困難であると言えるのではないだろうか。

オフィスの存在意義は、メンバー相互の信頼と協力・共感によって成り立っている。安心・安全で健康的かつ楽しく働きやすい環境を整備することが、仕事に対するモチベーションアップに繋がり、結果仕事の成果をあげることになる。健康を強く意識したオフィスの環境整備及び家具什器への積極的な投資は、最終的に企業の業績向上に繋がるものであると同時に、企業イメージの向上、ブランディング効果も期待される。

[オフィスのスペースやレイアウトに関する課題]

ワーカーは個人の効率性を重視したオフィス環境感を持っている。オフィスを価値創造のシステムとしてみているのかそれとも仕事をする場所としてみているのか。この点に関して傾向がでた事はまず興味深い。ワーカーはオフィスを「仕事を行う場」としてみていると仮定できる。

設問項目においてSECIモデルに代表される気軽なコミュニケーション・グループワーク等を重要視するスコアが低いエビデンスから判断できる。高い項目は集中スペース・広さ・動線の短さ等であった。

但し、価値創造を達成しているワーカーはオフィスでの情報共有のスピード、深さを重要視する結果がみられ達成していないワーカーとのギャップも大きく、コミュニケーションマネジメントの有効性がある意味証明されている。コミュニケーションマネジメントはフォーマル・インフォーマルの側面があるが後者を行うリフレッシュ要素のあるスペースの実現度が低い結果ともなっている。

価値創造の入り口であるインフォーマルコミュニケーションを実現する場ができていないともいえるため、まだオフィス設計において課題があると考察できる。また成果についての重要性が高い事は健康が成果に相关するとワーカーも認識している。結果としては、業務に結びつく整備が重要と考察しながらも、今後、業務以外でのワーカーの満足度をどう充足するか、組織でのインフォーマルコミュニケーションの重要性を、どのようにオフィスで構築するかが論点といえる。

[家具やツールに対する期待]

ICTツールと同程度に家具への期待がある事が読み取れた。注目すべきは働く行為において切り離せないツールとなった「パソコンの配備」ともともとワーカーの身体に触れる「椅子の座り心地の良さ」が同程度の重要度であること。書類の収納場所の確保は「ペーパーレス」という世の中の風潮に対する不満が現れている。

[目標達成・創造性発揮・意欲的な取組の実現をサポートする家具やツール像]

意欲的に取り組めることと家具やツールを与えられていることには相関関係があり、家具やツールの満足度がそのまま意欲へ結びつくと考えられる。ツールにおいては「十分な配備」が、家具は「十分な広さがあり適切な高さの机」と「座り心地の良い椅子」そしてたくさんの収納量を確保できる事が求められている。

[価値観を実現する家具やツール像]

価値観の実現のために家具やツールが及ぼす影響は少ないといわざるを得ない結果となった。一般に家具やツールの決定/購入は担当部門で行われるため、オフィスにおける家具やツールは「与えられるもの」という認識が強く働いていることが想像される。

[家具やツールからみた経営への貢献に繋がる課題解決]

家具やツールという1つの側面からオフィスのことを考えると、「満足度を高める」という尺度で、瞬間的に一定の成果を生み出すことはたやすく想像できるものの、継続した成果を生み出すためには基本性能としての家具やツールのレベル（使いやすさ、広さ、高さ、座り心地）を担保しつつ、継続的に改善、改良を行うことが重要である。

利用者と購入者が違う場合においても「ワーカーの満足度の向上は成果に結びつきやすい」ということを念頭に、自社に見合った基本性能を満たした家具やツールを導入することが経営に貢献すると理解すべきである。

[家具に対する満足度が低いことに関して]

仕事に対する価値観を問う設問の中で「共感するものがない人」を除くと家具やICTツールについて現状の満足度を聞いた問では、ほとんどの項目で半数が満足しているが、椅子の座り心地と書類の収納量については3割が満足しているに過ぎない。

椅子の座り心地はそれぞれの会社内の「ヒエラルキー（役職上位者が高い（＝高性能な）椅子を使う）」が関係している部分があるので、こうした習慣からの脱却や、意識改革があれば家具の満足度を向上できるかも知れない。

[オフィスの利便性・快適性向上のための留意点]

現状オフィスにおける、利便性や快適性、成果や意欲を発揮させるオフィス性能を考える上で、留意すべき今日的課題のひとつに、BYOD（私物の情報端末を持ち込んで業務に生かす）の導入の遅れがある。

「企業がモバイルデバイスを配布するのではなく、個人が持っているモバイルデバイスを仕事でも使おう」というBYODでは、企業側にとってはデバイス配布の手間がなくなるメリット、ワーカーにとっては2台持ちする必要がなくなるメリットがある。ただし、個人利用用途と業務用途の分け方の課題、アドレス帳やカレンダーを共有することで情報が流出してしまう可能性など、検討課題は山積している。BYODの導入においてはこれらのリスクを回避する仕組みや機能を整備する必要がある。

一方、スマートフォンの急激な普及により会社の中で自分のスマートフォンで調べものをしたり、仕事の電話を自分のスマートフォンからかけているケースはすでに「BYOD」が実施されていることになり野放しになっているケースもあるのが実態といえる。

BYODをマネジメントする上では「使用者の行動を縛る」という対策に傾きがちなが、モバイルデバイスを活用したマネジメントシステムをしっかりと導入する事で、先に懸念したリスク回避は可能になると考えられる。むしろBYODの導入を積極的に検討する事を働きかける事が企業全体のセキュリティに問題がないかを見直すきっかけになり、ひいては経営への貢献の一端になるものと考えられる。

[オフィス環境に対する期待]

仕事に対し成果をあげる、あるいは、仕事に対する意欲を向上させるために、オフィス環境に対するワーカーの期待は高い。しかしながら、現状のオフィス環境に対する満足度は極めて低く、スペースやレイアウト、家具やツール、利便性や効率性、安全性や快適性に関する重要度と現状オフィスにおける実現度から見ても、現状のオフィス環境には多くの課題があることが分かる。

現状のオフィスに対する満足度は、総じて低いものの、チームや組織の目標達成に貢献している、創造性を発揮している、仕事に意欲的に取り組んでいるワーカーと、全回答者とを比較すると、前者の評価は10%程度あるいは、それ以上高く評価している。

これらのことから、オフィス環境以外にも多くの要因はあるものの、オフィス環境の状態が、仕事に対する意欲や成果に何らかの影響を与えているものと考えられ、オフィスへの期待と共感するオフィス像から、「社員が健康的に働けるオフィス」「仕事をするのが、楽しく感じられるオフィス」「働きやすいオフィス」がオフィス環境整備上の重要なテーマであることが指摘できる。

[目標達成・創造性発揮・意欲的な取り組みを実現するオフィス環境]

意欲的に業務に取り組み、創造性を発揮させ、チームや組織の成果の達成に貢献していく上で、オフィス環境の果たす役割は小さくはなく、現状のオフィスでの、成果の達成、創造性の発揮、意欲的な取り組みを支援する環境要件として「メンバー相互の信頼関係や協力関係のあるオフィス」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス」「仕事をするのが楽しく感じられるオフィス」そして「安全・安心なオフィス」が、オフィス環境整備上の重要なテーマであり、安心して働ける安全性という基本的な性能を有し、メンバー相互が信頼や協力関係のもと、一体感を感じながら働くことのできるオフィスといったものが、目標達成・創造性発揮・意欲的な取り組みを実現するオフィス環境のひとつの姿といえよう。

[価値観を実現するオフィス環境]

ワーカーが仕事をする上で思い描いている、共通する価値観は「仕事による成功や達成感を、仲間と共有する」「仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある」「仕事を通じて、やりがいや充実感を感じる」が上位を占める。

達成感の共有や信頼関係の醸成、やりがいや充実感の獲得をサポートするためのオフィス環境整備上の重要なテーマは、「安全・安心」「メンバー相互の信頼関係や協力関係」「社員同士が一体感を感じながら働ける」「働きやすい」であり、安全で安心して働け、仕事やりやすいという基本的な性能を有し、メンバー相互が信頼や協力関係のもと、一体感を感じながら働くことのできるオフィスといったものが、共通する価値観を実現するオフィス環境のひとつの姿といえ、これは目標達成・創造性発揮・意欲的な取り組みを促すオフィス像と共通している。

[オフィス環境を見直す視点]

今回の調査分析から実感する重要な文脈は「安全で安心して働け、仕事やりやすいという基本的な性能を有し、メンバー相互が信頼や協力関係のもと、一体感を感じながら健康的に働くことで、仕事をするのが楽しく感じられる」オフィスでの活動では、価値観が共有され、その結果同一の目標に向かうことで、個々の能力や創造性が発揮され、より高い成果を生み出すことが可能ということである。そして、生み出された高い成果により、モチベーションが高まり、更なる意欲的な活動へとつなげることが可能ということである。そして、そのためのワークスタイルのひとつは、「働く場所や時間に縛られない」働き方である。その時ワーカーは仕事の成果を重視し、生活とのバランスを取りながら活動し、個々の能力、チームの能力を発揮し、意欲的に取り組むことができる。

それぞれの企業、オフィスにより具体的な改善施策に違いはあるが、「安全・安心で働きやすいのか」「信頼関係・一体感は醸成されるのか」「健康的に働けるのか」「仕事を楽しく感じながら働けるのか」が、今後のオフィス環境（への投資）の重要な視点であり、現状のオフィス環境を見直す視点であるといえる。もちろん、オフィスの運用には十分な配慮と準備が必要となる。

[日本のオフィスは未だ「発展途上」 ～ 創造性の発揮を喚起する継続的な活動の必要性]

「クリエイティブ・オフィス運動」が始まって10年が経過しようとする現在、そうしたオフィスづくりに対する提案手法は当業界内で定着した感がある。昨今ではクリエイティビティをさらに高めることを目的として「オープン・イノベーション」や「働き方改革」といったキーワードが盛んに使われるようになっている。しかしながら、今回の調査の結果を見ると、新たな価値を生み出すための方策ではなく、既存の価値を使う仕事を効率的に行いたい、今より楽になりたい、もっと快適な状態で働きたい、といったきわめてプリミティブな事項を要求する回答者が多くを占めていたように思われる。

「クリエイティブ・オフィス」にせよ「オープン・イノベーション」にせよ、現時点でこれらは、先端を行く企業、あるいはごく限られた職種の働き手に対してのみ有効なソリューションだということを調査結果から再認識させられた。今後も数多くの業種と数多くの企業に向けて、創造性のさらなる発揮を喚起する活動を継続していかなければならない。

共感するワークスタイルとして抽出された「仕事の成果を重視し、働く場所や時間に縛られずに働くことができる」働き方や、「心身ともに健康的に働ける」オフィスの実現により、ワーカー一人ひとりの能力の発揮を促し、チームとしての成果に結びつけ、結果として企業経営への貢献に繋がるワークプレイスの普及・啓発に、努力を惜しんではいけない。

おわりに

この調査報告書では、「現状オフィスの性能」「成果・意欲との関係」「価値観との関係性」「共感するワークスタイル・ワークプレイス像」という視点から、現状オフィスや、これからのオフィスに対するワーカーの認識やニーズについて評価を行っている。そのため、やや偏りのある見方による評価結果といえるかもしれない。しかし、必ずしも先端的な取組みを行っているとはいえないオフィスで活動している、現実のワーカーの思いや、オフィスの実像のひとつの断面であることは間違いのない事実である。

本調査報告書と、この報告書とともに提供される集計データを、数多くの企業、ワーカーに向けたワークスタイル・ワークプレイス変革を喚起するための、会員各位の継続的な活動に活用いただければ、幸いである。

顧客政策委員会 委員長

一般社団法人 日本オフィス家具協会 顧客政策委員会

委員長	山田 匡通（株式会社イトーキ）
委員	大野 敏幸（プラス株式会社）
委員	菊池 繁治（株式会社岡村製作所）
委員	北野 秀和（金剛株式会社）
委員	高崎 恵二（株式会社内田洋行）
委員	中村 健児（株式会社くろがね工作所）
委員	福井 正浩（コクヨ株式会社）
委員	横山 洋仁（株式会社ナイキ）
委員	若泉 睦雄（山金工業株式会社）

ワーキンググループ

委員長補佐	重綱 鉄哉（株式会社イトーキ）
サブリーダー	一色 俊秀（コクヨ株式会社）
サブリーダー	二之湯弘章（株式会社イトーキ）
メンバー	稲葉 博和（株式会社内田洋行）
メンバー	木村 稔（株式会社ナイキ）
メンバー	鯨井 康志（株式会社岡村製作所）
メンバー	田中 延尚（プラス株式会社）
メンバー	若泉 睦雄（山金工業株式会社）

（順不同、敬称略）

JOIFA 一般社団法人日本オフィス家具協会